

文 学 部

履 修 要 項

昭 和 57 年 度

駒 澤 大 學

学 年 暦

前 期

- 4月8日(木) 祝尊降誕会
 10日(土) 入学式(学部・短大・大学院)
 12日(月) } 新入生オリエンテーション
 14日(水)
 13日(火) } 在校生成績発表
 (学部・短大・大学院)
 14日(水)
 15日(木) } 授業開始
 } 在校生成績質疑応答
 17日(土)
 21日(水) } 1年次生単位履修届受付
 22日(木)
 23日(金) } 2・3・4年次生
 29日(木) 天皇誕生日 } 単位履修届受付
 30日(金) } (学部により受
 } 付日が異なる)
- 5月1日(土) 祝禱日
 3日(月) 憲法記念日
 4日(火) 研修日(全学休業)
 5日(水) こどもの日
 19日(水) } 2・3・4年次生健康診断
 28日(金)
- 6月1日(火) 祝禱日
 10日(木) 卒業論文論題提出〆切
- 7月1日(木) 祝禱日
 12日(月) } 中間試験
 15日(木) 盂蘭盆会 } (授業平常通り)
 17日(土)
 19日(月) } 前期定期試験(前期終了科目)
 (授業休講)
 20日(火)
 21日(水) } 夏期休暇第1日

後 期

- 9月13日(月) 授業再開
 14日(火) 前期定期試験欠試届(追試申込)提出〆切
 15日(水) 敬老の日
 16日(木) 外国語指定届受付(22日まで)
 (仏教・文(除英米文)・法学部
 及び短大国文の1年次生, 経
 済学部の2年次生)
 16日(木) } 前期定期試験成績発表および
 } 再試験申込受付
 17日(金)
 23日(木) } 秋分の日
 27日(月) } 前期追・再試験(授業平常通
 } り)
 28日(火)

29日(水) 両祖忌

- 10月1日(金) } 祝禱日 } 社会学科(1年次生)・
 } } 歴史学科(2年次生)・
 } } 専攻コース指定届受付
 2日(土)
 4日(月) } 達磨忌 } 1年次生健康診断
 5日(火)
 7日(木)
 10日(日) 体育の日
 15日(金) 第100回開校記念日
 16日(土) (全学休業)
 19日(火) } 前期追・再試験成績発表
 20日(水)
- 11月1日(月) 祝禱日
 3日(水) 文化の日
 21日(日) 登山禪師降誕会
 23日(火) 勤労感謝の日
- 12月1日(水) 祝禱日 } 転部科試験願書受付
 } }
 6日(月) 編入学願書受付(14日まで)
 8日(水) 成道会
 10日(金) 卒業論文提出〆切(正午)
 10日(金) 転部科試験
 20日(月) 冬期休暇第1日
 21日(火) 編入学試験

昭和58年

- 1月10日(月) 授業再開
 15日(土) 成人の日
 17日(月) } 定期試験(専門・基礎・教職
 } } 科目)
 }
 27日(木) 道元禪師降誕会
 26日(水)
 28日(金)
 2月1日(火) 祝禱日 } 定期試験(一般・外
 } } 国語・体育科目)
 5日(土)
 7日(月) 定期試験欠試届提出〆切
 8日(火) 卒業論文口頭試問(後日掲
 示発表)
 11日(金) 建国記念の日
 15日(火) 涅槃会
 21日(月) } 学部4年次生・短大生成績発
 } } 表および追・再試験申込受付
 22日(火)
 28日(月) } 学部4年次生・短大
 } } 生追・再試験, 学部
 3月1日(火) 祝禱日 } 1・2・3年次生追試
 } } 験
 5日(土)
 19日(土) 卒業生名簿発表
 21日(月) 春分の日
 25日(金) 卒業式・大学院修了式

目 次

I	単位制と学年制	(2)
	1. 単位と学年	(2)
	2. 授業科目の単位計算	(2)
	3. 授業科目の区分	(2)
II	卒業に必要な単位数と卒業論文	(3)
	1. 卒業に必要な単位数	(3)
	2. 卒業論文	(8)
	3. 学 士 号	(8)
III	授業科目の履修方法	(9)
	1. 一般教育科目の履修方法	(9)
	2. 外国語科目の履修方法	(11)
	3. 保健体育科目の履修方法	(14)
	4. 基礎教育科目の履修方法	(16)
	5. 専門教育科目の履修方法	(16)
	6. 随意科目の履修方法	(37)
	7. 再履修科目の履修方法	(37)
	※コード番号について	(38)
IV	履修科目の登録(履修届)とその作成順序	(41)
	1. 履修科目の登録	(41)
	2. 履修届記入上の注意	(42)
	3. 履修届の作成順序	(43)
V	試験および成績評価	(45)
	1. 定期試験	(45)
	2. 中間試験	(45)
	3. 追・再試験	(45)
	4. 成績評価・単位認定	(46)
	5. 進級基準	(46)
	6. 受験者心得	(46)
VI	クラス制およびクラス主任	(48)
VII	教職課程・資格講座	(48)
VIII	事務取り扱いについて	(49)
IX	届書・願書について	(51)
X	各種証明書取扱い窓口	(52)
	講 義 内 容	(55)

I 単位制と学年制

1. 単位と学年

授業科目の履修は「大学設置基準」に基づく単位制によって行う。単位制とは、授業科目を履修することにより、一定の基準によって与えられている各授業科目の単位を修得することである。従って、各入学年度の履修要項に定められている卒業に必要な単位を4年以上（7カ年をこえてはならない）の在学期間中に修得すれば卒業の資格が得られる。

しかしながら、本学では単位修得を体系的かつ合理的に進めるために、各年次において必修すべき科目と選択すべき科目が配当されているから、単位制と学年制の総合された学修制度といえる。

2. 授業科目の単位計算

授業科目の単位数は次のような基準によって定められている。

1 単位とは、1 科目につき45時間を通じて行う学修活動のことである。この45時間の学修活動は、教室における授業時間と教室外で学生各自が自主的に行う自習時間からなっていて、授業時間と自習時間の割合は授業科目によって異なる。

3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

1. 一般教育科目（人文分野・社会分野・自然分野）
2. 外国語科目（第1外国語・第2外国語）
3. 保健体育科目（講義・実技）
4. 基礎教育科目（必修科目）
5. 専門教育科目（必修科目・選択科目）
6. 随意科目（卒業に必要な単位に含まれない科目）

(a) 必修科目……必ず履修しなければならない科目

(b) 選択必修科目……数科目の中から所定の科目数または単位数を選び、必ず履修しなければならない科目

(c) 選択科目……自由に選び履修できる科目

Ⅱ 卒業に必要な単位数と卒業論文

1. 卒業に必要な単位数

国文学科

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	} 128以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	12	36	72	
	選択		28		
	卒論(必修)		8		

英米文学科

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	} 130以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	5	10	14	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		5	12	12	
専門教育科目	必修	6	24	72	
	選択		40		
	卒論(必修)		8		

地理学科

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		2	8	8	
専門教育科目	必修	6	16	72	
	選択		48		
	卒論(必修)		8		

歴史学科

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	8	32	72	
	選択		32		
	卒論(必修)		8		

社会学科

社会学コース

A 57年度入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	12	48	72	
	選択		16		
	卒論(必修)		8		

B 56年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	132以上 (128)
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		3(2)	12(8)	12(8)	
専門教育科目	必修	8	32	72	
	選択		32		
	卒論(必修)		8		

※ () 内の数字は昭和53年度以前の入学生に適用

社会福祉コース

A 57年度入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	12	48	72	
	選択		16		
	卒論(必修)		8		

B 56年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	132以上 (128)
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	4	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		3(2)	12(8)	12(8)	
専門教育科目	必修	9(10)	36(40)	72	
	選択		28(24)		
	卒論(必修)		8		

※ () 内の数字は昭和53年度以前の入学生に適用。

心理学コース

A 57年度入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	8	28	72	
	選択		36		
	卒論(必修)		8		

B 56年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	132以上 (128)
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		3(2)	12(8)	12(8)	
専門教育科目	必修	11	38	72	
	選択	1	26		
	卒論(必修)		8		

※ () 内の数字は昭和53年度以前の入学生に適用。

2. 卒業論文

イ. 4年次で卒業論文（1部）を提出し、その審査に合格しなければ卒業することができない。審査に合格した者には8単位を与える。

ロ. 論題提出

あらかじめ自己の研究目標をたて、2年次以降適当な選択科目を履修し、4年次において、学部所属の教員に自己の研究概要を述べ、指導教授を決定し、その承認を得て、指定の期日6月10日（木）までに卒業論文の論題を届け出なければならない。

ハ. 論文作成について

- (1) 論文作成にあたっては常に指導教授に相談して、その指導を受けなければならない。
- (2) 用紙は大学所定の論文用紙を使用すること。
- (3) 論文の枚数は別に指示する。
- (4) 表紙は指定のものを使用し、論文を二つ折りして右とじとする（英米文学科・地理学科を除く）。
- (5) 上記の規定以外のものは受付けない。

ニ. 論文の提出期限 12月10日（金）正午まで

論文は12月初旬までに完成し、誤字、脱字、内容について点検してから期日までに教務部に提出すること。

ホ. 論文の審査について

論文は指導教授と他に定められた1名の指定教授とによって2月中旬までに審査され、論文の内容について口頭試問を行ったのち合格を判定する。

3. 学 士 号

大学に4年以上在学（7カ年をこえてはならない）し、卒業に必要な単位を修得した者には卒業証書を授与し、次の称号が与えられる。

国文学科	}	文学士
英米文学科		
地理学科		
歴史学科		
社会学科		

Ⅲ 授業科目の履修方法

※ 北海道教養部では授業科目等に多少の変更を生ずる場合がある

- イ. 授業科目は、教授会の定めるところに従い各学年に配分する。ただし、随意科目はこの限りではない。
- ロ. 授業時間表の備考欄に番号が指定された科目は本人の学生番号のクラスで履修すること。(再履修または指定された学年で履修できなかった場合はこのかぎりではない)
- ハ. 各学年に配当された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に配当された授業科目を上級学年において履修することはさしつかえない。
- ニ. 各学年の履修科目数の最低及び最高限度は、教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は、再度履修しても認定されない。

1. 一般教育科目の履修方法

- イ. 一般教育科目は1年次および2年次の2年間に人文分野・社会分野・自然分野の各分野から各学科の定められた科目数・単位数を履修しなければならない。
ただし、1年次において定められた科目数・単位数を履修できる学科もある。
- ロ. 各学科「宗教学Ⅰ」を1年次「宗教学Ⅱ」を2年次で必修とする。
- ハ. 各学科2年次までに所定の科目数・単位数を修得していなければならない。

一般教育科目の卒業所要単位数

学科 \ 分野	人文分野	社会分野	自然分野	計
国文学科	16 (4)	8 (2)	4 (1)	28 (7)
英米文学科	16 (4)	8 (2)	4 (1)	28 (7)
地理学科	12 (3)	12 (3)	8 (2)	32 (8)
歴史学科	16 (4)	12 (3)	8 (2)	36 (9)
社会科学	12 (3)	12 (3)	8 (2)	32 (8)

※ () 内の数字は科目数

一般教育科目の授業科目

学科	分野	人文分野			社会分野			自然分野		
		授業科目	単位	修得単位	授業科目	単位	修得単位	授業科目	単位	修得単位
国文学科	宗教学 I (1年次必修) II (2年次必修) 宗教学論 哲学史 芸術 (日本・西洋)	「宗教学 I」を4単位必修	法学 (日本国憲法を2単位含む)	4	2科目選択 8単位必修	自然科学概論	4	1科目選択 4単位必修		
		「宗教学 II」を4単位必修	経済学	4			心理学		4	
		「宗教学 III」を4単位必修	社会学	4			人類学		4	
		「宗教学 IV」を4単位必修	地理学	4						
英米文学科	宗教学 I (1年次必修) II (2年次必修) 宗教学論 哲学史 芸術 (日本・西洋)	「宗教学 I」を4単位必修	法学 (日本国憲法を2単位含む)	4	2科目選択 8単位必修	自然科学概論	4	1科目選択 4単位必修		
		「宗教学 II」を4単位必修	経済学	4			心理学		4	
		「宗教学 III」を4単位必修	社会学	4			人類学		4	
		「宗教学 IV」を4単位必修	地理学	4						
地理学科	宗教学 I (1年次必修) II (2年次必修) 宗教学論 哲学史 芸術 (日本・西洋)	「宗教学 I」を3単位必修	法学 (日本国憲法を2単位含む)	4	3科目選択 12単位必修	数物理学	4	2科目選択 8単位必修		
		「宗教学 II」を3単位必修	経済学	4			化学		4	
		「宗教学 III」を3単位必修	社会学	4			生物学		4	
		「宗教学 IV」を3単位必修	文化人類学	4						
歴史学科	宗教学 I (1年次必修) II (2年次必修) 宗教学論 哲学史 芸術 (日本・西洋)	「宗教学 I」を4単位必修	法学 (日本国憲法を2単位含む)	4	3科目選択 12単位必修	自然科学概論	4	2科目選択 8単位必修		
		「宗教学 II」を4単位必修	経済学	4			地学		4	
		「宗教学 III」を4単位必修	社会学	4			心理学		4	
		「宗教学 IV」を4単位必修	地理学	4			人類学		4	
社会学科	宗教学 I (1年次必修) II (2年次必修) 宗教学論 哲学史 芸術 (日本・西洋)	「宗教学 I」を3単位必修	法学 (日本国憲法を2単位含む)	4	3科目選択 12単位必修	自然科学概論	4	2科目選択 8単位必修		
		「宗教学 II」を3単位必修	政治学	4			生物学		4	
		「宗教学 III」を3単位必修	経済学	4			地学		4	
		「宗教学 IV」を3単位必修	地理学	4			人類学		4	

教員免許状を取得しようとするものは「法学憲法」を必修とする。

※ 国文学科の「論理学」は56年度以前入学生は1年次必修とする。
57年度入学生は選択必修とする。

※ 「宗教学 I」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の学生手帳を参照）で行なう。

2. 外国語科目の履修方法

外国語科目は英語・独語・仏語・中国語・スペイン語・ロシア語の6カ国語が開講されている。これらのうち英語と入学手続の際に指定した外国語の2カ国語を履修することになり、その2カ国語を1年次および2年次（英米文学科は3年次）において必要な科目数・単位数を必ず履修しなければならない。

第1 外国語

学 科 年 次	国文学科		英米文学科		地理学科		歴史学科		社会学科	
	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位
1 年 次	2科目	4	2科目	4	2科目	4	2科目	4	2科目	4
2 年 次	2科目	4	2科目	4	2科目	4	2科目	4	2科目	4
3 年 次	—	—	1科目	2	—	—	—	—	—	—

第2 外国語

学 科 年 次	国文学科		英米文学科		地理学科		歴史学科		社会学科	
	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位
1 年 次	2科目	4	2科目	4	2科目	4	2科目	4	2科目	4

1 年次の履修

6カ国語のうち英語1G・1Rの2科目と入学手続の際に指定した外国語1G・1Rの2科目で4科目8単位を必修とする。

授業科目	単位	科目内容	履修科目数	備考
英語 1G	2	文 法	1G・1R 2科目を必修とする。ただし英会話もしくは英語LLで2科目中の1科目を代替できる(ただし英米文学科は英会話に代替できない)	LL (ランゲージ・ラボラトリー)
英語 1R	2	講 読		
英 会 話	2			
英語 LL	2	視聴覚教材を使用した語学教育		
独 語 1G	2	文 法	5カ国語のうちから入学手続の際指定した1カ国語1G・1Rの2科目を必修すること	
独 語 1R	2	講 読		
仏 語 1G	2	文 法		
仏 語 1R	2	講 読		
中国語 1G	2	文 法		
中国語 1R	2	講 読		
スペイン語 1G	2	文 法		
スペイン語 1R	2	講 読		
ロシア語 1G	2	文 法		
ロシア語 1R	2	講 読		

※「英語1R」の授業は月曜日に玉川校舎(道順は学生部で配布の学生手帳を参照)で行う。

2年次の履修

1年次で履修の2カ国語のうち、いずれかを第1外国語とし2AⅠ・2AⅡの2科目4単位を必修すること。ただし英米文学科は英語を第1外国語とする。

授業科目	単位	科目内容	授業科目	単位	科目内容
英語 2AⅠ	2	講読	中国語 2AⅠ	2	講読
〃 2AⅡ	2	〃	〃 2AⅡ	2	〃
独語 2AⅠ	2	〃	スペイン語 2AⅠ	2	〃
〃 2AⅡ	2	〃	〃 2AⅡ	2	〃
仏語 2AⅠ	2	〃	ロシア語 2AⅠ	2	〃
〃 2AⅡ	2	〃	〃 2AⅡ	2	〃

3年次の履修（英米文学科のみ）

授業科目	単位	科目内容	履修科目数
英語 3A	2	講読	3Aを1科目必修

※「英語3A」の授業は学生番号によりクラス編成されているので、各自の学生番号に該当するクラスで履修すること。ただし所定のクラスで履修不可能な場合は、担当教員に申し出ること。

外国語科目履修上の注意

- イ. 外国語科目の組分けは、すべて授業時間表で指定するので、学生は自己の学科・学生番号（下4ケタ）により該当するクラスを履修すること。
- ロ. 1年次履修の外国語（英語と他の1カ国語）の中から第1外国語、第2外国語の別を学生自身が指定し、9月下旬に登録する。したがって1年次生は前期の授業で充分考慮の上登録すること。なお、英米文学科は英語を第1外国語とすること。
- ハ. 1年次生で英語2科目のうち、1科目を英語LLで代替しようとする者は、受講人員に制限があるため、単位履修届提出前にLL事務室まで申し出ること。（7号館4階）
- ニ. なお一層の語学教育を望む学生は、外国語随意科目を開講しているので進んで履修されたい。
- ホ. 不合格科目の再履修については、別に定める。
- ヘ. 2年次（英米文学科は3年次）までに所定の単位を修得していなければならない。

3. 保健体育科目の履修方法

講義と実技に分かれ、1年次に2科目4単位を必修とする。

	授業科目	単位	備考
講義	保健体育理論	2	前期または後期
実技	体育実技	2	

- イ. 講義の前期・後期の別は授業時間表で指定する。
- ロ. 講義、実技とも1年次で不合格となった者は「再履修クラス」を履修し単位を修得する。
- ハ. 講義、実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。
- ニ. 講義、実技とも月曜日に玉川校舎で授業を行う。

体育実技履修上の注意

イ. 授業について

前期・後期ともそれぞれ履修時間に含まれている数種目の中から希望する種目を選択し受講する。ただし、前期と後期は同一種目を選択することはできない。

(a) 種目選択届

最初の授業時間に、前期・後期ともつぎの履修時間に含まれている数種目の中から、決定するので、必ず出席すること。

(b) 単位履修届

教務部に提出する「単位履修届」の科目名・担任名は授業時間表による科目名・担任名を記入すること。選択した種目名また種目の担任名ではない。

月・1 (禅・仏・国)			月・2 (英・地)			月・3 (歴・社)		
ソ	フ	太田	ソ	フ	太田	ソ	フ	太田
ハ	ン	村松	ハ	ン	村松	ハ	ン	浅野
卓	球	長浜	卓	球	●牧野	卓	球	長浜
庭	球	浅野	庭	球	浅野	庭	球	●牧野
陸	上	箱岡	ウ	エ	秋田	ウ	エ	宮沢
ウ	エ	秋田	ト	レ	空	ト	レ	空
空	手	高橋	柔	道	光永	柔	道	光永
柔	道	●光永						

再履修クラス (2年次生以上の再履修者のクラスで授業は本校で行う)

火・3	水・1	水・2
球技 ●宮沢	球技 ●原山	球技 ●原山
剣道 上山	剣道 上山	剣道 上山

※●印は講座主任

ロ. 単位の認定について

1年間の授業を通して2単位を認定する。前期と後期は種目選択の上で便宜上分けられるもので、あくまでも1年間の授業を通して単位を認定する。

ハ. 評価について

週一回の授業を真剣に受講することが、実技の重要な意味であることから、本学においては出席を評価の上で最も優先させている。この基盤の上に立って前期・後期それぞれの種目において行われる実技試験の点数、および平常の授業における態度が加味されて、実技の評価が行われる。

ニ. 校外学習

夏と冬の二回にわたって実施する。参加は希望制であり人数の制限がある。これは単位認定とは直接関係のない保健体育部主催の行事であるが、実技を受講している学生が参加した場合には評価の上で幾分か加味される。

ホ. 見学について

身体の具合が悪い場合は、担任教員にその旨を報告し、授業を真面目に見学すること。

※長期見学者：前期または後期をほとんどあるいは全部見学せざるを得ない精神および身体上の故障や病気を持っている場合は長期見学者として取り扱い毎時間の真面目な見学をもって出席に代える。また、実技テストは行わずレポートをもってこれに代える。レポートの課題については担任教員より指示を受けること。

ヘ. 服装・更衣について

種目毎に、それぞれの担任教員の指示に従い、指定された場所以外では着替えないこと。

ト. 盗難・事故・負傷について

(a) 盗 難：実技の受講日には貴重品は持参しないこと。やむを得ず持参した場合には担任教員に指示を受けること。最近、特に実技の時間を狙った常習者が横行しているので充分注意してほしい。

(b) 事故・負傷：実技の時間に事故や負傷が発生した場合には直ちに担任教員に報告し適切な指示を受けること。

チ. 掲示板の利用について

実技上の連絡は、玉川校舎事務室前の掲示板および玉川校舎入口の黒板に掲示するので、平常よく見ておくこと。

4. 基礎教育科目（必修）の履修方法

専門教育の基礎となる授業科目で各年次別履修順序は、次表のとおりである。

学科 年次	国文学科		英米文学科		地理学科		歴史学科		社会学科	
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
1 年 次	基礎国語学	4	英文学概論または米文学概論	4	基礎地学 (自然地理学)	4	基礎歴史学	4	社会学概論	4
	基礎国文学	4	英語演習ⅠA (文法, 作文)	2	基礎地理学 (人文地理学)	4			社会福祉概論	4
	基礎中国文学	4	英語演習ⅠB (会話)	2					心理学概論	4
2 年 次			英語演習ⅡA (文法, 作文)	2						
			英語演習ⅡB (会話)	2						

※社会学科, 54年度入学生より社会福祉概論を基礎教育科目とする。

5. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は必修科目と選択科目とに分かれ、それぞれ定められた単位を修得することになっている。履修する授業科目の選択については専門科目全般にわたって充分検討して履修すること。なお一度単位を修得した授業科目については再度履修することはできない。

専門教育科目の卒業所要単位数

	必修科目	選択科目	卒業論文	計
国文学科	36 (12)	28	8	72
英米文学科	24 (6)	40	8	72
地理学科	16 (6)	48	8	72
歴史学科	32 (8)	32	8	72
社会学科	A. 57年度入学生適用			
	社 48 (12)	16	8	72
	福 48 (12)	16	8	72
	心 28 (8)	36	8	72
	B. 56年度以前入学生適用			
	社 32 (8)	32	8	72
	福 36 (9)	28	8	72
心 38 (11)	26	8	72	

(注意) イ. ()内の数字は科目数

ロ. 社会学科福祉コースで、昭和53年度以前の入学生は10科目 40単位を必修とする。

国文学科

必修科目 (44単位)

1 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
国文学講読Ⅰ	2		国語学演習Ⅰ	2	1科目2単位選択必修 原則として卒業論文 に関連のある分野の 演習を履修すること
			国文学演習Ⅰ(上代)	2	
2 年 次 必 修			国文学演習Ⅰ(中古)	2	
国語学概論	4		国文学演習Ⅰ(中世)	2	
国文学概論	4		国文学演習Ⅰ(近世)	2	
国文学講読Ⅱ	2		国文学演習Ⅰ(近代)	2	
中国文学講読	2		4 年 次 必 修		
3 年 次 必 修			国 文 学 研 究	4	1科目4単位選択必修 (3年次で必修または 選択として履修した 科目以外を履修する)
国文学史Ⅰ	4	1科目 4単位 必修	国 文 学 史Ⅰ	4	
国文学史Ⅱ	4		国 文 学 史Ⅱ	4	
国文学史Ⅲ	4		国 文 学 史Ⅲ	4	
国文学史Ⅳ	4		国 文 学 史Ⅳ	4	
国文学史Ⅴ	4		国 文 学 史Ⅴ	4	
国語学研究	4		国語学演習Ⅱ	2	1科目2単位選択必修 (卒業論文に関連のあ る分野の演習を履修 すること)
国文学講読Ⅲ	2		国文学演習Ⅱ	2	
			卒 業 論 文	8	8頁参照

(注意) 3年次で「国文学演習Ⅰ」を履修した者は原則として4年次も「国文学演習Ⅱ」を、また3年次で「国語学演習Ⅰ」を履修した者は4年次でも「国語学演習Ⅱ」を履修すること。

「国文学史」の講義内容はⅠ(上代)・Ⅱ(中古)・Ⅲ(中世)・Ⅳ(近世)・Ⅴ(近代)とする。

選択科目 (28単位以上) (2年次以降の履修科目)

授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
言語学概論	4		国文学特講 I	4	旧国文学特講
国語史	4	休講 } 隔年開講	国文学特講 II	4	
国語学史	4		国文学特講 III	4	
上代文学	4		中国文学	4	
中古文学	4		東洋思想研究	4	
中世文学	4		中国文学演習	4	
近世文学	4		現代美術	4	
近代文学	4		書道実習 I	4	
外国文学	4	休講	書道実習 II	4	
文学概論	4		美術史概説	4	
中国文学概論	4		美術史	2	
有職故実	4		国文学史 I	4	選択科目として履修を希望する者は必修とした科目以外を3年次または4年次で履修すること
書道史	2		国文学史 II	4	
仏教概論	4		国文学史 III	4	
日本史概説 I	4	古代, 中世	国文学史 IV	4	
日本史概説 II	4	近世, 近代	国文学史 V	4	
日本文化史 I	4	休講 } 隔年開講	編集実務	2	
日本文化史 II	4		日本民俗学	4	

(注意) 「国文学史」の講義内容は I (上代)・II (中古)・III (中世)・IV (近世)・V (近代) とする。

英米文学科

必修科目 (32単位)

2年次必修			2年次または3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
英語学概論	4		文学史 (英文学史Ⅰ 英文学史Ⅱ 米文学史)	4	1科目選 択必修
3年次必修					
英語学研究	4		3年次または4年次必修		
英語史	4		批評論研究	4	
4年次必修			シェイクスピア	4	
卒業論文	8	8頁参照			

選択科目 (40単位以上)

授業科目	単位	履修年次	備考	授業科目	単位	履修年次	備考
英文学史Ⅰ	4	2・3・4	必修とした科目 外を履修すること	米文学特講Ⅴ (批評)	4	3・4	
英文学史Ⅱ	4	2・3・4		米文学特講Ⅵ (演劇)	4	3・4	
米文学史	4	2・3・4		英米語学演習 (英語学)	4	3・4	
英米時文研究	4	2・3・4		英米語学演習 (英語史)	4	3・4	
英文学特講Ⅰ (英文学16, 17c.)	4	3・4		英米語学演習 (英文法)	4	3・4	
英文学特講Ⅱ (英文学18c.)	4	3・4		英米語学演習 (英作文)	4	3・4	
英文学特講Ⅲ (詩19, 20c.)	4	2・3・4		英米語学演習 (英会話)	2	3・4	
英文学特講Ⅳ (小説Ⅰ19c.)	4	2・3・4		英文学演習Ⅰ (中世)	4	3・4	
英文学特講Ⅴ (小説Ⅱ20c.)	4	2・3・4		英文学演習Ⅱ (英文学16c.)	4	3・4	
英文学特講Ⅵ (批評19, 20c.)	4	3・4		英文学演習Ⅲ (英文学17c.)	4	3・4	
英文学特講Ⅶ (演劇19, 20c.)	4	2・3・4		英文学演習Ⅳ (英文学18c.)	4	3・4	
米文学特講Ⅰ (詩)	4	2・3・4		英文学演習Ⅴ (詩19, 20c.)	4	2・3・4	
米文学特講Ⅱ (小説Ⅰ)	4	2・3・4		英文学演習Ⅵ (小説Ⅰ19c.)	4	3・4	
米文学特講Ⅲ (小説Ⅱ)	4	2・3・4		英文学演習Ⅶ (小説Ⅱ20c.)	4	2・3・4	
米文学特講Ⅳ (小説Ⅲ)	4	2・3・4		英文学演習Ⅷ (批評19, 20c.)	4	3・4	

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
英文学演習IX (演劇19, 20c.)	4	2・3・4		商業英語	4	3・4	
米文学演習 I (詩)	4	2・3・4		ラテン語特講	4	2・3・4	
米文学演習 II (小説 I)	4	2・3・4		外国文学	4	2・3・4	休講
米文学演習 III (小説 II)	4	3・4		日本文化史 I	4	2・3・4	休講
米文学演習 IV (小説 III)	4	2・3・4		日本文化史 II	4	2・3・4	隔年開講
米文学演習 V (批評)	4	3・4		現代美術	4	2・3・4	
米文学演習 VI (演劇)	4	3・4					

(注意) 同一科目は再度履修しても単位にはならない。

◇演習科目のとりかた

I (a) 2, 3, 4年次に演習1科目(4単位)ずつ, あわせて3科目(12単位)を極力履修すること。

(b) 2年次で履修しうる演習科目は1科目とする。

(c) 3年次で履修しうる演習科目は3科目以内とする。

(d) 4年次で履修しうる演習科目は2科目以内とする。

II (a) 各演習科目とも先着約50名で締切る。なお, 教務部に「単位履修届」を提出する前に, 受講希望の科目担任の先生に本人が直接届出て「単位履修届」に捺印を受けること。

(b) 担任の先生に届出る日・時・場所については教務部の掲示板に掲示するので注意すること。

地 理 学 科

必修科目 (24単位)

2 年 次 必 修		3 年 次 必 修		4 年 次 必 修	
授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
自然地理学実習 (地図学実習を含む)	2	野外巡検 II	2	地理学演習	4
人文地理学実習	2	地理学研究法および地理学史	4	卒業論文 (8頁参照)	8
野外巡検 I	2				

選択科目 (48単位以上)

2 年 次 選 択			3 年 次 選 択		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
日 本 地 誌 I	4		土 壤 地 理 学	4	
地 図 学 概 説	4		気 候 学	4	
経 済 地 理 学 I	4		海 洋 学 及 陸 水 学	4	
郷 土 地 理 学	4		外 国 地 誌 II	4	
地 形 学 I	4		地 形 学 II	4	
集 落 地 理 学	4		3・4 年 次 選 択		
外 国 地 誌 I	4		計 量 地 理 学	4	
交 通 地 理 学	4		日 本 地 誌 III	4	
3 年 次 選 択			外 国 地 誌 III	4	
地 球 物 理 学	4		文 化 地 理 学	4	
歴 史 地 理 学	4		都 市 地 理 学	4	
日 本 地 誌 II	4		空 中 写 真 判 読 法 及 測 量 学	4	
原 書 講 読	4		応 用 地 理 学 I	4	
人 口 地 理 学	4		応 用 地 理 学 II	4	休 講
経 済 地 理 学 II	4		地 理 学 特 講 I	2	
地 質 学	4				

(注意)(1) 上記のように学年次別に選択科目を分けてあるが、内容からみて上級学年が下級学年の科目を履修するのはさしつかえないが、下級学年が上級学年の科目を履修することはできない。

(2) 「地理学演習」および「野外巡検(I・II)」の必修科目の履修にあたっては、地理学科研究室の指示に必ず従うこと。詳細は適時教務部および地理学教室の掲示板に掲示するので注意すること。

◎測量士補資格について

地理学科の学生で、地図学概説、空中写真判読法および測量学、自然地理学実習、地理学演習を修得し、さらに地形学、地質学、地球物理学、応用地理学のうち2科目を修得した者で、測量士補の資格を希望する者は、卒業後、大学が国土地理院長に測量士補の資格が得られるよう推薦する。

また、さらに卒業後1カ年以上測量に関する実務を経験し、その資格を証する書類を申請登録すれば、測量士の資格が得られる。

歴史学科 (2年次の秋頃に各自専攻コースを届出ること)

必修科目 (40単位) (2年次以降履修)

○日本史専攻

56年度以降の入学生適用

授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
史学概論	4		東洋史概説Ⅰ(古代 中世)	4	2科目8 単位選択 必修
日本史学史	4		東洋史概説Ⅱ(近世 近代)	4	
日本史概説Ⅰ(古代 中世)	4		西洋史概説Ⅰ(古代 中世)	4	
日本史概説Ⅱ(近世 近代)	4		西洋史概説Ⅱ(近世 近代)	4	
演習Ⅰ(日本史)	4	演習Ⅰ(考 古学)で代 替えできる	考古学概説Ⅰ(日本)	4	
演習Ⅱ(日本史)	4		考古学概説Ⅱ(外国)	4	
			卒業論文	8	8頁参照

55年度以前の入学生適用

授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
史学概論	4		東洋史概説Ⅰ(古代 中世)	4	2科目8 単位選択 必修
日本史学史	4		東洋史概説Ⅱ(近世 近代)	4	
日本史概説Ⅰ(古代 中世)	4		西洋史概説Ⅰ(古代 中世)	4	
日本史概説Ⅱ(近世 近代)	4		西洋史概説Ⅱ(近世 近代)	4	
演習Ⅰ(日本史)	4	演習Ⅰ(考 古学)で代 替えできる	考古学概説Ⅰ(日本)	4	
			考古学概説Ⅱ(外国)	4	
演習Ⅱ(日本史)	4		卒業論文	8	8頁参照

○東洋史専攻

56年度以降の入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		日本史概説Ⅰ(古代 中世)	4	2科目8 単位選択 必修
東 洋 史 学 史	4		日本史概説Ⅱ(近世 近代)	4	
東洋史概説Ⅰ(古代 中世)	4		西洋史概説Ⅰ(古代 中世)	4	
東洋史概説Ⅱ(近世 近代)	4		西洋史概説Ⅱ(近世 近代)	4	
演 習 Ⅰ(東洋史)	4		考古学概説Ⅰ(日本)	4	
演 習 Ⅱ(東洋史)	4	演習Ⅱ(考 古学)で代 替えできる	考古学概説Ⅱ(外国)	4	
			卒 業 論 文	8	8頁参照

55年度以前の入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		日本史概説Ⅰ(古代 中世)	4	2科目8 単位選択 必修
東 洋 史 学 史	4		日本史概説Ⅱ(近世 近代)	4	
東洋史概説Ⅰ(古代 中世)	4		西洋史概説Ⅰ(古代 中世)	4	
東洋史概説Ⅱ(近世 近代)	4		西洋史概説Ⅱ(近世 近代)	4	
演 習 Ⅰ(東洋史)	4		考古学概説Ⅰ(日本)	4	
			考古学概説Ⅱ(外国)	4	
演 習 Ⅱ(東洋史)	4	演習Ⅱ(考 古学)で代 替えできる	卒 業 論 文	8	8頁参照

○西洋史専攻

56年度以降の入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		日本史概説Ⅰ(古代 中世)	4	2科目8 単位選択 必修
西 洋 史 学 史	4		日本史概説Ⅱ(近世 近代)	4	
西洋史概説Ⅰ(古代 中世)	4		東洋史概説Ⅰ(古代 中世)	4	
西洋史概説Ⅱ(近世 近代)	4		東洋史概説Ⅱ(近世 近代)	4	
演 習 Ⅰ(西洋史)	4		考古学概説Ⅰ(日本)	4	
演 習 Ⅱ(西洋史)	4	演習Ⅱ(考 古学)で代 替えできる	考古学概説Ⅱ(外国)	4	
			卒 業 論 文	8	8頁参照

55年度以前の入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		日本史概説Ⅰ(古代 中世)	4	2科目8 単位選択 必修
西 洋 史 学 史	4		日本史概説Ⅱ(近世 近代)	4	
西洋史概説Ⅰ(古代 中世)	4		東洋史概説Ⅰ(古代 中世)	4	
西洋史概説Ⅱ(近世 近代)	4		東洋史概説Ⅱ(近世 近代)	4	
演 習 Ⅰ(西洋史)	4		考古学概説Ⅰ(日本)	4	
			考古学概説Ⅱ(外国)	4	
演 習 Ⅱ(西洋史)	4	演習Ⅱ(考 古学)で代 替えできる	卒 業 論 文	8	8頁参照

○考古学専攻

56年度以降の入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		日本史概説Ⅰ(古代 中世)	4	2科目8 単位選択 必修
考 古 学 史	4		日本史概説Ⅱ(近世 近代)	4	
考古学概説Ⅰ(日本)	4		東洋史概説Ⅰ(古代 中世)	4	
考古学概説Ⅱ(外国)	4		東洋史概説Ⅱ(近世 近代)	4	
演 習 Ⅰ(考古学)	4		西洋史概説Ⅰ(古代 中世)	4	
演 習 Ⅱ(考古学)	4	他の専攻の 演習Ⅱで代 替えできる	西洋史概説Ⅱ(近世 近代)	4	
			卒 業 論 文	8	8頁参照

55年度以前の入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		日本史概説Ⅰ(古代 中世)	4	3科目12 単位選択 必修
考古学概説Ⅰ(日本)	4		日本史概説Ⅱ(近世 近代)	4	
演 習 Ⅰ(考古学)	4		東洋史概説Ⅰ(古代 中世)	4	
演 習 Ⅱ(考古学)	4	他の専攻の 演習Ⅱで代 替えできる	東洋史概説Ⅱ(近世 近代)	4	
日 本 史 学 史	4	1科目4 単位選択 必修	西洋史概説Ⅰ(古代 中世)	4	
東 洋 史 学 史	4		西洋史概説Ⅱ(近世 近代)	4	
西 洋 史 学 史	4		卒 業 論 文	8	8頁参照

選択科目 (32単位以上) (2年次以降の履修科目)

授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
日本史各説 (I, II, III, IV)	4		考古学特講 III	4	
東洋史各説 (I, II, III)	4		古文書学	4	
西洋史各説(I, II)	4		古文書講読 I	4	
考古学各説I	4	隔年開講 休講	古文書講読 II	4	
考古学各説II	4		日本仏教史 I	4	休講 } 隔年開講 IとIIIは
日本史特講I(古代)	4	休講	日本仏教史 II	4	
日本史特講II(中世)	4		日本仏教史 III	4	
日本史特講III(中世)	4		日本文化史 I	4	休講 } 隔年開講
日本史特講IV(近世)	4		日本文化史 II	4	
日本史特講V(近世)	4		西洋文化史 (I, II)	4	
日本史特講VI(近代)	4		考古学実習I(写真)	4	
日本史特講VII(近代)	4		考古学実習II(記録)	4	
東洋史特講 I (中国周辺史)	4		考古学実習III(測量)	4	
東洋史特講 II (近世・近代史)	4	休講	考古学実習IV(調査)	4	
東洋史特講 III (中世史)	4		考古発掘実習	2	
東洋史特講 IV (近代・現代史)	4		有職故実	4	
東洋史特講 V (西・中央アジア史)	4		中国歴史文学	4	
西洋史特講 (I, II, III)	4		日本民俗学	4	
西洋各国史 I	4		歴史地理学	4	
西洋各国史 II	4		人文地理学概説	4	
西洋各国史 III	4		地誌学	4	
考古学特講 I	4		哲学史	4	
考古学特講 II	4	休講	歴史哲学	4	

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
仏 教 美 術	4		演 習 I	4	}
西 域 美 術 史	4		演 習 II	4	
美 術 史 概 説	4		日本史概説 I (古代 中世)	4	
			日本史概説 II (近世 近代)	4	
			東洋史概説 I (古代 中世)	4	
			東洋史概説 II (近世 近代)	4	
			西洋史概説 I (古代 中世)	4	
			西洋史概説 II (近世 近代)	4	
			考古学概説 I (日本)	4	
			考古学概説 II (外国)	4	

(注意) 選択科目として履修を希望する者は必修科目として履修した科目以外を履修すること。

社会学科 (1年次の秋頃各自専攻コースを届出ること)

(1) 社会学コース

必修科目

A 57年度入学生適用 (56単位)

2年次必修			2・3・4年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
社会統計学	4		マスコミュニケーション	4	5科目20 単位選択 必修
社会学史	4		産業社会学	4	
社会学方法論	4		都市社会学	4	
3年次必修			農村社会学	4	
社会調査	4	社会	家族社会学	4	
社会調査実習	4		法社会学	4	
演習Ⅰ	4		宗教社会学	4	
4年次必修			社会心理学	4	
演習Ⅱ	4	社会 8頁参照	社会病理学	4	
卒業論文	8		外書講読Ⅰ	4	
			外書講読Ⅱ	4	
			社会学特講Ⅰ	4	
			社会学特講Ⅱ	4	
			社会学特講Ⅲ	4	

(注意) ※「演習」は3年次で履修した先生のものを、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

B 56年度以前入学生適用 (40単位)

2年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
社会学史	4		演習Ⅰ	4	社会
社会学原論	4		4年次必修		
社会統計学	4		社会政策	4	社会 8頁参照
宗教社会学	4		演習Ⅱ	4	
3年次必修			卒業論文	8	
社会調査	4				

(注意) ※「演習」は3年次で履修した先生のものを、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

選択科目

A 57年度入学生適用（16単位以上）（2年次以降の履修科目）

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
マスコミュニケーション	4	(注)	社会学原論	4	
産業社会学	4		図書館学Ⅰ	4	
都市社会学	4		図書館学Ⅱ	4	
農村社会学	4		社会福祉方法総論	4	
家族社会学	4		社会福祉法制	4	
法社会学	4		社会保障概論	4	
宗教社会学	4		老人福祉論	4	
社会心理学	4		児童福祉論	4	
社会病理学	4		地域福祉論	4	
外書講読Ⅰ	4		基礎心理学Ⅰ	4	
外書講読Ⅱ	4		産業心理学	4	
社会学特講Ⅰ	4		グループ・ダイナミックス	4	
社会学特講Ⅱ	4		民法	4	
社会学特講Ⅲ	4		労働法	4	
			行政法	4	
		経済原論	4		
		社会政策	4		

(注意) 選択科目として履修を希望する者は必修科目として履修した科目以外を履修すること。

B 56年度以前入学生適用 (32単位以上)

2・3年次選択			2・3・4年次選択		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
社会学方法論	4		図書館学Ⅰ	4	
マスコミュニケーション	4		図書館学Ⅱ	4	
産業社会学	4		集団理論	4	
都市社会学	4		禅心理学	4	
家族社会学	4		ジャーナリズム研究	4	
法社会学	4		新聞学	4	
社会心理学	4		行政法	4	
外書講読	4	I, II	民法	4	
地域福祉論	4		労働法	4	
グループ・ワーク	4		哲学史	4	
社会福祉特講	4	I, II, III	経済原論	4	
3・4年次選択			労務管理	4	
社会調査実習Ⅰ	4		青少年問題研究	4	
社会病理学	4		教育社会学	4	
			社会教育概論	4	
			社会教育方法論	4	

(2) 社会福祉コース

必修科目

A 57年度入学生適用 (56単位)

2 年 次 必 修			2・3・4 年 次 必 修			
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考	
社会 保 障 概 論	4		A 群	公 的 扶 助 論	4	A群とB群より、それぞれ3科目ずつ合計6科目、24単位が選択必修
社会 福 祉 法 制	4			障 害 福 祉 論	4	
社会福祉方法総論	4			老 人 福 祉 論	4	
3 年 次 必 修				児 童 福 祉 論	4	
社会福祉実習Ⅰ	4			母 子 福 祉 論	4	
演 習 Ⅰ	4	福祉		医 療 社 会 事 業 論	4	
4 年 次 必 修			B 群	地 域 福 祉 論	4	
演 習 Ⅱ	4	福祉		社会福祉事業発達史	4	
卒 業 論 文	8	8頁参照		社会福祉管理運営論	4	
				福 祉 外 書 講 読	4	
				リハビリテーション論	4	

※「演習」は3年次で履修した先生のものを、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

B 56年度以前入学生適用 (44単位)

※ただし53年度以前の入学生は48単位必修とする。

2 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
社 会 学 史	4		社会福祉実習	4	
社 会 学 原 論	4		演 習 Ⅰ	4	福祉
社会福祉法制	4		4 年 次 必 修		
社会福祉概論	4	53年度以前の入学生のみの必修	社 会 政 策	4	
3 年 次 必 修			演 習 Ⅱ	4	福祉
社 会 調 査	4		卒 業 論 文	8	8頁参照
社会福祉事業史	4				

(注意) ※「社会福祉概論」は54年度入学生より基礎教育科目とする。
 ※「演習」は3年次で履修した先生のものを、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

選択科目

A 57年度入学生適用 (11単位以上)

2・3・4 年 次 選 択			2・3・4 年 次 選 択		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
公 的 扶 助 論	4	(注)	宗 教 社 会 学	4	
障 害 福 祉 論	4		産 業 社 会 学	4	
老 人 福 祉 論	4		都 市 社 会 学	4	
児 童 福 祉 論	4		農 村 社 会 学	4	
母 子 福 祉 論	4		家 族 社 会 学	4	
医 療 社 会 事 業 論	4		法 社 会 学	4	
地 域 福 祉 論	4		社 会 病 理 学	4	
社会福祉事業発達史	4		異 常 児 教 育 原 論	4	
社会福祉管理運営論	4		異 常 児 教 育 方 法 論	4	
福 祉 外 書 講 読	4		異 常 児 病 理	4	
リハビリテーション論	4		異 常 児 心 理	4	
ケースワーク論	4		図 書 館 学 I	4	
グループワーク論	4		図 書 館 学 II	4	
海外社会福祉論	4		社 会 政 策	4	
社会福祉学特講 I	4		青 少 年 問 題 研 究	4	
社会福祉学特講 II	4		行 政 法	4	
社会福祉学特講 III	4		労 働 法	4	
基礎心理学 I	4		民 法	4	
基礎心理学 II	4		経 済 原 論	4	
社 会 心 理 学	4		4 年 次 選 択		
グループ・ダイナミックス	4		社会福祉実習 II	4	

※ 選択科目として履修を希望する者は必修科目として履修した科目以外を履修すること。

※ 社会福祉実習Ⅱを履修する者は社会福祉実習Ⅰ取得者に限る。

B 56年度以前入学生適用 (28単位以上)

※ただし53年度以前の入学生は24単位以上とする。

2年次選択			3・4年次選択		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
精神医学	4		社会病理学	4	
2・3年次選択			社会調査実習	4	I, II
社会保障論	4		4年次選択		
児童福祉論	4		精神測定法	4	
老人福祉論	4		2・3・4年次選択		
地域福祉論	4		公的扶助論	4	
養護原理	4		カウンセリング	4	
医療社会事業	4		外書講読Ⅲ	4	
ケース・ワーク論	4		教育社会学	4	
グループ・ワーク	4		図書館学Ⅰ	4	
社会福祉特講	4	I, II, III	図書館学Ⅱ	4	
精神発達学	4		ジャーナリズム研究	4	
社会心理学	4		民法	4	
家族社会学	4		新聞学	4	
異常児教育原論	4		労務管理	4	
産業社会学	4		経済原論	4	
都市社会学	4		行政法	4	
外書講読	4	I, II	労働法	4	
3・4年次選択			社会教育概論	4	
障害福祉論	4		社会教育方法論	4	
異常児教育方法論	4		青少年問題研究	4	
			禅心理学	4	

(3) 心理学コース

必修科目

A 57年度入学生適用 (36単位)

2 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
心 理 学 史	4		心理学研究Ⅲ(実習)	2	1 科目 2 単位選択必修
心 理 統 計 学	4		心理学研究Ⅳ(実習)	2	
心理学実験(実習)	2		心理学研究Ⅴ(実習)	2	
基礎心理学Ⅰ	4	1 科目 4 単位選択必修	基礎心理学Ⅰ	4	1 科目 4 単位選択必修で、またはしし履修した科目を履修すること
基礎心理学Ⅱ	4		基礎心理学Ⅱ	4	
基礎心理学Ⅲ	4		基礎心理学Ⅲ	4	
基礎心理学Ⅳ	4		基礎心理学Ⅳ	4	
基礎心理学Ⅴ	4		基礎心理学Ⅴ	4	
3 年 次 必 修			4 年 次 必 修		
心理学研究法	4		演 習	4	
心理学研究Ⅰ(実習)	2		卒 業 論 文	8	8 頁参照
心理学研究Ⅱ(実習)	2				

(注意) ※基礎心理学Ⅰ～Ⅴの内容については講義内容欄を参照のこと。

B 56年度以前入学生適用 (46単位)

2 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
人 格 心 理 学	4		心理学実験演習(上級)	2	
集 団 理 論	4		臨床心理学Ⅱ(方法)	4	
精 神 医 学	4		精 神 測 定 法	4	
心理学実験演習(初級)	2		4 年 次 必 修		
3 年 次 必 修			臨 床 実 習	2	
学 習 行 動 理 論	4		演 習	4	
臨床心理学Ⅰ(理論)	4		卒 業 論 文	8	8 頁参照

選択科目

A 57年度入学生適用 (36単位以上)

(2年次以降の履修科目)

授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
基礎心理学 I	4	必修とし て履修 した科 目を履 修し た外 は 可 	心理学特講 II	4	
基礎心理学 II	4		心理学特講 III	4	
基礎心理学 III	4		精神医学	4	
基礎心理学 IV	4		精神病理学	4	
基礎心理学 V	4		心身医学	4	
心理学研究 I (実習)	2	3・4年 次選 択 3 年 次 で し て 必 修 科 目 を 履 修 し た 外 は 可 	宗教社会学	4	
心理学研究 II (実習)	2		産業社会学	4	
心理学研究 III (実習)	2		家族社会学	4	
心理学研究 IV (実習)	2		社会病理学	4	
心理学研究 V (実習)	2		マスコミュニケーション	4	
生理心理学	4		社会福祉方法総論	4	
児童心理学	4		障害福祉論	4	
産業心理学	4		老人福祉論	4	
グループ・ダイナミックス	4		児童福祉論	4	
カウンセリング	4		民法	4	
心理検査法	4		経済原論	4	
禅心理学	4		行政法	4	
心理学特講 I	4		労働法	4	

(注意) ※2年次における基礎心理学 I～Vの選択科目としての履修は、3科目以内とする。

B 56年度以前入学生適用 (26単位以上)

2・3年次選択			2・3・4年次選択		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
異常児教育原論	4		外書講読Ⅳ	4	
養護原理	4		カウンセリング	4	
医療社会事業	4		哲学史	4	
老人福祉論	4		精神生理学	4	
児童福祉論	4		精神身体医学	4	
ケース・ワーク論	4		図書館学Ⅰ	4	
精神発達学	4		図書館学Ⅱ	4	
グループ・ワーク	4		ジャーナリズム研究	4	
社会心理学	4		行政法	4	
家族社会学	4		民法	4	
			新聞学	4	
3年次選択			労務管理	4	
社会調査	4		禅心理学	4	
			深層心理学史	4	
3・4年次選択			青少年問題研究	4	
障害福祉論	4		労働法	4	
異常児教育方法論	4		教育社会学	4	
社会病理学	4		社会教育概論	4	
			社会教育方法論	4	
			経済原論	4	
4年次選択					
社会政策	4				

6. 随意科目の履修方法

随意科目は各学科とも2・3・4年次で履修することが出来るが卒業に必要な単位に含めることはできない。

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
独 語 F	2		哲学特講 I, II	4	
仏 語 F	2		宗 教 人 類 学	4	
中 国 語 F	2		民 間 信 仰 論	4	
スペイン語 F	2		日本宗教文化史	4	
ロシア語 F	2		民衆宗教成立史	4	
日 本 語 F	2		歴 史 哲 学	4	歴史学科を除く
独 語 FLL	2		日 本 民 俗 学	4	国文, 歴史学科を除く
仏 語 FLL	2		美 術 史 概 説	4	//
中 国 語 FLL	2		東 洋 思 想 研 究	4	国文学科を除く
スペイン語 FLL	2		日 本 仏 教 史	4	歴史学科を除く
ロシア語 FLL	2		日 本 文 化 史	4	地理, 社会科学のみ
宗教学特講 I, II, III	4				

※ 日本語Fは留学生対象の科目で1年次生より履修できる

※ 歴史哲学は歴史思想史の名称変更

※ 民衆宗教成立史は民衆仏教成立史の名称変更

7. 再履修科目の履修方法

イ. 再履修とは、前年度履修登録し単位を修得できなかった授業科目（受験しなかった科目を含む）を翌年度に再度履修することをいう。この場合授業科目名が同じであれば担任教員に変更があっても同一科目の再履修となる。

ロ. 翌年度に再履修しないで翌々年度以降に履修する場合は新履修とみなして制限科目数内で履修しなければならない。（休学の場合も同様）

ハ. 再履修の科目は、新履修の授業科目と同時に届出なければならない。

ニ. 外国語・体育実技・保健体育理論および宗教学Iを再履修する場合は、それぞれの「再履修クラス」（本校で授業行）で履修すること。ただし、留年者で同級学年の科目を再履修する場合は正規クラスで履修すること。

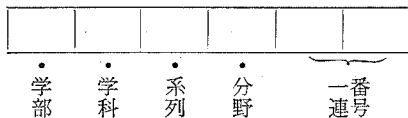
ホ. 1年次生は再履修クラスを履修することはできない。

※コード番号について

1. 授業科目コードの設定方法

科目コードは6桁の数字とし、その各位の数字の意味を持たせている。

イ. 科目コードの区分



(a) 学部, 学科番号は学生番号欄での説明のとおり

(b) 系列, 分野区分について

授業科目の区分	系列番号	分野番号
一般教育科目	0	
人文分野		1(必修), 2(選択)
社会分野		3
自然分野		4
基礎教育科目	1	2
外国語科目	2	
第1外国語		
第2外国語		
保健体育科目	4	
体育実技		1
保健体育理論		2
専門教育科目	5	
必修科目		1, 2, 3
選択科目		5, 6, 7, 8
随意科目	7	
再履修科目	8	
課程・講座科目	9	
必修科目		1
選択科目		2
教科科目		3, 4, 5, 6, 7, 8

2. 学生番号について

学生番号の8桁の数字は次の意味を持たせてある。

イ. 学生番号区分

・ 入学 年 度 (西暦)	・ 学 籍 異 動	・ 学 部	・ 学 科	一連番号			

(例) 正規学生番号

2	0	2	1	0	0	0	1
・ 82 年 入 学	・ 事 故 な し	・ 文 学 部	・ 国 文 学 科	一連番号(1番)			

ロ. 学籍異動の番号について

- | | |
|---------|--------------|
| 0—正規の学生 | 3—編入 |
| 1—留年 | 4—留年をして転部科 |
| 2—転部科 | 転部科, 編入をして留年 |

(例 I) 留年学生番号

1	1	2	1	0	0	1	1
・ 81 年 入 学	・ 留 年	・ 文 学 部	・ 国 文 学 科	一連番号(11番) (留年のつど変わる)			

(例 II) 編入学生番号 (57年度3年編入)

0	3	2	1	0	0	2	2
・ 履 適 修 用 要 年 項 度 (80)	・ 編 入	・ 文 学 部	・ 国 文 学 科	一連番号(22番)			

3. 学部・学科の番号表

学部・学科	学部番号	学科番号	学部・学科	学部番号	学科番号
仏教学部	1		商学科		2
禅学科		1	法学部	4	
仏教学科		2	法律学科		1
文学部	2		政治学科		2
国文学科		1	経営学部	5	
英米文学科		2	経営学科		1
地理学科		3	短期大学	8	
歴史学科		4	国文科		1
社会学科		5	英文科		2
経済学部	3		放射線科		3
経済学科		1			

IV 履修科目の登録(履修届)とその作成順序

1. 履修科目の登録

毎学年次所属する学科、学年に開講されている授業科目の中から履修を希望する科目を授業時間表より選び、所定の「単位履修届」用紙に必要な事項を記入し届出ることにより、通年（または半期）授業を受けることができる。

I) 各年次において履修できる最高授業科目数は次表の通りとする。

	新履修科目数	課程・講座登録者科目数
1年次	15	—
2年次	14科目以内	17科目以内
3年次	14科目以内	17科目以内
4年次	1科目以上	

イ. 2年次生以上の再履修科目および随意科目は上記表の制限外とする。

ロ. 4年次生は最低1科目以上とし、最高制限を設けないが、卒業単位および授業出席に充分ゆとりのある履修をすること。

II) 登録上の注意

イ. 履修届は指定された日時に必ず本人が記入捺印し、学生証提示の上提出すること。

(提出しない場合は学業の意志のないものとして処理する。なお指定日時に提出できないものは事前に教務部窓口に相談すること)

ロ. 履修届の日時、場所等についての詳細は原則として新年度成績発表前に教務部掲示板に発表する。

ハ. 所属する学科以外の授業科目は登録できない。ただし課程・講座等資格取得のため必要な科目は課程・講座科目として登録できるが、その場合は教職係窓口で受講承認印を受けてから提出すること。

ニ. 履修登録をしない授業科目はたとえ聴講、受験しても単位は与えない。

ホ. 授業科目の追加登録は一切認めない。

ヘ. 「単位履修届」用紙の注意事項をよく読んで間違いのないように登録すること。

2. 履修届記入上の注意

授業時間表(例)

	月 曜 日			
	科目名	科目コード	担任	担任コード
一時限	独 語 1 G	312201	百 済	879
	~~~~~			
二時限	保健体育理論(前)	314201	長 浜	993
	保健体育理論(後)	314201		622
~~~~~				
三時限	宗 教 学 I	310101	平井(俊)	735
	~~~~~			
四時限	論 理 学	310203	岩 野	093
	自然科学概論	310401	大 森	156
	~~~~~			
五時限	体 育 実 技	314101	大石(武)	141
	~~~~~			

正しい記入例

曜日	時限	再履	科目名	科目コード	担任	担任コード
(1)	1		独 語 1 G	3:1:2:2:0:1	百 済	8:7:9
	2		保健体育理論(前)	3:1:4:2:0:1	長 浜	9:9:3
	3		宗 教 学 I	3:1:0:1:0:1	平井(俊)	7:3:5
	4	○	論 理 学	3:1:0:2:0:3	岩 野	0:9:3
	5		体 育 実 技	3:1:4:1:0:1	大石(武)	1:4:1

- 楷書体で正確に記入すること。
- 記入の際は、必ず黒または青インクを使用し、捺印の上提出すること。
- 授業時表のとおり記入すること。
- 半期終了の科目は欄の中央に点線を入れ、上に前期終了科目・下に後期終了科目を記入すること。
- 再履修科目がある場合は、再履欄に○印をつけること。
- 履修届はコンピューターで処理しているため、下記の場合、登録が無効となるので注意すること。
  - イ. 科目名・科目コード・担任名・担任コードが一致しない場合
  - ロ. 時限を誤って記入した場合
  - ハ. 間違い易い数字で記入した場合(例, 0と6・1と7)
  - ニ. その他, 不明瞭に記入した場合
- 体育実技の記入方法は、時間表に載っている。科目コード・担任コードを正しく記入すること。
- 自己の責任において、必ず指定された日・時・場所に提出すること。
- 履修届の本人控を正確に記入し、紛失しないように保管すること。

### 3. 履修届（時間割）の作成順序

履修要項・授業時間表により、各自がそれぞれの学年次の履修科目を決定する訳であるが、その場合必修科目、選択必修科目、選択科目の順序で決定すること。また一般教育科目・外国語科目・保健体育科目および基礎教育科目は1・2年次で所定の単位を修得し、上級学年に進むに従い専門教育科目、課程・講座科目等を多く履修することが望ましい。

1年次生の場合、次表の順序で履修する科目を決定すると容易である。

#### （国文学科）

順序	授業区分	授 業 科 目 (適 用)	科目数
1	一般教育科目	宗教学 I (必修)	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論 (半期) 体育実技 (必修)	2
4	基礎教育科目	基礎国語学, 基礎国文学, 基礎中国文学 (必修)	3
5	専門教育科目	国文学講義 I (必修)	1
6	一般教育科目	人文分野} 開講科目の中から計4科目選択必修 社会分野} (不足単位は2年次で履修) 自然分野}	4
1年次履修制限科目数			15

#### （英米文学科）

順序	授業区分	授 業 科 目 (適 用)	科目数
1	一般教育科目	宗教学 I (必修)	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論 (半期), 体育実技 (必修)	2
4	基礎教育科目	英または米文学概論, 英語演習 I A, I B (必修)	3
5	一般教育科目	人文分野・開講科目の中から2科目を選択必修	2
		社会分野・開講科目の中から2科目を選択必修	2
		自然分野・開講科目の中から1科目を選択必修	1
1年次履修制限科目数			15

## (地理学科)

順序	授業区分	授 業 科 目 (適 用)	科目数
1	一般教育科目	宗教学 I (必修)	1
2	外国語科目	第 1 外国語, 第 2 外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論 (半期), 体育実技 (必修)	2
4	基礎教育科目	基礎地学, 基礎地理学 (必修) (自然地理学) (人文地理学)	2
5	一般教育科目	人文分野・開講科目の中から 1 科目を選択必修	1
		社会分野・開講科目の中から 3 科目を選択必修	3
		自然分野・開講科目の中から 2 科目を選択必修	2
1 年次履修制限科目数			15

## (歴史学科)

順序	授業区分	授 業 科 目 (適 用)	科目数
1	一般教育科目	宗教学 I (必修)	1
2	外国語科目	第 1 外国語, 第 2 外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論 (半期), 体育実技 (必修)	2
4	基礎教育科目	基礎歴史学 (必修)	1
5	一般教育科目	人文分野・開講科目の中から 2 科目を選択必修	2
		社会分野・開講科目の中から 3 科目を選択必修	3
		自然分野・開講科目の中から 2 科目を選択必修	2
1 年次履修制限科目数			15

## (社会学科)

順序	授業区分	授 業 科 目 (適 用)	科目数
1	一般教育科目	宗教学 I (必修)	1
2	外国語科目	第 1 外国語, 第 2 外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論 (半期), 体育実技 (必修)	2
4	基礎教育科目	社会学概論, 社会福祉概論, 心理学概論 (必修)	3
5	一般教育科目	人文分野・社会分野・自然分野 } 開講科目の中から計 5 科目を選択必修 (不足単位は 2 年次で履修)	5
1 年次履修制限科目数			15

## V 試験および成績評価

### 1. 定期試験

- イ. 前期で終了する授業科目の定期試験は7月に、後期および通年の授業科目の定期試験は1月ないし2月に実施される。
- ロ. 受験にあたっては、正規の手続きを経て登録した授業科目であること。
- ハ. 筆記試験のかわりにレポートの提出を課せられた場合は、主題、枚数、提出日時、提出先等をよく確認の上提出すること。なお指定された日時に遅れた場合は一切受理しない。
- ニ. 試験時間割は、原則として平常の講義の時限とし、時間および教場等については掲示で発表する。  
(注意) 試験場は平常の授業教場と異なる。特に集中試験(同一科目を一括して行う試験)は曜日、時限とも変わるので試験時間および教場割等掲示に充分注意すること。

### 2. 中間試験

授業科目によって担任者が独自に行う試験(レポート提出を含む)のことをいう。従って試験は平常の授業に準じて行う。

### 3. 追・再試験

#### I 追試験

- イ. 追試験は、やむを得ない事由があり定期試験(レポート提出を含む)を欠試した場合受験することができる。その場合、欠試者は所定の欠試届にその事由を記し、自分の全ての試験終了後ただちに届け出ること。(メ切日は掲示板参照)
- ロ. 追試料は徴収しない。

#### II 再試験

1・2・3年次生については、再試験は一切実施しない。  
卒業年次生に限り下記により実施する。

- イ. 卒業年次に履修登録した科目の定期試験を受験し、不合格となつた科目は願出により受験することができる。
- ロ. 受験料は1科目500円とする。

#### III 体育・外国語科目・その他

- イ. 体育実技・演習・その他実験実習を伴なう科目は、追・再試験ともこれを行わない。
- ロ. 外国語科目についても追・再試験を行わない。ただし、定期試験を欠試した者は当該科目試験終了後一週間以内に担任教員に申し出て指導を受ける。

## 4. 成績評価・単位認定

- イ. 定期試験の成績は、優（100点～80点）・良（79点～70点）・可（69点～60点）および不可（59点～0点）とし、可以上を合格、不可は不合格とする。
- ロ. 所定の授業時間数の3分の2の以上授業に出席し、合格の成績評価を得た授業科目については規定の単位を認定する。
- ハ. 追試験の成績評価は定期試験に準ずる。
- ニ. 再試験（4年次生のみ）の成績評価は70点以下とする。

## 5. 進級基準

### ◎正規進級

上級学年に進級する場合は下記の単位数の取得を要する。

- イ. 1年次から2年次に進級する場合、卒業所要単位のうち30単位以上。
- ロ. 2年次から3年次に進級する場合、卒業所要単位のうち60単位以上。
- ハ. 3年次から4年次に進級する場合、卒業所要単位のうち90単位以上。

ただし、90単位以上の者でも、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目の必要単位数を全て取得していること。

### ◎注意進級

正規の進級基準には達しないが教育的配慮から進級を認める。ただし注意進級が再度つづく場合には、取得単位の不足から4年間で卒業することが困難となるので、今後十分に自戒して所定の単位数を取得するよう努めることが必要である。

- イ. 1年次から2年次に注意進級する場合、卒業所要単位のうち29～20単位までとする。
- ロ. 2年次から3年次に注意進級する場合、卒業所要単位のうち59～50単位までとする。
- ハ. 3年次から4年次に注意進級する場合、卒業所要単位のうち90単位以上を取得するもその内一般教育科目・保健体育科目・外国語科目の不合格単位数の合計が16単位までとする。ただし17単位以上は留年とする。

## 6. 受験者心得

- イ. 指定された試験場（教場）で受験すること。
- ロ. 学生証を所持しない学生は、いかなる理由があっても受験できない。また、学生証は監督者が見やすいように通路側に提示しておくこと。
- ハ. 試験開始より30分以上遅刻した者は受験できない。また開始後30分を経過するまで退場できない。
- ニ. 答案の作成はペン書き（ボールペン可）を原則とする。とくに、学部・学科・学年・番号・氏名は必ずペン書きにし、解答にかかる前に記入すること。
- ホ. 次の場合は退場を命じ、その答案を無効とする。
  - (1) 私語や態度の不正なもので注意しても改めないとき

(2) 許可なく物品・教科書・ノート類を貸借したとき

(3) 監監者の指示に従わないとき

へ. 次の場合には, その答案を無効とする。

(1) 無記名のもの

(2) 配布された答案用紙以外のものを用いたとき

(3) 指定された場所に提出しないとき

ト. 答案用紙は指定の枚数だけ配布し, 原則として書き損じても再交付しない。

チ. 受験中に不正行為があつて, 当該教授会が不正行為と認定したときは, 学則第57条により懲戒する。なお, 懲戒は全学に公示する。

リ. 以上のほか, 試験場内の秩序維持はすべて監督者の指示による。

## VI クラス制およびクラス主任

- イ. 学科の実情に応じて、1・2・3年次にクラス主任若干名をおいている。
- ロ. クラス主任は、学生の学習指導、生活相談等に当たっているから、これらのことについては遠慮なく相談されたい。

## VII 教職課程・資格講座

文学部で開講されている資格取得の課程・講座は教職課程・学校図書館司書教諭・博物館学（学芸員）・社会福祉主事・社会教育主事の1課程4講座である。

教職課程は、教員資格取得のためのもので、本学において教職課程の所定単位を修得したのものには、中学校・高等学校の各免許状が与えられる。

学校図書館司書教諭、学芸員、社会福祉主事、社会教育主事の各講座は、学校教員とならんで重要な社会教育の代表的な施設である図書館、博物館、青少年教育施設などの専門職員となる有資格者を養成するために設けられているものである。

課程・講座の履修希望者は第1学年次の秋（11月中旬）にガイダンスを開催するので、第2学年次から資格取得のため、科目履修を予定している者は、このガイダンスに出席し「教職課程・資格講座受講の手びき」をもらうこと。（授業科目の講義内容は履修要項の講義内容を参照すること）

詳細は掲示板で発表する。

### ○開講されている課程・講座

課程・講座名	
教職課程	2年次より
学校図書館司書教諭講座	〃
博物館学講座	〃
社会福祉主事講座	〃
社会教育主事講座	〃

課程・講座の履修は実習の関係上、3・4年次からの登録による履修は認めない。

## VIII 事務取り扱いについて

### 1. 成績発表・成績証明書について

- イ. 前期終了科目・後期及び通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表する。
- ロ. 成績の質疑については成績発表後5日以内に教務部③番窓口にて相談すること。ただし、評価の質疑については直接担任教員に申し出て相談すること。
- ハ. 成績発表を受けるときは必ず学生証を持参すること。
- ニ. 成績証明書は卒業年度生以外は原則として発行しない。

### 2. 授業時間について

授業時間は次のとおりである。

時 限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時 間	9:00～ 10:30	10:40～ 12:10	12:50～ 14:20	14:30～ 16:00	16:10～ 17:40

### 3. 事務室の事務受付時間について

- イ. 事務室の事務受付時間は、9時より16時30分（土曜日は12時）までとする。ただし、昼食休憩時間は12時から13時とし、この時間は事務受付を休止する。
- ロ. 履修届提出・成績発表・各申込等の受付は9時30分より16時までとする。

### 4. 休講について

- イ. 休講は担任教員より連絡あり次第、第3掲示板（6号館横）に掲示するか、休講掲示板（教務部事務室前ロビー）に掲示する。したがって、教場の黒板に書いて休講の連絡はしない。始業時間より30分経過しても連絡のない場合は、教務部①番窓口申し出てその指示を受けること。
- ロ. 運輸機関のストライキによる休講措置については午前7時現在国電（山手，中央，京浜東北）もしくは東急がストを行っている場合の授業は全面休講とする。

### 5. 掲示について

学生に対する公示・告示および学習上周知を要する事項は、すべて掲示板に発表するので、登校・下校の際は、必ず掲示板を見ること。また、学生個人に対する伝達事項

も、掲示または、郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従うこと。

掲示板の使用区分

- イ. 第1 掲示板（7号館前）  
    公示・告示・その他連絡事項
- ロ. 第2 掲示板（6号館横）  
    学部別連絡事項・その他
- ハ. 第3 掲示板（6号館横）  
    休講・教職・その他
- ニ. 第4 掲示板（6号館横）  
    研究室専用

## 6. 問 い 合 わ せ

事務室への電話による質問（行事予定、休講、授業、学籍、試験、成績、その他）は、間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じない。必要あるときは、必ず登校のうえ、掲示板を見るか、関係事務室窓口で問い合わせること。

# IX 届書・願書について

(教務部扱いのもの)

種 類	要 領	必要書類	本人印	保証人印	取扱窓口		
届	単 位 履 修 届	年度初頭の指定する期日に、各年度に修得しようとする授業科目(単位)を必ず届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	掲示	
	欠 試 届	やむを得ない事情で欠試した時は届出用紙に理由を書き、本人履修全科目の試験終了後ただちに届け出ること。(〆切日は掲示参照)	所定用紙あり	不要	不要	③	
	卒業論文論題届 (仏教・文学部のみ)	各学部掲示板にて指示するので、指定期間内に指導教授の承認印を受け、届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	⑤	
	改 氏 名 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 戸籍抄本1通添付	要	不要	⑥	
	本 籍 地 変 更 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 戸籍抄本1通添付	要	不要	⑥	
	保 証 人 変 更 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 在学誓書(保証書)添付	要	要	⑥	
	保 証 人 住 所 変 更 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	⑥	
書	死 亡 届		所定用紙あり 死亡診断書添付		要	⑥	
	願	休 学 願	病気その他の理由で引き続き2か月以上修学することができないときは、保証人連署の上願い出て休学の許可を得なければならない。	所定用紙あり 傷害・疾病による場合は医師の診断書添付	要	要	⑥
		復 学 願	願い出により休学した者が復学する場合は、毎学年の始めとし、保証人連署の上願い出て復学の許可を得なければならない。 「復学願」の提出は4月初旬までとする。	所定用紙あり 傷害・疾病による休学をした場合は医師の通学可能である証明書添付	要	要	⑥
		退 学 願	傷病その他やむを得ない理由で退学する場合はその理由を付し、保証人連署をもって願い出て許可を得なければならない。	所定用紙あり 学生証添付	要	要	⑥
書	転部(科)・転学願	事前に教務部に相談すること。	所定用紙あり (転学はなし)	要	要	①	

## X 各種証明書取扱い窓口

証 明 書 名	取 扱 窓 口	料 金
成 績 証 明 書	教務部④番	一通 100円 (英文証明書) (一通 300円)
卒 業 (見 込) 証 明 書		
学 士 証 明 書		
教員免許状取得見込証明書		
単 位 修 得 証 明 書 (教職、司書教諭、学芸員、社会教育、社会福祉)		
一般教養科目修了(見込)証明書		
満期退学(見込)証明書 (博士後期)	教務部⑤番	
修了(見込)証明書(修士)		
修 士 証 明 書		
在 籍 証 明 書 (中途退学者に限る)	教務部⑥番	
人 物 考 査 書	就 職 部	
健 康 診 断 証 明 書	医 務 室	
在 学 証 明 書	学 生 部	
学 割		
通 学 証 明 書		無 料

※ 経理部前備付けの申込用紙に必要事項を記入し、手数料分の証紙を貼付（郵送料は現金で経理部窓口へ納入）の上、取扱い窓口に申し込むこと。

発行は原則として3日後。ただし教務部取扱い証明書は、6月下旬より10月中旬と3月は大変混雑が予想されるので、掲示に注意し、充分余裕をもって申し込むこと。

## 講義内容目次

一般教育科目(共通) .....	57
外国語科目(共通) .....	65
保健体育科目(共通) .....	66
随意科目(共通) .....	69
国文学科 .....	75
英米文学科 .....	88
地理学科 .....	102
歴史学科 .....	116
社会学科 .....	137
教職および資格講座 .....	159

## 目 次

第一章 緒論	1
第二章 概論	10
第三章 概論	20
第四章 概論	30
第五章 概論	40
第六章 概論	50
第七章 概論	60
第八章 概論	70
第九章 概論	80
第十章 概論	90
第十一章 概論	100
第十二章 概論	110
第十三章 概論	120
第十四章 概論	130
第十五章 概論	140
第十六章 概論	150
第十七章 概論	160
第十八章 概論	170
第十九章 概論	180
第二十章 概論	190
第二十一章 概論	200
第二十二章 概論	210
第二十三章 概論	220
第二十四章 概論	230
第二十五章 概論	240
第二十六章 概論	250
第二十七章 概論	260
第二十八章 概論	270
第二十九章 概論	280
第三十章 概論	290
第三十一章 概論	300
第三十二章 概論	310
第三十三章 概論	320
第三十四章 概論	330
第三十五章 概論	340
第三十六章 概論	350
第三十七章 概論	360
第三十八章 概論	370
第三十九章 概論	380
第四十章 概論	390
第四十一章 概論	400
第四十二章 概論	410
第四十三章 概論	420
第四十四章 概論	430
第四十五章 概論	440
第四十六章 概論	450
第四十七章 概論	460
第四十八章 概論	470
第四十九章 概論	480
第五十章 概論	490
第五十一章 概論	500
第五十二章 概論	510
第五十三章 概論	520
第五十四章 概論	530
第五十五章 概論	540
第五十六章 概論	550
第五十七章 概論	560
第五十八章 概論	570
第五十九章 概論	580
第六十章 概論	590
第六十一章 概論	600
第六十二章 概論	610
第六十三章 概論	620
第六十四章 概論	630
第六十五章 概論	640
第六十六章 概論	650
第六十七章 概論	660
第六十八章 概論	670
第六十九章 概論	680
第七十章 概論	690
第七十一章 概論	700
第七十二章 概論	710
第七十三章 概論	720
第七十四章 概論	730
第七十五章 概論	740
第七十六章 概論	750
第七十七章 概論	760
第七十八章 概論	770
第七十九章 概論	780
第八十章 概論	790
第八十一章 概論	800
第八十二章 概論	810
第八十三章 概論	820
第八十四章 概論	830
第八十五章 概論	840
第八十六章 概論	850
第八十七章 概論	860
第八十八章 概論	870
第八十九章 概論	880
第九十章 概論	890
第九十一章 概論	900
第九十二章 概論	910
第九十三章 概論	920
第九十四章 概論	930
第九十五章 概論	940
第九十六章 概論	950
第九十七章 概論	960
第九十八章 概論	970
第九十九章 概論	980
第一百章 概論	990

## 一般教育科目 (共通)

### 人文分野

宗 教 学 I (洗 建)	57
宗 教 学 I (佐々木宏幹)	57
宗 教 学 I (松田 文雄)	57
宗 教 学 I (脇本 平也)	57
宗 教 学 I (再クラス)(吉津 宣英)	58
宗 教 学 I (再クラス)(松本 皓一)	58
宗 教 学 II (青龍 宗二)	58
宗 教 学 II (峯岸 孝哉)	58
宗 教 学 II (河村 孝道)	58
宗 教 学 II (櫻井 秀雄)	59
宗 教 学 II (伊藤 秀憲)	59
哲 学 (久保陽一)・(門脇俊介)	59
論 理 学 (小宮山 隆)	59
歴 史 学 (山口 一之)	59
文 学 (新井 章)	60
芸 術 学 (日本美術)(竹内 尚次)	60
芸 術 学 (西洋美術)(中山 典夫)	60

### 社会分野

法学憲法(和知 恵一)	60
法学憲法(小林 弘人)	61
経 済 学 (谷敷 正光)	61
政 治 学 (小林 正敏)	61
社 会 学 (渡辺 源樹)	61
文化人類学(加藤 正春)	62
地 理 学 (渡辺 盾夫)	62

### 自然分野

自然科学概論(三野 英彦)	62
自然科学概論(木澤 綏)	62
数 学 (大森 五郎)	62
物 理 学 (木澤 綏)	63
生 物 学 (丹羽小弥太)	63
生 物 学 (丹羽小弥太)	63
心 理 学 (篠原 英壽)	63
心 理 学 (小野 浩一)	64
人 類 学 (中島 寿雄)	64

地 学 (宇和川正人)	64
化 学 (高木 正博)	64

## 外国語科目 (共通)

英 会 話 (N. Readdy)	65
英 会 話 (W.D. Hubbard)	65

## 保健体育科目 (共通)

体育実技	66
------	----

## 随意科目 (共通)

宗教学特講 I (松田 文雄)	69
宗教学特講 II (脇本 平也)	69
宗教学特講 III (洗 建)	69
哲学特講 I (篠原 壽雄)	69
哲学特講 II (山下 太郎)	70
宗教学人類学(佐々木宏幹)	70
民間信仰論(桜井徳太郎)	70
日本宗教文化史(脇本 平也)	70
民衆宗教成立史(洗 建)	70
歴史哲学(山下 太郎)	71
日本民俗学(山折 哲雄)	71
美術史概説	71
東洋思想史研究(船津 富彦)	71
日本文化史(杉山 博)	72
独 語 F (吾妻雄次郎)	72
独 語 F L L (小林佳世子)	72
仏 語 F (加藤 節子)	72
仏 語 F L L (マドレーヌ・マルタン)	72
仏 語 F L L (松岡 宏一)	73
中 国 語 F (堀田 洋子)	73
中 国 語 F L L (果 荃英)	73
スペイン語 F (佐藤玖美子)	73
スペイン語 F L L (フワン・ナバロ)	73
ロシア語 F (タチャーナ)	

バリーソヴナ・野村).....74	バリーソヴナ・野村).....74
ロシア語 F L L (タチャーナ・	日本語 F (留学生対象)(杉山 秀子)…74

# 一般教育科目(共通)

## 人文分野

### 宗 教 学 I

洗 建

仏教やキリスト教など世界の諸宗教、宗教と文化、人間生活における宗教の意義と役割、世界観や死生観など、宗教現象の諸相をとりあげ、その理解の仕方を学ぶ。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』(世界書院)

### 宗 教 学 I

佐々木 宏 幹

宗教を人間の文化の重要な要素と考える視点にたつて、世界の種々の宗教形態について述べ、特定の社会において信奉されている宗教が人びとの生活にどうかかわり、どんな役割をはたしているかについて考える。仏教やキリスト教のような世界宗教にとどまらず、各地の民俗宗教 (folk religion) についても生きた資料を使って説明する。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』(世界書院)

### 宗 教 学 I

松 田 文 雄

前期において、人間生活と宗教とのかかわりあい、宗教学の学問的領域その研究方法、さらに宗教の起源論、宗教の分類等について、概説し、後期において、史上にあらわれた宗教現象、特に世界宗教 (Universal Religion) といわれる仏教・キリスト教・イスラーム教等について各説する。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』(世界書院)

### 宗 教 学 I

脇 本 平 也

人間生活のあるところには必ず何らかの形の宗教現象が見られる。これは古今東西を通じて変らぬ一つの事実である。それでは、宗教はいかにして始まったのか、その歴史はどのように展開したか、また宗教にはどのような種類のものがあるか、といった疑問が続いて出てくることになろう。これらの疑問にできるだけ体系的に答える努力を試みたい。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』(世界書院)

## 宗 教 学 I (再クラス)

吉 津 宜 英

宗教という何か高い所から下に向かって示されるようなものと考える諸君があるかもしれない。確かに教団を持っている場合には組織というものがあり、教祖と呼ばれる人から平の信者に至るまでの上下の関係があつて、上意下達形になっていることも事実である。しかし、我々はもっと自由人の発想で宗教を考えてよいのではあるまいか。私はこの人生を責任をもって生きることが宗教だと思っている。宗の所に責任という意味を読み、教とはどのように生きるかを学ぶことだと思ふ。この授業は教科書にそつて行ふが、基本的態度は以上のことを眼月とする。最後のテストだけではなく、年間何回かのレポート提出をも御願ひしたい。

〔教科書〕 『宗教学I』(更生社)

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』(世界書院)

## 宗 教 学 I (再クラス)

松 本 皓 一

人間にとって宗教とは何であるか、その意味や働きを考えながら、宗教全体を展望し、後半では仏教について述べる。

〔教科書〕 『宗教学I』(更生社)

## 宗 教 学 II

青 龍 宗 二

この講座は、宗教学Iをうけて禅仏教を講じてゆくが、特に禅の歴史を通してその宗教の意味を考えてゆくと共に、道元禅の特異な思想を学びながら、現代の人間とどのような関り合いをもつかを追求してみたい。

## 宗 教 学 II

峯 岸 孝 哉

この宗教学IIは、中国で成立し、独自の展開をとげた禅仏教の解説を目的としているがこれは宗教学Iとの関連性を十分考慮してすすめられる。つまり禅仏教のもつ意味と機能、構造について考えていく。それも今日のわれわれの生活とのかかわりの中で、問題としてみたい。

〔教科書〕 『宗教学II』(更生社)

〔参考書〕 『禅語録』〔世界の名著続3〕(中央公論社)

## 宗 教 学 II

河 村 孝 道

日常的立場と宗教的立場における視点の相違について理解、禅仏教の立場の思想的理解および宗教(禅)と人生との関り合いとそこから種々の問題について考察する。

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』(世界書院)

## 宗 教 学 II

櫻 井 秀 雄

宗教学 I における学究成果の上に立ち、中国に渡来以後の仏教を中心に、その変容をあ  
とづけ、殊にその間における禅宗教団の形成と、その思想をさぐり、日本における道元禪  
の解明に及ぶ。

〔参考書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

駒沢大学仏教学研究室編『宗教学 II』（更生社）

## 宗 教 学 II

伊 藤 秀 憲

インドにおける禪定、中国での禅宗の成立と発展、そして日本への流伝（特に道元禪師  
とその門流を中心に）と言った、禅の歴史を通観し、そこに現われた禅匠たちの生き方か  
ら、禅の人生観・人間観等を考察したい。

〔教科書〕『宗教学 II』（更生社） ¥ 1,950

## 哲 学

久保陽一・門脇俊介

人間は生れつき、知識の営みをするように定められている。人間のもつどんな知識でも  
思想を表わし、人間はその思想によって生きている。しかしわれわれの日常生活では、自  
分がどのような思想によって生きているかの自覚がない。それは、伝統的思想に支配され  
ているからである。われわれが「よりよく生きる」ことを願うならば、一定の目標を定め  
なければならず、そのためには自覚した思想をもたなければならない。哲学は、古代から  
現代に至るまでの自覚された思想を研究し、さらにそれを自らの生きるための思想とする  
ものである。また大学における学問研究の基礎知識の習得にも努める。

## 論 理 学

小宮山 隆

論理学は、正しく思考するためには「いかに思考すべきか」を教える科学である。こ  
こでいう思考は、推理という型の思考である。われわれは、学問する場合はむろんのこと  
日常生活においても、たえず思考しているが、必ずしも正しく思考しているとはかぎらな  
い。したがって、論理学によって正しく思考するための法則を学ばなければならない。さ  
らに、現代の科学技術や電算機の基礎になっている論理法則の理解や習得をする。

## 歴 史 学

山 口 一 之

政治史の観点から幕末維新史の講義を行います。

## 文 学

新 井 章

日本の詩歌の歴史を概括的に把握する。上代、中世、近世、近代の四つの時代に分けて考察しつつ新しい詩歌の方向をさぐる。

〔教科書〕 『日本韻文史』（桜楓社）

## 芸 術 学（日本美術）

竹 内 尚 次

日本美術を語る国宝・重要文化財指定の絵画作品を中心に時代の潮流や仏教教団の起仏のなかで、その芸術上の評価の性格を美術史のうえから確かめ、それぞれの保有する古典としての高い詩と真実を捉えようと試みる。

しかし、これは、それぞれの学び研究しようとするひとの、みづからの行動・はたらきが無くては不可能である。したがって、わたくしは、箇々の作品の現在における史料や学界が到達している常識を提出して、諸君の研究のお手伝いをする、というわけで、表面上の美術概説（術学、カルチャー）となることはしない。つまり、美術品への讃辞は用いない。

〔参考書〕 『国宝』（毎日新聞社）玉村竹二『夢窓国師』（平楽寺書店）

## 芸 術 学（西洋美術）

中 山 典 夫

西洋美術の歴史を、古代から、中世を経てルネサンスに至るまで、作例を多く挙げて展望する。講義にはスライドを用いる。

〔教科書〕 澤柳六五郎『様式の歴史』（美術出版社）

## 社 会 分 野

### 法 学 憲 法

和 知 恵 一

われわれは日常の社会生活の中で、無意識のうちに「法」とかかわりあっている。たとえば、交通機関を利用する、アパートを借りる、食堂で食事するといった日頃の活動も常に「法」的な側面を持っているのである。

これら「法」の本質、あるいはその発展状況をふまえながら、社会生活に不可欠な法知識の基礎を、多くの具体的事例を挙げて講義したい。

〔教科書〕 『小六法』（有斐閣）

〔参考書〕 小林弘人『現代憲法問題』（東京教学社）

## 法 学 憲 法

小 林 弘 人

「法」は、私達の日常生活とどのようなかかわり合いをもっているか。またその法が、「社会」においていかなる機能をはたしているかについて、なるべく多くの具体的事例を提供しながら、講義を行う。今年度にかぎり、前期は憲法問題について、後期は「法」一般についての講義を予定している。

〔教科書〕 桜井・緒方・熊田・小林共著『憲法27講』（創成社）

## 経 済 学

谷 敷 正 光

われわれが生活している社会は資本主義社会であり、そこに起こるあらゆる社会事象や課題に対し客観的で公正な判断を下すには、資本主義社会の科学的な知識＝資本主義社会の構造や運動法則を把握している必要がある。本講は資本主義社会の基本的理解のため、まず経済社会はどのように発展してきたかといった歴史的發展法則の理解から、こうして成立した資本主義社会は一体どのような特徴をもち、どういう構造をし、どういう運動を行っているかといった原理的な把握まで体系的に展開するつもりである。

〔教科書〕 林直道『経済学入門』（青木書店）

## 政 治 学

小 林 正 敏

現代政治学の基本的な課題を理論面ばかりでなく、実態的、歴史的側面からも論述する。また本講が社会学科の学生を対象としていることを考慮して、政治社会学的な問題に論及したい。

〔教科書〕 開講後に指定する。

## 社 会 学

渡 辺 源 樹

社会学を学ぼうとする諸君が、まず知らねばならない社会学の基礎概念を学び、そうした学習を基盤として、これがわれわれの生活場面の中でどのような意味をもっているかを知ることにある。

そのためには、人間の存在・行動と関わらしめながら社会集団論・人間関係論・組織論などを中心に据え、単なる机上の学問として終ることなく、つとめて具体的に、家族・地域社会・産業労働・大衆社会などの諸集団についても講述してゆく。

## 文化人類学

加藤正春

文化人類学は地球上の諸民族、諸文化の実証的、経験的理解をとおして、「人間の研究」をおこなう学問である。この学問は、おもに非西欧的、前産業的な社会を比較研究の対象として、人間と文化の多様性と相対性の認識をふかめてきた。講義では、現在実態調査をころみている沖縄や本土の伝統的民俗社会の事例なども紹介し、環境と経済、親族と婚姻、政治と法、宗教と世界観、文化変化その他の、人類文化の諸側面を検討する。

〔参考書〕 講義中に指示する。

## 地理学

渡辺盾夫

この講義では、人文地理学を中心にし、地理学史に始まり「自然環境によって異った社会が成立している」ことから自然環境、社会環境等を説明し、この中で人間がどのように各々の環境に適応しているのかを、それぞれの分野から講義をする。

講義では、特に教科書は使用しないが、必要な時にはプリントを配布する。

## 自然分野

### 自然科学概論

三野英彦

資源問題、エネルギー問題、環境汚染問題、ないしは、わが国科学技術発展の展望など、今日のわれわれの身近かな科学的諸問題を取りあげて、講義する。

### 自然科学概論

木澤 綏

核融合と明日の灯、宇宙時空の地平線、空間の歪み等の諸問題と共に、“人間精神の得た最高の創作”とされる対性理論を講義する。又、我々の身边に目を転じて、大規模地震予知、火山活動、異常気象、ボイジャー I、II (Spacecraf) 静止衛星 1・2 号、Space-shuttle (1, 2) の原理等々日々我々を取り巻きつつある遠近の諸問題を、トータルに講義したい。

## 数 学

大森五郎

本講義においては、基礎的理論の解明、理解とその応用に重点をおいて、微積分学を中心として講述し、更に行列、確率および統計などについて教授する。なお簡単な数学史をも随時講義に挿入する。

## 物 理 学

木 澤 綏

光は粒子か波動か，更にその重さや速さを捕えるまでに至る，人類祖先の辛苦を説く。自然の真理と物理学の発展を述べる。更に次の順序で講義する。

I：人類の発生からルネッサンスまで。

II：ケプラー，ガリレオ，ニュートンと近代物理学の夜明け。

III：20世紀の物理学，Ether の謎，2つの相対性理論，原子の変換，量子論，原子エネルギー，超伝導現象，電子回路の集積化。

## 生 物 学

丹 羽 小 弥 太

まず古代ギリシャに始まる黎明期から現代に至るまでの生物学の発展史を概観し，科学としての生物学の特質をクローズ・アップさせる。

地理学との関連を考慮し，ダーウィンの進化論，またヒトの起原と進化の問題については特に詳細に講述する。

〔教科書〕 丹羽小弥太『ヒトの生物学』（協同出版）

〔参考書〕 ダーウィン『ビーグル号航海記』（岩波新書）

パーガミニ『オーストラリア』（タイムライフ社）

## 生 物 学

丹 羽 小 弥 太

生物学の発展史を辿りながら，斯学の本質をさぐり，隣接諸科学との関連についても考究する。また生物としてのヒトの本質を明らかにするために，その起原と進化の跡をたずね，また生物的存在としてのヒトと社会的存在としての人間との関係についても説き及ぶ。

〔教科書〕 丹羽小弥太『ヒトの生物学』（協同出版）

〔参考書〕 植原拓郎『人類進化学入門』（中公新書）

## 心 理 学

篠 原 英 壽

この講座は一般教養科目に組入れられているので，心理学の関与している問題を全般的に取上げたい。そこで心理学がどのような歴史的背景のもとに現代心理学にみられるような体系化されたものになってきたのか，その研究対象・研究方法について講義し，さらにこれまでの研究成果のもとに具体的事例に即して，上述したこととの関連を紹介したい。

〔教科書〕 『心理学概説』（八千代出版）

## 心 理 学

小 野 浩 一

心理学全般にわたって基礎的な問題を概観し、心理学的なものの見方、考え方とはどのようなものであるかを考えてゆきたい。講義は以下の項目にしたがって進めてゆく予定であるが、随時供覧実験などを折り込み、心理学研究の雰囲気も味わってもらいたいと思っている。

○心理学とは何か（対象・方法） ○環境の認知（感覚、知覚） ○行動の変容（学習、記憶、思考） ○行動の機制（動機づけ、情動） ○人格の構造 ○社会的行動  
〔教科書〕 中村昭之監修『心理学概説』（八千代出版）

## 人 類 学

中 島 寿 雄

人類学の範囲はきわめて広く、短時間にその各項目を講ずるときは、表面をなでるだけの散漫なものになりがちなので、ここでは問題を「性」にしぼって講ずる。性は人類学上の重要な概念であるばかりでなく、人類学のほとんど全領域をおおいうものだからである。本学の人類学は一般教育のうち自然科学分野に属しているので、講義も自然科学的方面に主眼をおくことは勿論であるが、ヒトの本質上、社会や文化にも言及せざるをえず、むしろ身体と文化との関連を考究させることこそ、一般教育人類学の目的に副うものといふべきであろう。

〔教科書〕 準備中

〔参考書〕 講義中に随時指示する

## 地 学

宇和川 正 人

大気、土、水及び生物圏を通じて、人類とのかかわりあいについて解説する。特に、風土環境の保全に対する諸問題について考察する。

## 化 学

高 木 正 博

地理学科を対象として開講されており、これと関係の深い地球化学および環境化学的な内容としたい。そこでまず、化学の領域における基礎的な諸事項を理解し、つぎに、化学物質と自然環境との結びつきや、さらにいくつかの身近な化学物質をとりあげ、化学物質と人間のかかわりあいについてのべる。

## 外国語科目(共通)

英 会 話

N. Readdy

The textbook used in this class [ENGLISH 900] is an audiolingual method and requires tapes [about 15 minutes per class] as well as class participation, both group and individual. ENGLISH 900 implies the 900 sentences which are considered essential for speaking every day English. The student will be drilled in the sentence patterns contained in this book until he can use them with ease as well as make substitutions using the sentence base as a guide. There will be two examinations each school year. Students are required to attend both.

TEXTBOOK: ENGLISH 900. Book 3. COLLIER MACMILAN INTERNATIONAL The English 900 series consists of 6 books with 10 chapters per book. In this class we will be using Book 3 only.

英 会 話

W.D. Hubbard

This aural comprehension and speaking oriented course is designed for those students who either expect to study English conversation for just one year or plan to further their competence through subsequent classes. The ability to communicate in English is a very useful ability to have. Through the use of effective linguistic methods, this course is designed to help you acquire the ability to successfully communicate your ideas in English.

The text for this course will be ENGLISH 900, Book 3. Tapes for this text will also be made available during the course.

# 保健体育科目(共通)

## 各実技種目の概要及び指導教員名

球 技(体育館) 原山良勁  
宮沢栄作

基礎技術の習得とに併わせて、ゲームにより、その競技を理解する。(バレーボール、バスケットボール、その他)

服装：一般的運動服装，上履用運動靴

体 操(玉川校舎) 三幣晴三

マット・鉄棒を中心に行い、初心者を中心とした遊戯的内容から出発し、段階的に技を指導する。

服装：一般的運動服装，靴は体操シューズが望ましい。

相 撲(玉川校舎) 館岡儀秋

基本技(攻の型・守りの型)の練習を主に、併せて応用技の習得を行い、心・技・体三則の本義を理解させる様指導する。

土俵マットを使用し、服装は海水パンツ等の上に、相撲パンツを使用する。

ウエート・トレーニング(玉川校舎) 宮沢栄作  
秋田浩一

個人の体力差に応じてトレーニングプランを作成し、主にバーベルを使用したウエートトレーニングを行なう。このトレーニングの目的は体力、体軀の増強、内臓器官の強化である。

柔 道(玉川校舎) 光永吉輝

初心者を対象として基本技能(受け身)応用技能(投げの形)(固の形等)の練習を行う。服装は原則として柔道衣。

## 剣 道 (第二体育館)

上 山 智 身

剣禅一致の精神に基き初心者を対象として下記の順序で実施する。

1. 基本動作
2. わざ
3. 懸り稽古, 互格稽古
4. 試合稽古

服装・試験については最初の授業において説明する。

## 空 手 道 (玉川校舎)

大 石 武 士

高 橋 俊 介

拳禅一致の精神に基き初心者を対象として下記の順序で実施する。

1. 基本技 (空気を相手に, 受, 突, 打, 蹴技の反復練習)
2. 形 (基本技の受, 突, 打, 蹴を合理的に構成したもので空気を相手に行う)
3. 護身術
4. 約束基本組手 (基本技で取得した, 受, 突, 打, 蹴技を実際に相手をおいて行う簡単な約束した組手)

服装は原則として空手道衣着用のこと。

## 陸 上 競 技 (玉川校舎)

森 本 葵

館 岡 儀 秋

駒大式四種競技 (100米, 長距離, 砲丸投, 走高跳) とし得点制とする。

服装はランニングパンツが望ましいが, 普通のトレパンでも可, なお, スパイクの着用は原則として認めない。

## ソ フ ト ・ ボ ー ル (玉川校舎)

太 田 誠

基本技能を中心として毎時間ゲームを行う。服装はトレシャツ, トレパン, クラブ, ミットは貸与する。

## ハ ン ド ・ ボ ー ル (玉川校舎)

村 松 誠

浅 野 鉦 世

パス, シュート等基本技術を中心にゲームを行なう。服装は, トレシャツ, トレパン, 運動靴を用意すること。

## サ ッ カ ー (玉川校舎)

秋 田 浩 一

基本技術を中心として練習し, 毎時間ゲームを行う。

服装はショートパンツと厚い靴下を着用すること。

卓 球（玉川校舎）

長 浜 友 雄  
原 山 良 勁  
牧 野 茂  
嶋 田 美津子

ゲーム（シングル、ダブルス）中心の授業を行う。服装は体育時のもので良い。体育館シューズを用意すること。（ラケットは貸与する）

テ ニ ス（玉川校舎） 長 浜 友 雄・牧野 茂  
浅 野 鉦 世・嶋田 美津子

ゲーム（ダブルス）中心の授業を行う。服装は、一般運動服装（白のトレーニングパンツまたは短パンツが望ましい）とするが、靴はテニスシューズを用意すること。

### 実 技 教 場 案 内

- (1) 体 育 館：本学内，男子更衣は三階東側スタンド。（ステージに向い左側）  
女子は三階西側の更衣室。（ステージに向い右側）  
TEL (418) 9517
- (2) 第二体育館（武道館）：本学内 3 号館の裏側相撲道場の隣，一階は柔道場，二階は  
剣道・空手道場。更衣室は各階に有る。  
TEL (418) 9201
- (3) 玉川校舎：世田谷区宇奈根 1-1-1（学生手帳を参照）  
TEL (709) 0717

# 随意科目(共通)

## 宗教学特講 I

松田文雄

——宗教思想および用語の概説——，特に教職単位であることを考慮し，宗教思想の潮流，および宗教思想史上の基本的用語を概説する。今年度は日本仏教を取り上げる。

〔参考書〕 プリント

〔教科書〕 随時指示する。

## 宗教学特講 II

脇本平也

——宗教現象の構造——宗教現象は，その内部にさまざまな構成要素をはらんだ複合的な体系をなしている。たとえば，宗教体験，思想・教義，儀礼，教団などの諸契機が構造的に連関しながらこれを形成している。そうした構造の分析と類型化を試みる。

〔参考書〕 適時指示する。

## 宗教学特講 III

洗 建

現代社会における宗教の問題，すなわち，新宗教運動，世俗化，政教関係などの問題について考える。今年は政教関係にかかわる問題を取りあげ，法的制度とそれを支える価値規範，更にその底流にある伝統的宗教文化との関係などについて考察したい。

〔参考書〕 その都度，指示する。

## 哲学特講 I

篠原壽雄

中国の哲学を考える時に，孔子の占める位置は大きい。儒学は孔子を頂点として発展してきた。孔子に対して，老子の議論は形而上学的である。荘子は老子をつぐ。この孔老荘をはじめとして，孟荀韓など先秦諸子の哲学は多彩である。これらの哲学を学び，より思索的である宋明の理学までたどりたい。そして中国人が古来追求してきたものは何か。それは生きている人間とどのようなかかわり合いをもつものか等を学びたい。

〔教科書〕 プリント

〔参考書〕 随時示す。

## 哲学特講Ⅱ

山下 太郎

西洋近世哲学史において一つの顕著な時代を劃したドイツ理想主義の哲学の流れを概観し、とくにヘーゲル哲学の形成と展開とを中心として講義する。またその批判的潮流としてショーペンハウエルの意志哲学にもふれ、哲学における主知主義と主意主義の比較をも試みたい。とりわけ社会哲学の側面に注目し、時代との連関を明らかにすることにつとめる。

〔教科書〕 山下太郎『社会存在の理法—ヘーゲルとショーペンハウエル—』

## 宗教人類学

佐々木 宏 幹

まず宗教人類学の成立史と構成内容・方法について概説し、のちに個別の課題を取りあげて解説する。対象地域を東・東南・南アジアの民俗社会に限定し、それらにおいて営まれている宗教現象と社会生活とのかかわり合いについて考える。呪術的方法と科学(医術)的方法との関連などについて最近の成果を紹介する。学生諸君からも地域社会で行われている儀礼・慣行などについて意見を述べてもらおう。

〔参考書〕 佐々木宏幹『人間と宗教のあいだ』(耕土社) ¥ 1,500

## 民間信仰論

桜井 徳太郎

成立宗教が地域社会に定着するにしても在来の民間信仰が大きくものをいう。また日本人のものの考え方や生活に大きな影響を与える基層信仰を支えるのも民間信仰である。その点を分析しながら、関係する学を志すものに対して実りある内容を提供したい。

〔教科書〕 桜井徳太郎『日本民間信仰論』(弘文堂) ¥ 2,300

## 日本宗教文化史

脇本 平也

—宗教思想論争—昨年度に引き続き、日本における宗教思想の対立・論争の事例をいくつか取り上げ、文化史的背景を考慮しながらながめてみる。原史料を読む場合には、演習形式を取り入れて学生諸君にも分担を課することがある。

〔参考書〕 適時指示する。

## 民衆宗教成立史

洗 建

わが国近代における民衆宗教(新宗教)の成立と展開について概観する。次いで、新宗教発生の要件、新宗教の現代社会における意義、役割等について考察したい。

〔参考書〕 『新宗教の世界』大蔵出版、など。

## 歴史哲学

山下 太郎

次の順序で講義する。

### (1) 歴史認識の問題

新カント学派（ヴィンデルバント・リッケルト）、生の哲学（デイルタイ）、実存哲学（ヤスベルス、サルトル）の歴史認識論を解説し、また反批判としてクロード・レヴィ＝ストロースの見解などにふれる。

### (2) 歴史発展の段階の問題

終末論的歴史観（キリスト教、北欧思想など）  
進化論的歴史観（コント、スペンサー）  
弁証法的歴史観（ヘーゲル、マルクス）  
実存主義的歴史観（ニーチェ、ヤスベルス）等。

## 日本民俗学

山折 哲雄

柳田国男と折口信夫の仕事を日本現代史の流れのなかで位置づけ、その文学的性格と思想的意味を吟味してみようと思う。

〔参考書〕 山折哲雄『霊と肉』（東大出版会）

## 東洋思想史研究

船津 富彦

中国の思想の流れは、実に複雑な面を持つが、本年度においては日本文学にも大きな影響を与えた文学論を中心にして、歴史的な流れにおいて、その代表的文献を読みつつ、思想的な立場から種々考察してみたい。

〔参考書〕 講義中に指示

## 美術史概説

杉山 二郎

開講時に指示する。

日本文化を創造し発展せしめた基盤を形成した職人層について、中世に残された4つの職人歌合絵巻を中心にして、その具体相を明らかにしたい。

〔教科書〕 プリント使用

## 独 語 F

吾妻 雄次郎

主として読解力を養うため、Seghers, Bredel, Hermlin 等の短篇小説を読み、戦前から戦後にまたがるドイツの現代作家たちの眼が現実をどのように捉えていたかの一端を識る緒にしたい。

〔教科書〕 使用テキストについては開講時に教場において指示する。

## 独 語 FLL

小林 佳世子

音としてのドイツ語にふれ、聴きとり能力を養成することに重点をおく。聴きとることができてこそ意志の疎通も可能となるからである。テープを繰り返し聞くことにより、発音および基本的な文型や語彙を身につけ、平易な日常会話ができるようにしたい。口頭練習の他、できるだけ多様なテープを聞き、時にはスライドを見て、生きたドイツ語、ドイツの姿に接して頂きたい。受講者は一年次のドイツ語を既習していることが望ましい。

## 仏 語 F

加藤 節子

フランス十九世紀の文学史のやさしいテキストを読むことによって、フランス語の読解力を修得すると共に、この時期に輩出した大作家・詩人たち、例えばユゴー、スタンダール、バルザック、フロベール、ボードレール、モーパッサン、ゾラなどの文学的位置づけをしていく。また折にふれてこれら作家の作品の抜粋を読んで作品の鑑賞をも併せてやってゆきたい。

〔教科書〕 プリント

## 仏 語 FLL

マドレーヌ・マルタン

テキストを使ってやさしい会話、初めの時間にテキストの説明をし、次の時間にテキストに従って会話をする。

一テキストの復習をよくすること。

一間違いを恐れずに活発な発言をのぞむ。

一松岡先生の会話のクラスを併せて履修することがのがぞましい。

〔教科書〕 La France en Direct 1 のプリント

## 仏 語 FLL

松 岡 宏 一

LL 部に備えてある HACHETT 社の「LE FRANCAIS ET LA VIE」を使用して講義をすすめます。耳の訓練に重きをおき、こちらの設問に適宜な反応を示せるよう指導いたします。この教科書にはスライドと音声がついておりますのでこれを十二分に活用、効果をあげたいと念じております。

生徒諸士に望みたいことは、LL だけではなく同時に他のフランス語直課にも出席していただきたいことです。

〔教科書〕 「LE FRANCAIS ET LA VIE」(HACHETTE)

## 中 国 語 F

堀 田 洋 子

一、二年で学習した中国語の語法や知識を、再確認しながら、現代作家（老舍、巴金、謝泳心等）の短篇を講読していきます。

〔教科書〕 開講時に指示します。

## 中 国 語 FLL

果 荃 英

中国語を選択した2年以上の学生を対象とし、やさしい中国語の会話の練習を目的とします。視聴覚教材（フィルムストリップ）を使用して反復練習で日常会話を習得したいと思えます。

〔教科書〕 教場にて視聴覚教材のコピーを配布する。

## ス ペ イ ン 語 F

佐 藤 玖 美 子

この授業は、1・2年で習得した知識を更に発展、深化させることを目指しており、特に講読力と作文力の養成に力を入れたいと思う。

テキストは受講者の程度によって、適当なものを選ぶ予定。

## ス ペ イ ン 語 FLL

フワン・ナバロ

スペイン語初段を終えたものを対象に、スペイン国営放送より送られた教材用ビデオを使用し、画面のドラマを見ながら楽しく授業を進めたいと思っている。

## ロシア語 F

タチャーナ・バリーソヴナ・野村

本講座はロシア語初級課程を終えたものを主たる対象とする。ロシア語の読解力と表現力の養成を目標としたい。

〔教科書〕 教場にてコピーを配布する。(無料)

## ロシア語 FLL

タチャーナ・バリーソヴナ・野村

テキストに従いやさしいロシア語の日常会話を学習する。正しいロシア語の発音やイントネーションを練習し、簡単なロシア語の表現力を身につけることを目的とする。

〔テキスト〕 『ロシア語を話しましょう』を使用する。

## 日本語 F (留学生対象)

杉山 秀子

本講座は昭和57年度に初めて設置された日本語の随意科目である。対象者は駒沢大学に在籍している1年から4年までの留学生とする。とりわけ日常生活の意志伝達にはさほど苦勞しないが、若干こみいった内容の説明や、正しい表記、用語法などに困難を感じている留学生諸君は是非受講されることが望ましい。なお、受講者の日本語のレベルもバラバラであると予想されるので、授業の最初に簡単なアンケートとテストに答えてもらいその後細目について詳しく説明する。授業では最新のビデオやスライド等を駆使しつつ、現代生活に密着した正しい日本語を修得することを旨としていきたい。

〔教科書〕 面談の上決定します。

# 国文学科

## 基礎教育科目

基礎国文学(片岡 懋).....	76
基礎国文学(富士 昭雄).....	76
基礎国語学(木村 晟).....	76
基礎中国文学(中村 璋八).....	76

## 専門教育科目

国文学概論(渡辺 三男).....	77
国語学概論(木村 晟).....	77
国文学講読Ⅰ(村上 光徳).....	77
国文学講読Ⅱ(高橋 文二).....	77
国文学講読Ⅲ(富士 昭雄).....	78
中国文学講読(篠原 壽雄).....	78
国語学研究(山田 巖).....	78
国文学史Ⅰ(上代)(小野 寛).....	78
国文学史Ⅱ(中古)(渡辺 三男).....	78
国文学史Ⅲ(中世)(水原 一).....	79
国文学史Ⅳ(近世)(乙葉 弘).....	79
国文学史Ⅴ(近代)(橋本芳一郎).....	79
国語学演習Ⅰ(木村 晟).....	79
国文学演習Ⅰ(上代)(小野 寛).....	79
国文学演習Ⅰ(中古)(高橋 文二).....	80
国文学演習Ⅰ(中世)(村上 光徳).....	80
国文学演習Ⅰ(近世)(富士 昭雄).....	80
国文学演習Ⅰ(近代)(片岡 懋).....	80
国文学演習Ⅰ(近代)(石割 透).....	80
国文学演習Ⅰ(近代)(大室 英爾).....	80
国語学演習Ⅱ(木村 晟).....	81
国文学演習Ⅱ(上代)(上野 寛).....	81
国文学演習Ⅱ(中古)(高橋 文二).....	81
国文学演習Ⅱ(中世)(水原 一).....	81
国文学演習Ⅱ(近世)(乙葉 弘).....	81

国文学演習Ⅱ(近代)(橋本芳一郎).....	82
国文学演習Ⅱ(近代)(片岡 懋).....	82
国文学研究(橋本芳一郎).....	82
国文学研究(片岡 懋).....	82
国文学研究(渡辺 三男).....	82
国文学研究(村上 光徳).....	82
文学概論(橋本芳一郎).....	83
国語学史(木村 晟).....	83
言語学概論(小原 雅俊).....	83
上代文学(小野 寛).....	83
中古文学(高橋 文二).....	83
中世文学(村上 光徳).....	84
近世文学(富士 昭雄).....	84
近代文学(片岡 懋).....	84
国文学特講Ⅰ(乙葉 弘).....	84
国文学特講Ⅱ(菊地 良一).....	84
国文学特講Ⅲ(水原 一).....	85
中国文学(中村 璋八).....	85
中国文学演習(飯田 利行).....	85
中国文学概論(飯田 利行).....	85
仏教概論(山内 舜雄).....	85
東洋思想研究(船津 富彦).....	85
日本史概説Ⅰ(古代・中世)(大野達之助).....	86
日本史概説Ⅱ(近世・近代)(吉田 常吉).....	86
日本文化史Ⅱ(杉山 博).....	86
日本民俗学(山折 哲雄).....	86
書道史(谷村 義雄).....	86
書道実習Ⅰ(金子 卓義).....	86
書道実習Ⅱ(金子 卓義).....	86
美術史概説.....	87
美術史(谷村 義雄).....	87
現代美術(中山 典夫).....	87
有職故実(鈴木 敬三).....	87
編集実務(宇賀田達雄).....	87

# 国文学科

## 基礎教育科目

### 基礎国文学

片岡 懋

前期には上代から近代に至る日本文学の展開を、適当な作品の内容を説明しながら、出て来るだけ具体的にたどる。後期は近代、現代の小説を用いて、作品の読み方を考える。

### 基礎国文学

富士 昭雄

日本の古典文学と近代文学との関連を見渡し、あるいはその比較検討を通して、文学上の種々の問題に対する基礎的な理解を深める。具体的に作品に即して研究上の基礎的な知識を養い、また広く日本文学の流れにも考察を進める。

〔教科書〕 プリントを適宜配布する。

### 基礎国語学

木村 晟

国語を愛し、正しく育てるために十分な理解と批判力を養いたく思う。併せて現代国語の諸問題をもとりあげて考察する。

本年は特に日本語の「文法」を体系的に講義する。文法体系は現在最も一般的と思われる橋本学説によるが、必要に応じて山田・時枝両学説を比較対照させることもある。

〔教科書〕 和田利政他著『国文法要説』（桜楓社） ¥ 800

〔参考書〕 橋本進吉『国語法研究』（岩波書店）

山田孝雄『日本文法学概論』（宝文館）

時枝誠記『日本文法（文語篇・口語篇）』（岩波書店）

阪倉篤義『改稿日本文法の話』（教育出版）

此島正年『日本文学史概説』（桜楓社）

### 基礎中国文学

中村 璋八

前期は、魏晉南北朝、唐、宋の代表的な詩と散文を、後期は、戦国の諸子百家と秦、漢の思想家の基本的な文献を読み、それらを通じて中国古典の読解力を養うと共に中国の気候、風土の中から生れた思想や文学を理解させ更に現代の中国の様相を考えて行きたい。

〔教科書〕 『演習講読 中国思想文学史』（明治書院） ¥ 980

## 専門教育科目

### 国文学概論

渡辺三男

国文学の領域・種類・理念および研究法について講じ、国文学と風土・時代・社会との関係等の問題にも及びたい。

〔教科書〕 麻生磯次ほか共著『日本文学概論』（秀英社）

### 国語学概論

木村晟

国語学は特殊言語学の一つである。したがって言語学の研究成果が国語学の研究にも応用されることも当然あり得る。しかしながら、一方国語には他の諸言語には見られない多くの特徴がある。そのために国語学独自の研究分野や研究方法が存することも事実である。——こういう観点から本年は国語学全般について講ずるとともに、文学論や文体論に重点を置いてみたい。

〔教科書〕 福島邦道『国語学要論』（笠間書院） ¥ 600

〔参考書〕 橋本進吉『国語学概論』（岩波書店）

時枝誠記『国語学原論』（岩波書店）

山田忠雄『国語学概論』（日大通信教育部）

築島裕『国語学』（東大出版会）

### 国文学講読Ⅰ

村上光徳

『平家物語』の代表的な句を選んで読み、本文を通して平家物語という作品を十分鑑賞する。そして軍記物語と呼ばれるジャンルの問題や平家物語の文学史的評価、または成立の問題、作者の問題、群がる諸異本の問題、つまり、語りもの・読みものなどの問題、今後の研究方向等さまざまな問題を取りあげて多方面から平家物語を研究してゆく。

〔教科書〕 『平家物語抄』（桜楓社）

〔参考書〕 『平家物語全注釈』（角川書店）

### 国文学講読Ⅱ

高橋文二

『源氏物語』宇治十帖の「手習・夢浮橋」を読みながら、王朝物語世界のありようを考えてみる。あわせて王朝の女流作家たちの日記や歌の特質をも考えてみたい。また写本の読みにも慣れる。

〔教科書〕 『手習・夢浮橋』（新典社） ¥ 未定

古典精釈シリーズ『百人一首』（加藤中道館） ¥ 600

字典『かな』（笠間書院） ¥ 250

## 国文学講読 Ⅲ

富士 昭 雄

西鶴の町人物『西鶴織留』講読。西鶴晩年の町人物の作品の読解を通して西鶴文学の特質を考察する。

〔教科書〕 『西鶴織留』（笠間書院）

## 中国文学講読

篠原 壽 雄

古典文学作品を通して訓読法を学び、古典文学の精華を味読する。また、韻文は主として唐代の代表的作品を学ぶ。特に、杜詩はプリント（教場配布）にて中国音で読み味いたい。

〔教科書〕 『古文真宝』（明治書院）

## 国語学研究

山 田 巖

天草本金句集は、文禄元年（1592）印刷の天草版平家物語に天草版伊曾保物語とともに加えて合綴し、総序を加えて、文禄二年、天草学林から刊行したローマ字本である。本書冒頭に「四書七書などの中より抜き出し、金句集となすものなり」とあるが、実際は、漢籍のほか禅句、国書なども典拠にしている一種の格言辞典と言える。格言は漢文訓読体の文章であるが、それぞれに口語体の文章がついており、当時の文語文と口語文を比較する上に貴重な国語資料である。演習式に授業するので、十分の予習復習を期待する。

〔教科書〕 『天草本金句集』（桜楓社） ¥ 800

## 国文学史 Ⅰ（上代）

小 野 寛

わが国の文学の発生から記紀・万葉に至る奈良時代以前の文学の展開変遷の種々相を概説するとともに、その研究の現状を解説する。

〔教科書〕 金井清一・小野 寛『年表資料上代文学史』（笠間書院）

## 国文学史 Ⅱ（中古）

渡 辺 三 男

中古（平安）文学史の中、前年度に引きつづき、中・後期に重点をおいて講ずる予定。

〔教科書〕 山崎正之ほか編『資料日本文学史』（桜楓社）

### 国文学史Ⅲ(中世)

水原 一

国文学史における“中世”の意義・特質について考察し、主要作品の解題、その文学性を理解する。併せて作家の活動・思想を知り、時代背景を展望する。また関連する学説について検討し、研究上の問題意識を深めたい。

〔教科書〕 『中世日本文学史』(有斐閣)

### 国文学史Ⅳ(近世)

乙葉 弘

近世文学の特質、その史的展開を概説する。

### 国文学史Ⅴ(近代)

橋本 芳一郎

近代文学史のうち、明治時代に重点をおいて概説を行う。

〔教科書〕 吉田精一『近代日本文学概説・改訂版』(秀英出版) ￥1,500とノートを併用。

### 国語学演習Ⅰ

木村 晟

室町時代の国語資料である『かなかき論語』を採り挙げ、室町期における『論語の訓読法を音韻・語彙・語法・仮名づかいの各方面から考察する。同じ室町期の訓法を含んでいると思われる『論語集解建武本』や『論語抄』の類とも比較して、『かなかき論語』の訓法や表記の特徴を明らかにしたい。『類聚名義抄』『節用集』『下学集』『日葡辞書』等の古辞書の類は常に参照する。

〔教科書〕 プリントを用意する

〔参考書〕 授業中に紹介する。

### 国文学演習Ⅰ(上代)

小野 寛

万葉集の歌を各自一首ずつ担当して、徹底的によみ込んでゆく。古注釈から現代の研究まで広く調査し、その上に立って自分なりの研究を深め、研究発表と討論とによって、その一首の解釈を創り出してゆきたい。今年は巻三を扱う。

〔教科書〕 桜楓社本『万葉集』

## 国文学演習 I (中古)

高橋文二

『源氏物語』の「濡標」の巻を読み、王朝女流文学世界のありようを考える。諸本の校合、諸注釈の検討、語彙語句の綿密な調査検討を読解の自らなる前提としたい。

〔教科書〕校注古典叢書『源氏物語(二)』(明治書院) ¥ 980

影印本『濡標』(新典社) ¥ 800

## 国文学演習 I (中世)

村上光徳

『平家物語』演習。本学図書館所蔵のテキストを使用。特に巻九を読み、合戦譚を中心に考察する。諸本との校合や時代背景、さらに地理的な問題をも考える。

## 国文学演習 I (近世)

富士昭雄

西鶴の『好色五人女』演習。影印本をテキストにし、版本の読み方にも習熟する。

〔教科書〕『好色五人女』(文化書房)

## 国文学演習 I (近代)

片岡 懋

堀辰雄、井伏鱒二、中野重治、岡本かの子、中島敦、太宰治、壺井栄、宮本百合子の作品を読み、昭和10年代を中心に、それ以前と以後をも含めながら、文学と社会的条件との関連などを考えて行く。使用する作品については、最初の時間に示す。

## 国文学演習 I (近代)

石割 透

大正期を代表する作家芥川龍之介、菊池寛、佐藤春夫、谷崎潤一郎、広津和郎、宇野浩二らの作品を読み、大正文学の一面をさぐりたい。発表者をあらかじめ指名して、発表者の報告をもとに問題を深めていく。テキストらは教場で指示する。

## 国文学演習 I (近代)

大室英爾

森鷗外、樋口一葉、国木田独步、田山花袋、島崎藤村、夏目漱石などを中心に、明治20年代から30年代に至る作品をじっくり読みながら、その展開の相を考察したい。なお、時間が許せば40年代にまで及ぶつもりである。

〔教科書〕各種文庫本を用いる予定であるが、詳細は教場にて指示する。

## 国語学演習Ⅱ

木村 晟

国語学研究の方法論を講ずるとともに、併せて国語学専攻生の卒論指導を行う。本年度は『和漢朗詠集私注』の国語学的研究を行う。天文頃古写の古典刊行会本と室町期写本の内閣文庫本とを比較対校し、音韻・語彙・語法・仮名づかい等につき国語学的考察をなす。『類聚名義抄』『色葉字類抄』『節用集』『日葡辞書』等の古辞書の類は常に参照する。

〔教科書〕 山内潤三他編『和漢朗詠集私注』（新典社） ¥ 2,000

〔参考書〕 授業中に紹介する。

## 国文学演習Ⅱ（上代）

小野 寛

前期は上代文学に関する問題のある研究論文をいくつか取り上げて演習する。後期は各自が卒業論文に選んだテーマに関して研究発表し、皆で考え、採み合いながら、各自の卒業論文への結実を図る。

## 国文学演習Ⅱ（中古）

高橋 文二

「枕草子」を読みながら、王朝文学、とくに王朝の随筆や物語の特質について考えた。発表時の方法、手続きなどは演習Ⅰに準ずる。卒業論文の指導をも併せて行なう。

〔教科書〕 校注古典叢書『枕草子』（明治書院） ¥ 980

能因本『枕草子』（影印）（笠間書院） ¥ 1,500

## 国文学演習Ⅱ（中世）

水原 一

「太平記」を研究する。主要章段について解釈・考証を行ない、参考文献を調査し、人物像、事件、歴史的背景を追求する。またこの演習の経験を通して、中世文学関係の卒業論文指導を行なう。

〔教科書〕 日本古典文学大系『太平記（二）』（岩波書店）

## 国文学演習Ⅱ（近世）

乙葉 弘

近松以外の浄瑠璃をテキストとして演習を行う。卒業論文の指導は論文執筆者の論題を調べ、卒業の参考になる文献をコピーして読みたい。

〔教科書〕 日本古典文学大系『浄瑠璃集』（上）（岩波書店）

## 国文学演習Ⅱ(近代)

橋本芳一郎

日本近代文学のうち、学生が卒業論文に選んだ作家の主要作品を演習として攻究し、併せて卒業論文の執筆指導を行う。

〔教科書〕} その都度教示する。  
〔参考書〕}

## 国文学演習Ⅱ(近代)

片岡懋

北村透谷の詩、評論と石川啄木の評論を読み、日本近代文学の在り方や問題点について考察し、併せて卒業論文作成上の参考となるよう考えたい。

〔教科書〕 岩波文庫『北村透谷選集』岩波文庫『時代閉塞の現状：食うべき詩他10編』

## 国文学研究

橋本芳一郎

「森鷗外研究」……森鷗外の主要評論・作品を年代順に検討しながら、その人と文学について語るとともに、それに関する諸研究者の業績を紹介することによって、近代文学研究の広さと深さを知ってもらう。

〔教科書〕} その都度教示する。  
〔参考書〕}

## 国文学研究

片岡懋

明治20年代末葉の深刻小説の時代から40年代の自然主義の成熟期に至るまでの写実主義的手法の展開について柳浪、風葉、天外、秋声、独歩、花袋、藤村、魯庵、蘆花、尚江らの作品によって、具体的に考察する。

## 国文学研究

渡辺三男

国文学研究に援用すべき古典資料の解説と利用法について講ずる。私が卒業論文の指導を担当する学生諸君に特に受講するよう希望する。教材は、私の方で用意する。

## 国文学研究

村上光徳

平安物語や人物批評書である無名草子を読む。特に源氏物語を中心にした女性論、男性論、作者論等を平安末期から中世にかけて生きた一女性の評論の書であるから、当時の平安物語の読み方、考え方、評価等見ることができ、たいへん有意義。

〔教科書〕 「昭和校注無名草子」(武蔵野書院)

## 文学概論

橋本 芳一郎

世界文学の観点から、文学の本質・目的意識・要素・ジャンルなどについて重要な学説を紹介しながら概説し、併せて近代文芸思潮の概説も行う。

〔教科書〕 ノート使用

〔参考書〕 その都度教示する。

## 国語学史

木村 晟

国語学が国語に対する意識の理論的体系であるとするならば、国語学史は国語意識の展開の歴史である。単に研究業績の解説にとどまることなく、国語学史が国語学の展開に重要な意義をもつことを明らかにしたい。本年は特にテュマハ（文法）の研究史と辞書の研究史とに重点を置く。

〔教科書〕 田辺正男『国語学史』（桜楓社） ¥ 1,800

〔参考書〕 授業中に紹介する。

## 言語学概論

小原 雅俊

ソシュールに始まる現代言語学の考え方を、記号、意味、音素、弁別特徴、形態素、語文、テキスト、共時態と通時態、ラングとパロールなど興味深い、基本的な問題を取り上げ、分析を加えることによって解明してゆく。あわせて比較言語学の方法についても触れる。

〔参考書〕 G. ムーナン『ソシュール構造主義の原点』（大修館書店） ¥ 1,000円

千野栄一『言語学のたのしみ』（大修館書店） ¥ 1,400円

## 上代文学

小野 寛

万葉集をよむ。万葉びとにとって歌とは何であったかという問いかけを軸にして、上代の歴史・社会・風土・民俗を考え、その中で生きる万葉びとのところを追求め、ことばの本源を探ることになるだろう。

〔教科書〕 小野寛校注『万葉集抄』（笠間書院）

## 中古文学

高橋 文二

「和泉式部日記」を読みながら、王朝女流文学世界のありようを考えたい。他の女流作家たちの日記や物語とも随時、比較検討しながら、この日記の特質を考えてみたい。

〔教科書〕 『和泉式部日記』（桜楓社） ¥ 880

影印本『和泉式部日記』（笠間書院） ¥ 600

## 中世文学

村上光徳

卜部兼好及び徒然草の研究。兼好の生き方、歌人等について考察し、徒然草を読む。

## 近世文学

富士昭雄

芭蕉の俳諧紀行『野ざらし紀行』『笈の小文』などを精読し、芭蕉の文学の特色を解明する。

〔教科書〕 『芭蕉紀行集』（桜楓社）

## 近代文学

片岡 懋

夏目漱石の「彼岸過迄」、「行人」、「心」、「道草」、「明暗」と小品「思い出す事など」、「硝子戸の中」を読み、人間検証の文学を確立した道程を追う。

〔教科書〕 それぞれの作品について、岩波書店新書版「漱石全集」第10～15、17巻、又は各文庫

〔参考書〕 小宮豊隆『夏目漱石』（岩波書店）『夏目漱石と芥川龍之介』（片岡良一著作集・第九巻）（中央公論社）

## 国文学特講 I

乙葉 弘

近松の浄瑠璃を読み、人形浄瑠璃劇の成立変遷、近松の伝記、その作品の特質などを講述する予定。なお浄瑠璃と歌舞伎との関係にも及びたいと思う。講読は「心中天の網島」その他。

〔教科書〕 日本古典全書『近松門左衛門集』〔下〕（朝日新聞社）

## 国文学特講 II

菊地良一

説話文学、特に仏教説話文学を中心に講読してきたが、本年は今昔物語集を中心に考察する。特に今昔物語集における仏教とは何であるか。今昔説話のテーマとする仏教を中心として考察する。天竺部における仏伝説話、本生談、震旦部における仏教説話、本朝部における仏寺法会の縁起談、経典仏菩薩の靈驗談のもつ説話的特質について考察する。そして本書が中世説話文学へのいかなる意味をもつものであるかについて仏教の側からの文学性について論ずることとする。

〔教科書〕 使用しない。

「とはずがたり」の作品理解・人物研究・歴史背景・文体研究等を講じ、中世自照文学の深部的問題に関心を高めたい。

〔教科書〕 筑摩叢書『とはずがたり』（筑摩書房）

## 中国文学

中村 璋 八

中国の代表的な歴史書である司馬遷の史記の列伝を、代表的な注釈書、集解、正義、索隠の三注を対照しながら読む。このことに拠って中国古典の読解力を養うと共に司馬遷が依拠した春秋左氏伝、国語、戦国策、呂氏春秋と史記との関係も考えて行く。授業は演習方式に進めて行くので、ほんとうに実力をつけたいと思う学生の受講を望む。

〔教科書〕 プリント

## 中国文学演習

飯 田 利 行

良寛詩は三千年の中国文学史上、画期的な形態と内容をもったものである。そのためか、現在「ぎょうせい社」で出版中の『世界の伝記』五十巻には、古今東西の偉人五十名が選ばれているが、仏家では「釈迦」と「良寛」だけである。良寛詩は、日本が世界に誇りうる唯一の文学作品である。

〔教科書〕 『良寛詩集訳』大法輪閣 ￥2,200

## 中国文学概論

飯 田 利 行

日本文学と対照して中国文学を概論する。

## 仏教概論

山 内 舜 雄

仏陀論、仏身論を中心に、仏教思想の体系的解説をなし、各宗教学の概括的説明におよぶ。

〔教科書〕 ノート講義

## 東洋思想研究

船 津 富 彦

中国の思想の流れは、実に複雑な面を持つが、本年度においては日本文学にも大きな影響を与えた文学論を中心にして、歴史的な流れにおいて、その代表的文献を読みつつ、思想的な立場から種々考察してみたい。

〔教科書〕 なし

〔参考書〕 講義中に指示

## 日本史概説 I (古代・中世)

大野 達之助

大和朝廷の成立から飛鳥・奈良・平安・鎌倉・室町時代にかけて、政治、経済、文化の各分野について論述する。

〔教科書〕 新稿『日本史概論』(吉川弘文館)

## 日本史概説 II (近世・近代)

吉田 常吉

江戸幕府の幕藩体制の成立と崩壊への推移を述べ、明治政府の成立とその中央集権的統一国家形成への過程について概説する。

## 日本文化史 II

杉山 博

日本文化を創造し発展せしめた基盤を形成した職人層について、中世に残された4つの職人歌合絵巻を中心にしてその具体相を明らかにしたい。

〔教科書〕 プリント使用

## 日本民俗学

山折 哲雄

柳田国男と折口信夫の仕事を日本現代史の流れのなかで位置づけ、その文学的性格と思想的意味を吟味してみようと思う。

〔参考書〕 山折哲雄『霊と肉』(東大出版会)

## 書道史

谷村 義雄

殷周の甲骨文および金文に始まる漢字の発展の歴史を学習するとともに、書が文字の芸術として如何に受容されていったかを考えることにしたい。

〔参考書〕 『書の歴史』(二玄社)『書の本』〔I, II, III〕(筑摩書房)

## 書道実習 I

金子 卓義

古典の臨書による、筆法、形態などの研究を主に書道全般にわたる基礎知識を学ぶ。

〔教科書〕 ○『書道I』〔高校用教科書〕(教育出版社) ○『中国の書道孟法師碑』(書芸文化新社)

## 書道実習 II

金子 卓義

古典の臨書によって書法を学び、表現力を養い、作品製作にまで導く。

〔教科書〕 『書道II』(教育出版社)『祭姪稿, 争座位帖』(書芸文化新社)

## 美術史

谷村義雄

中国において漢字が実用性の域を超えて、芸術として発展した経緯を、美術史的にさぐる。

〔参考書〕 『書の歴史』(二玄社)『書の本』〔I, III〕(筑摩書房)

## 現代美術

中山典夫

印象主義にはじまる現代美術の流れを、絵画作品を中心にして、追ってゆく。講義にはスライドを用いる。

## 有職故実

鈴木敬三

武家故実を中心として講義する。弓馬軍陣を旨とする故実にみえる名称とその実体とする構造について、文献と遺品・絵画を基本とし、時代の推移にともなって変貌する内容を検討して、中世の物語記録の用語に対する研究水準を紹介する予定である。

## 編集実務

宇賀田達雄

将来マスコミ方面に進む場合は当然だが、一般の企業に就職しても、PR誌や社内報の製作など、文章を書き、それを編集する機会はきわめて多い。その際まず必要なことは、いかにして編集企画をたてるか、印刷にはどのような種類があり、どのようにして工場に原稿を渡すかという知識である。また、見出しをつけ、校正をすることも、その作業に欠くことのできない特殊な技術といえよう。これらのことを、実習を通じて考えてみたい。

〔参考書〕 『編集校正便覧』(印刷学会出版部) ¥ 250円

## 美術史概説

杉山二郎

開講時に指示する。

# 英米文学科

## 基礎教育科目

英文学概論(三神 勲).....	89
米文学概論(田中 保).....	89
英語演習 I A(河崎 征俊).....	89
英語演習 I A(佐藤 千春).....	89
英語演習 I A(高野 正夫).....	89
英語演習 I B(A. G. Ryder).....	90
英語演習 I B(N. Readdy).....	90
英語演習 II A(岡崎壽一郎).....	90
英語演習 II A(兼谷 英夫).....	90
英語演習 II A(坂本 武).....	91
英語演習 II B(A. G. Ryder).....	91
英語演習 II B(N. Readdy).....	91

## 専門教育科目

英語学概論(大沢 一雄).....	92
英文学史 I(三神 勲).....	92
英文学史 II(三好 弘).....	92
米文学史(佐藤 千春).....	92
英語史(岡田 尚).....	93
英語学研究(坂本 武).....	93
批評論研究(金関 寿夫).....	93
シェイクスピア(三好 弘).....	93
英文学演習 I(中世)(河崎 征俊).....	93
英文学演習 II(英文学16C)(三神 勲).....	93
英文学演習 III(英文学17C)(三好 弘).....	94
英文学演習 IV(英文学18C)(小林 亨).....	94
英文学演習 V(詩19, 20C)(高野 正夫).....	94
英文学演習 VI(小説 I 19C)(前田 脩).....	94
英文学演習 VII(小説 II 20C)(飯島 淳秀).....	94
英文学演習 VIII(批評19, 20C) (高野 正夫).....	94
英文学演習 IX(演劇19, 20C) (三好 弘).....	94

米文学演習 I(詩)(金関 寿夫).....	95
米文学演習 II(小説 I)(田中 保).....	95
米文学演習 III(小説 II)(佐藤 千春).....	95
米文学演習 IV(小説 III)(田中 剛).....	95
米文学演習 V(批評)(赤祖父哲二).....	95
米文学演習 VI(演劇)(山本 澄子).....	95
英文学特講 I(英文学16, 17C) (石原 孝哉).....	96
英文学特講 II(英文学18C)(小林 亨).....	96
英文学特講 III(詩19, 20C)(河崎 征俊).....	96
英文学特講 IV(小説 I 19C)(伊藤 廣里).....	96
英文学特講 V(小説 II 20C)(飯島 淳秀).....	96
英文学特講 VI(批評19, 20C) (武田 勝彦).....	97
英文学特講 VII(演劇19, 20C) (三好 弘).....	97
米文学特講 I(詩)(金関 寿夫).....	97
米文学特講 II(小説 I)(佐藤 吉介).....	97
米文学特講 III(小説 II)(田中 剛).....	98
米文学特講 IV(小説 III)(田中 剛).....	98
米文学特講 V(批評)(佐藤 吉介).....	98
米文学特講 VI(演劇)(山本 澄子).....	98
英米語学演習(英語学)(大沢 一雄).....	98
英米語学演習(英語史)(繁尾 久).....	98
英米語学演習(英文法)(岡田 尚).....	99
英米語学演習(英作文)(坂本 武).....	99
英米語学演習(英作文)(河崎 征俊).....	99
英米語学演習(英作文)(河内 賢隆).....	99
英米語学演習(英作文)(高野 正夫).....	99
英米語学演習(英会話)(N. Readdy).....	99
英米語学演習(英会話) (W.D. Hubbard).....	100
英米時文研究(大沢 一雄).....	100
商業英語(青山 則雄).....	100
ラテン語特講(佐藤 玖美子).....	100
日本文化史 II(杉山 博).....	100
現代美術(中山 典夫).....	101

# 英 米 文 学 科

## 基礎教育科目

### 英 文 学 概 論

三 神 勲

英文学入門の科目です。古代、中世、近代の英文学について作品を中心に話します。同時に英文学のさまざまなジャンルについても講義します。英文学における重要な作品をいくつか選んで、読んでもらいます。

### 米 文 学 概 論

田 中 保

アメリカの植民地時代から現代までの文学の流れを概観しながら、各時代の主要な作家を紹介し、その作品について考察していく。詳しくは、最初の授業のさいに指示します。

### 英 語 演 習 I A

河 崎 征 俊

基本的文法を確認しながら、前期に英作文を、後期に英文解釈をやります。テキストおよび辞書類については開講時に説明します。

〔教科書〕 未定。

### 英 語 演 習 I A

佐 藤 千 春

英語の基礎学力の養成に主眼をおきます。詳細は授業開始時に連絡致します。

### 英 語 演 習 I A

高 野 正 夫

英文の鑑賞を行なうと同時に、文法の基礎的な演習もやる予定です。

〔教科書〕 教場で説明します。

## 英語演習 I B

A.G. Ryder

The primary aim of this course is to enable every student to make as much progress as possible in his/her ability to communicate effectively in English.

This implies not only ability to express one's meaning clearly in English, but also ability to understand native speakers of English. To achieve this aim, constant drill and exercises, both group and individual will be provided in pronunciation, intonation, word-grouping, tempo and stress, and other factors.

The pace in all of my classes is fast and challenging with all of the students participating actively all of the time. Therefore, motivation is one of the prime requisites. ENGLISH will be the ONLY language spoken in the classroom.

Text to be announced later.

## 英語演習 I B

N. Readdy

The textbook used in this class [ENGLISH 900] is an audiolingual method and requires tapes [about 15 minutes per class] as well as class participation, both group and individual. ENGLISH 900 implies the 900 sentences which are considered essential for speaking every day English. The student will be drilled in the sentence patterns contained in this book until he can use them with ease as well as make substitutions using the sentence base as a guide. There will be two examinations each school year. Students are required to attend both.

TEXTBOOK: ENGLISH 900. Book 3. COLLIER MACMILLAN INTERNATIONAL The English 900 series consists of 6 books with 10 chapters per book. In this class we will be using Book 3 only.

## 英語演習 II A

岡崎 壽一郎

一年間の講義を通して根底的な言語認識を深め、それによって基本的な英語力の総合的養成を目指す。

〔教科書〕 教場にて指示する。

## 英語演習 II A

兼谷 英夫

教室にて指示する。

〔教科書〕 教室にて指示する。

## 英語演習 II A

坂本 武

この科目の基本目的である文法、作文について、既習事項の再確認と同時に、一層の上積みを行う。積極的な学習態度が望まれる。

〔教科書・参考書〕 教場にて指示する。

## 英語演習 II B

A.G. Ryder

The primary aim of this course is to enable every student to make as much progress as possible in his/her ability to communicate effectively in English. This implies not only ability to express one's meaning clearly in English, but also ability to understand native speakers of English. To achieve this aim, constant drill and exercises, both group and individual will be provided in pronunciation, intonation, word-grouping, tempo and stress, and other factors.

The pace in all of my classes is fast and challenging with all of the students participating actively all of the time. Therefore, motivation is one of the prime requisites. ENGLISH will be the ONLY language spoken in the classroom.

Text to be announced later.

## 英語演習 II B

N. Readdy

The general outline of the course is the same as that given for English 900, Book 3 except it is of a more advanced nature.

This course consists of exercises in everyday English using tapes [about is minutes] and individual participation. Examination requirements are the same as those in conversation I.

TEXTBOOK : ENGLISH 900 Book 4 COLLIER MACMILLAN INTERNATIONAL

# 専門教育科目

## 英語学概論

大 沢 一 雄

英語学とはどういう学問であるか、一口にいえば、それは、英語という言語を研究の対象とする学問であるから、それは、言語について研究する学問すなわち言語学の一部であることは、いうまでもない。すなわち、英語学は英語という言語を研究する言語学なのである。「英語学」が英語で English philology とか English linguistics といわれることは、そのことをよく示している。

ところで、言語学は、音声学、音韻論、文法論、意味論、文体論、語源論、辞書編纂論、言語史等の諸部門に分かれる。したがって、英語学の研究も、結局これらの部門のどれかについておこなわれることになるのであるが、そういう各論的な研究に入る前に、英語学という学問について、英語という言語について、一般的、総論的な知識をもつことも必要なことといわなければならない。「英語学概論」の講義は、英語学や英米文学を勉強しようという学生諸君のために、そのような概説的な知識を提供しようとするものである。

## 英 文 学 史 Ⅰ

三 神 勲

Old English 時代から Middle English 時代を経て Elizabethan Age までの英文学の歴史を講義する。文学作品が中心なるが、社会や時代や外国文学にも注意したい。

〔教科書〕 Miles and Pooley : *A History of English Literature*

〔参考書〕 北星堂 ¥1,000 位

## 英 文 学 史 Ⅱ

三 好 弘

この講義は、近代英文学の流れをみながら、代表作をとりあげていくなかで、英文学の中庸精神を探求していく予定である。

## 米 文 学 史

佐 藤 千 春

時代思潮、各作家の文学史上における位置、その価値、特徴となる中心思想、代表作などにふれてみる。

〔教科書〕 井上謙治『アメリカ文学史入門』（創元社） ¥1,500

## 英 語 史

岡 田 尚

今日の英語に親しんでいる人には他国語のような感じのする古英語の時代から、一千余年の間に、英語がどのように変化してきたか、その主要な流れを概観する。

〔教科書〕 モセ『英語史概説』（開文社） ¥ 1,400

## 英 語 学 研 究

坂 本 武

調音音声学について、その実際と各理論を、厳しく学習する。英米文学科生たるものにとって最重要科目の一つと確信する。自己の今迄の発音を根底から修正する位の受講態度が必要かと思う。毎時間、出欠は充分チェックする。又、レポート、テープの提出も要求される。

〔教科書・参考書〕 教場にて指示する。

## 批 評 論 研 究

金 関 寿 夫

New Criticism の功罪20世紀アメリカにおける文学批評論を主として New Criticism の淵源からその発展と応用について各家の評論に即して検討する。

〔教科書〕 なし（適時プリント配布）

〔参考書〕 “20th Century Literary Criticism”, ed. by David Lodge (Longman)

## シェイクスピア

三 好 弘

この講義は、シェイクスピアについての一般的な常識を身につけると同時に、現代に通じるテーマなり、人間像を話していく予定である。

## 英 文 学 演 習 I (中世)

河 崎 征 俊

Chaucer の初期の作品である *The House of Fame* を読んでいきます。原文は F.N. Robinson 版のものをコピーにして用いますが、『チョーサーの夢物語詩』（塩見知之訳、高文堂版）をあわせて用いる予定です。詳細は開講時に説明します。

〔教科書〕 塩見知之訳『チョーサーの夢物語詩』（高文堂出版社） ¥ 2,500

## 英 文 学 演 習 II (英文学 16c)

三 神 勲

シェイクスピアの『*A Midsummer Night's Dream* 「真夏の夜の夢」』を読みます。この演習でシェイクスピアの英語を理解するとともに戯曲の読み方を学びたい。テキストは英国のアーデン版を準備します。

英文学演習 Ⅲ (英文学 17c) 三好 弘

シェイクスピアの『ハムレット』を読んでいく。テープを使っていく予定。

英文学演習 Ⅳ (英文学 18c) 小林 亨

現代小説にも大きな影響を与えている Laurence Sterne : *A Sentimental Journey* を読む。テキストの関係上、ここ2年予定のみで実行出来なかったが、本年度は受講者を制限しても行うことにする。

〔教科書〕 ペンギン叢書版

英文学演習 Ⅴ (詩 19, 20c) 高野 正夫

The Auden Generation の中心人物であるオーデンをとりあげ、「危機と失意の時」と呼ばれた1930年代の社会派の詩について読んでいく予定です。

〔教科書〕 未定

英文学演習 Ⅵ (小説 I 19c) 前田 脩

ジェーン・オースティンの *Pride and Prejudice* をとりあげ、その中でアイロニーの機能を考察する。

〔参考書〕 『*Pride and Prejudice*』(北星堂書店) ¥ 800

英文学演習 Ⅶ (小説 II 20c) 飯島 淳秀

現代の英国小説を読む。毎回受講生に当ててやってもらう。演習とは「演じて習う」ことである。前・後期にそれぞれ課題レポート(単位レポート)の提出が要求される。Textは最初の時間に告げる。

英文学演習 Ⅷ (批評 19, 20c) 高野 正夫

19, 20世紀の批評の流れについて、それぞれの時代の代表的な批評家の書いたものを読みながら、文芸批評の「原型」についてさぐりを入れる予定です。

〔教科書〕 未定

英文学演習 Ⅸ (演劇 19, 20c) 三好 弘

モームとかカワードの作品をテープを使いながら読んでいく予定。

## 米文学演習 I (詩)

金 関 寿 夫

アメリカ現代詩

アメリカの現代詩を、ロバート・フロストの創成期から、パウンド、エリオットのモダニズムを経て、オルスン、スナイダーなどのポスト・モダニズムに至るまで、その実作を味読することによって詳しく検討する。

〔教科書〕 “Sixteen Modern American Posts,” ed. Pearson 他 (英宝社)

〔参考書〕 最初のクラスにおいて示す

## 米文学演習 II (小説 I)

田 中 保

Nathaniel Hawthorne の **Mosses from An Old Manse** の中から、数編選んで読んでいく。詳細は最初の授業の際に発表しますが、意欲ある学生諸君の参加を希望致します。

## 米文学演習 III (小説 II)

佐 藤 千 春

未定。授業開始時に連絡致します。

## 米文学演習 IV (小説 III)

田 中 剛

メルヴィルの自伝的要素の濃い小説「レッドバーン」を取り上げて、「白鯨」などの、後の作品との関連を考える。

〔教科書〕 Herman Melville : REDBURN (北星堂)

## 米文学演習 V (批評)

赤祖父 哲 二

コールドウエルの短篇小説を読む。

〔教科書〕 『コールドウエル短篇集』(英潮社)

## 米文学演習 VI (演劇)

山 本 澄 子

20世紀の摩女狩りと言われたマッカーシーの赤狩り事件は1950年代のアメリカにとっていまわしい出来事であった。ミラーは舞台を17世紀のセイラムに移し、マスの持つ力の恐しさ、流言の暴力など、第二次大戦後のアメリカのあり方を批判している。日本でも過去に何度か劇団民芸が上演した戯曲である。

〔教科書〕 アーサー、ミラー作『るつぼ』(金星堂)

英文学特講 I (英文学 16, 17c) 石原孝哉

イギリスルネッサンスの文学について講義する。前期はルネッサンスの概観および16世紀の文学について話し、後期はシェイクスピア、ミルトンを中心に17世紀文学について話す。シェイクスピアについては、批評方法による解釈の違いに焦点をあてて語るのもので、この分野に関心ある学生の受講を望む。

〔教科書〕 「煉獄の火輪」れんが書房新社「プリント」

〔参考書〕 教場にて指定

英文学特講 II (英文学 18c) 小林亨

英国近代小説を、16世紀末の萌芽期より18世紀半ばの開花期まで観察するが、講義だけでなく、主要作品の原文を出来るだけ多く味読する。

〔教科書〕 プリント配布

英文学特講 III (詩 19, 20c) 河崎征俊

イギリスの現代詩について講義します。難解、不明確といわれる現代詩をどのようにとらえるか、そのためにも現代イギリスだけではなく広く他の現代詩とも比較しながら進めていきます。ノートを必ず用意しておくこと。詩作品については開講時に説明します。

〔教科書〕 未定。

英文学特講 IV (小説 I 19c) 伊藤廣里

Charles Dickens の *A Tale of Two Cities* を研究いたします。Dickens は、Thomas Carlyle の **The French Revolution** を参考にして、この作品を書きました。

この作品を通して、作家の特徴的な手法をはじめ、その革命観や、人道主義等を学びたいと思います。

前後期共、夫々試験があります。

〔教科書〕 Charles Dickens, *A Tale of Two Cities* 研究社

英文学特講 V (小説 II 20c) 飯島淳秀

Victorianism, Georgian Poetry, 20世紀イギリス小説の特徴、小説と伝記等々について講義する予定。前・後期にそれぞれ課題レポート(単位レポート)の提出が要求される。出席も重視される。Text は用いられない。

## 英文学特講 VI (批評 19, 20c)

武田 勝彦

第一週から第五週にかけて西欧文学の批評の原理となったギリシア及びラテン文学の批評を概説する。引き続いて第八週までに、これらの批評の原理を英国の批評家がどのように導入し、それをどう確立したかを辿る。これと平行して日本の批評の発展過程も論じる。

第九週から第十四週にわたって、十九世紀の批評の流れを追い、第十五週以降は二十世紀のニュー・クリティシズムに重点を置く。

この講座では批評の歴史を扱うが、最終の目標は、批評を諸君が自らの手で創作することである。したがって、ある作品の批評をある手法に基いて書き下すことを究極の主眼としたい。

〔教科書〕 「基本文芸用語辞典」武田・川端編 荒竹出版 ¥ 1,800

〔参考書〕 *The Fugitives: A Critical Account* John M. Bradbury The University of North Carolina Press \$ 3.95

## 英文学特講 VII (演劇 19, 20c)

三好 弘

この講義は、近代から現代までの演劇の流れを追いながら、代表的な作品をとりあげて話していく予定である。

## 米文学特講 I (詩)

金 関 寿 夫

ホイットマンとディッキンソン

ホイットマンとエミリー・ディッキンソンの詩を、アメリカ詩の二大源流として捉え、それぞれの性格を明らかにする。

〔教科書〕 資料はすべてプリントにて配布

〔参考書〕 最初のクラスで示す。

## 米文学特講 II (小説 I)

佐 藤 吉 介

アメリカ19世紀の作家アーク・トウイン (Mark Twain), ホーソン(Hawthorne), A. ビーアス (A. Bierce) などの作品を教材とし、作家の表現理論、文体、手法、構成、作風などを考察する。

〔教科書〕 プリント

### 米文学特講 Ⅲ (小説Ⅱ)

田中 剛

二十世紀初期のアメリカ小説を、当時の文芸思想など、それを生んだ文学的狀況を検討しつつ、考察する。

〔参考書〕 VOA(ed.) The American Literature (英潮社新社)

### 米文学特講 Ⅵ (小説Ⅲ)

田中 剛

労働、自然観察、思索の實驗的生活の記録である「ウォルデン、森の生活」と政治思想の表明である「市民の反抗」を中心に、物質文明を十九世紀半ばに早くも批判した。そしていよいよ今日の意味を持つに至ったヘンリー・ディヴィッド・ソローを考察する。

〔教科書〕 H.D. Thoreau : WALDEN (研究社英米文叢書)

### 米文学特講 Ⅴ (批評)

佐藤 吉介

文学作品における批評の方法を概観的に論述し、その理論を活用して作品にアプローチする方法、更に鑑賞する実用面を兼ねて実践する。

作品はアメリカ文学の十九世紀の作品を用いる。

〔参考書〕 プリント

### 米文学特講 Ⅶ (演劇)

山本 澄子

短い歴史の中でアメリカ演劇が新大陸においてどのようにして発生し、現代に至っているかを時代を追って学びたい。

そして特に今世紀に花を咲かせた作家たちの主要作品を解説し、アメリカの歴史との関わり合いを考えながら授業を進めていきたいと思っている。

〔教科書〕 『アメリカ演劇概説』 (栄光出版)

### 英米語学演習 (英語学)

大沢 一雄

Good English, bad English とはどういうことか、とくに、口語体の英語について考えてみる。テキストには、いくつかの one-act plays を用いる。

### 英米語学演習 (英語史)

繁尾 久

AD. 700年から現在まで約1300年間の英語の歴史を、音韻、形態、統語法、語彙の面から考察し、その主な流れを理解するようにします。

〔教科書〕 F.モセ・岡田尚訳『英語史概説』(開文社)

〔参考書〕 『英語学大系』〔第8巻, 第9巻〕(大修館)

英米語学演習 (英文法)

岡田 尚

生きた英文に接しながら、伝統的な文法の知識を確認するとともに、どのような文法がよいかを考えてみたい。

〔教科書〕 最初の授業のさいに指示する。

英米語学演習 (英作文)

坂本 武

時事英作文について演習する。四年間を通じて、このような科目に接する機会は、おそらく皆無と思われるので、この際充分慣れておくことが必要かと思う。就職又は各種の検定試験には必ず出題されるものであるから、前向きに知識の向上に努めてほしい。

〔教科書・参考書〕 教場にて指示する。

英米語学演習 (英作文)

河崎 征俊

長文の英作文を演習に選びます。予習、復習に努めてほしいです。詳細は開講時に説明します。

〔教科書〕 未定。

英米語学演習 (英作文)

河内 賢隆

日本人の情緒、京都、奈良等にふれた純日本的な文章を、味わいながら、英語にしてみたいと思う。(テキスト等未定)

〔教科書〕 プリント

英米語学演習 (英作文)

高野 正夫

開講時に指示する。

〔教科書〕 未定

英米語学演習 (英会話)

N. Readdy

Same as Page 72. However, if the majority of students in this class have already completed ENGLISH 900 Book 4, we will proceed with Book 5.

## 英米語学演習 (英会話)

W.D. Hubbard

The ability to communicate in English is a very useful ability to have. Communication is an exchange of ideas. For successful spoken communication in English you must both speak and be understood, and listen and understand. This result oriented course, based on effective linguistic methods, is designed to help you acquire those skills needed for successful communication in English. The text for this course will be tentatively the *New English* 900, book 4 in addition to supplementary material.

## 英米時文研究

大沢 一雄

「英米時文研究」とは、いうまでもなく、英米の時文すなわち時事英語の研究である。それでは、時事英語とはどのような英語であるか、というと、大まかにいって、それは新聞、テレビ、ラジオ等の mass media すなわちマスコミで用いられる英語である。

## 商業英語

青山 則雄

日本の国際ビジネス活動は単なる貿易売買から海外直接投資へと拡大、質的転換しつつある。しかし商業英語はまず貿易売買に用いられる英語力を養成することに注力する。ポイントは(1)貿易取引に用いられる用語知識、(2)取引の各プロセスに現われる慣用表現、(3)説得的なレター・ライティングの原則、の3つにおかれよう。これらの習得のためには練習しかない。したがってホームワークを大量に出すことになる。

〔教科書〕 斎藤祥男「国際貿易英語通信」(梓出版社)

## ラテン語特講

佐藤 玖美子

本講座は、英米語をはじめとする現代ヨーロッパの言語のより良い理解者となるための、古典ラテン語の基礎知識の習得、とくに文法規則を学び、動詞、名詞の変化に慣れることを目的とするものである。またやさしいラテン語で書かれた物語りの講読をもあわせて行う。

〔教科書〕 樋口勝彦、藤井昇著『詳解ラテン文法』(研究社)

## 日本文化史 Ⅱ

杉山 博

日本文化を創造し発展せしめた基盤を形成した職人層について、中世に残された4つの職人歌合絵巻を中心にして、その具体相を明らかにしたい。

〔教科書〕 プリント使用

## 現 代 美 術

中 山 典 夫

印象主義にはじまる現代美術の流れを、絵画作品を中心に、追ってゆく。講義にはスライドを用いる。

# 地理学科

## 基礎教育科目

基礎地理学(人文地理学)(今朝洞重美)	103
基礎地理学(人文地理学)(長野 覚)	103
基礎地学(自然地理学)(長沼 信夫)···	103
基礎地学(自然地理学)(早船 元)···	103

## 専門教育科目

人文地理学実習(上野 福男)·····	104
人文地理学実習(桜井 正信)·····	104
人文地理学実習(茨口 善美)·····	104
人文地理学実習(長野 覚)·····	104
自然地理学実習(長沼 信夫)·····	104
自然地理学実習(早船 元)·····	105
自然地理学実習(高木 正博)·····	105
野外巡検 I (小川 徹)·····	105
野外巡検 I (小池 一之)·····	105
野外巡検 I (茨口 善美)·····	105
野外巡検 I (桜井 正信)·····	106
野外巡検 I (長沼 信夫)·····	106
日本地誌 I (今朝洞重美)·····	106
外国地誌 I (茨口 善美)·····	106
経済地理学(赤川 泰司)·····	106
郷土地理学(長野 覚)·····	107
集落地理学(小川 徹)·····	107
地形学 I (西村 嘉助)·····	107
地図学概説(高木 正博)·····	107
交通地理学(奥野 隆史)·····	107
地理学研究法及地理学史(小川 徹)	107
地理学研究法及地理学史(西村 嘉助)	108
野外巡検 II (上野 福男)·····	108
野外巡検 II (今朝洞重美)·····	108
野外巡検 II (西村 嘉助)·····	108

野外巡検 II (長野 覚)·····	108
野外巡検 II (早船 元)·····	108
野外巡検 II (高木 正博)·····	109
日本地誌 II (早船 元)·····	109
外国地誌 II (宮口 侗廸)·····	109
経済地理学(生井沢 進)·····	109
地形学 II (小池 一之)·····	109
歴史地理学(桜井 正信)·····	109
人口地理学(上坂 修夫)·····	110
原書講読(上野 福男)·····	110
地球物理学(木沢 綏)·····	110
地質学(大森 五郎)·····	110
土壤地理学(漆原 和子)·····	111
海洋学及陸水学(長沼 信夫)·····	111
気候学(中村 和郎)·····	111
日本地誌 III (中島 義一)·····	111
外国地誌 III (茨口 善美)·····	111
都市地理学(今朝洞重美)·····	111
計量地理学(奥野 隆史)·····	112
応用地理学 I (高木 正博)·····	112
文化地理学(茨口 善美)·····	112
空中写真判読法及測量学(小池 一之)	112
地理学特講 I (長野 覚)·····	112
地理学演習(小川 徹)·····	113
地理学演習(上野 福男)·····	113
地理学演習(今朝洞重美)·····	113
地理学演習(茨口 善美)·····	113
地理学演習(小池 一之)·····	113
地理学演習(桜井 正信)·····	113
地理学演習(西村 嘉助)·····	113
地理学演習(長沼 信夫)·····	114
地理学演習(早船 元)·····	114
地理学演習(長野 覚)·····	114
地理学演習(高木 正博)·····	114

# 地 理 学 科

## 基礎教育科目

### 基礎地理学（人文地理学）

今朝洞 重 美

地理学的な「見方」、「考え方」とはどのようなものであるか、について具体的に究明、討議する。

### 基礎地理学（人文地理学）

長 野 覚

世界的視野において、自然と人間活動の相関性を考えながら、多彩な人文現象の基礎知識を、系統地理的に講義する。テキストは下記のほか、適宜プリントで補足する。受講に際しては地図帳の併用を心掛けること。

〔教科書〕 藤岡謙二郎『人文地理学』〔五訂版〕（大明堂） ￥ 1,300

### 基礎地学（自然地理学）

長 沼 信 夫

本講義は地理学を専攻しようという学生諸氏のために、自然地理的な立場から基礎的知識を提供しようとするものである。今年度は下記のテキストを使用し、第四紀時代の自然環境の変遷について講義する。

〔教科書〕 『自然環境の生い立ち』（朝倉書店） ￥ 1,600

### 基礎地学（自然地理学）

早 船 元

地質年代では最も新しく、かつ、人間と密接なかかわりあいをもつ第四紀の自然環境について講義する。

# 専門教育科目

## 人文地理学実習

上野 福男

人文地理学を第一次生産部門から第三次生産部門までふくめての経済地理学の分野、並びに集落地理学、都市地理学、人口地理学の諸分野について、それぞれの分野で用いられる統計資料を示し、学生各自に題目を選定させ、それについての図表的表現を試みさせる。できあがった図表に説明をつけさせる。以上の実習を通じて人文地理学の理解を増進させる。

## 人文地理学実習

桜井 正信

人文現象を総合学の立場で実習させていくが、とりわけ地図化することに重点を置く。必要参考文献は、そのつど指示し、実習の成果をあげるようにする。

## 人文地理学実習

荻口 善美

この実習は、人文地理学の諸分野において用いられている技術的表現の理解、および基礎的諸作業の修得を目的としている。実際の授業内容は次の通りである。すなわち、(1)人文地理学にとって基礎的な統計図表に関する講義、(2)産業や人口に関する統計資料の収集、整理および図表化作業の修得、(3)地域を選定し、その地理学的説明のための図表およびレポートの作成、(4)一定地域の変化をテーマとして、種々の資料にもとづくレポートの作成。

## 人文地理学実習

長野 寛

地形図・空中写真等を人文現象の地域理解の資料として活用可能なように作業する一方、統計資料によるカルトグラムの作成、現地調査成果の図表的表現などを行なう。

## 自然地理学実習

長沼 信夫

この実習は自然地理的な立場から、専門領域を深めるために必要な基礎的諸作業を修得する目的で実施する。実習を通じて種々の資料の蒐集・整理、その結果から図表等の表現化、作成した図表からその読み方などを実施する。また野外調査の際に必要な技術的作業等の方法についても実習する予定である。

出席を重視し、平常点（レポート、図表等の提出物）で評価する。

〔参考書〕 谷岡武雄他著新訂『地理実習』〔人文地理ゼミナール〕（大明堂）

三野与吉編『自然地理調査法』（朝倉書店）

## 自然地理学実習

早 船 元

地理学を修める上に必要な自然関係の基礎的作業を中心に行なう。

前期

- 図上作業（切峰面図・起伏量図・帯状平行投影地形断面図等の作成）
- 資料の収集・整理・分析の方法
- 調査器械・器具の使用法

後期

- 粒度分析
- 空中写真の判読（土地利用図・地形学図・標定図作成）
- 水の調査（湖水・河川水・地下水の水温・水質等）
- 微地形・表層地質調査（元荒川・古利根川流域）

## 自然地理学実習

高 木 正 博

自然地理学を研究するうえで必要となる基礎的な諸事項の修得を目的とする。その手段として、各種の作業を実施してもらう。作業内容については、つぎのことがらを予定している。

- (1) 市販の地形図、空中写真などを利用し、各種の主題図を作成する。
- (2) 各種の統計資料を収集整理し、それらを図化する。
- (3) その他、進捗状況に応じて指示する。

評価に際しては、提出物と出席の状況を重視する。

## 野 外 巡 検 I

小 川 徹

開講後掲示して発表するので注意されたい。

## 野 外 巡 検 I

小 池 一 之

2年次学生を対象とする。野外調査方法の習得を中心とする巡検である。

- (1) 巡検地域 未定（候補地：那須野ヶ原など）
- (2) 巡検期間 昭和57年6月末～7月初
- (3) 巡検内容 自然地理学（地形学）の基礎的な野外調査法の習得

## 野 外 巡 検 I

菱 口 善 美

目 的：地域の変貌についての実態把握

調査地：未定（ガイダンスの際に発表）

## 野 外 巡 検 I

桜井正信

地域現象の歴史と地理的条件を、その地域で確認する立場で巡検します。巡検地は研究室前に発表します。

## 野 外 巡 検 I

長沼信夫

今年度は次の要領で行う予定であるが、詳細についてはガイダンス（申込）の際に発表する。

- (1) 巡検地域：静岡県伊豆半島（戸田村を中心）
- (2) 巡検期日：昭和57年6月上旬（3泊4日）
- (3) 巡検内容：戸田村を中心とした自然・人文環境
- (4) 宿泊場所：戸田村を予定

## 日 本 地 誌 I

今朝洞重美

地誌学の本質論を考察しながら、「日本」および「日本各地方」の個性を追求する。

〔参考書〕 藤岡謙二郎『日本地誌』（大明堂）

## 外 国 地 誌 I

菱口善美

北アメリカの地域構造について発生的、地域論的立場で講義する。若干の英文の文献講読を行うので、その素養のある学生の受講を望む。

## 経 済 地 理 学 I

赤川泰司

経済地理学 I はその内容を農業地理学においている。

- 1) 世界及び日本の農業地理学研究を概観し、世界農業地域の特色と類型化について、研究事例 (Whittlesey, D. Grigg, D.B. Kostrowicki, J. など) から概説する。
- 2) 日本農業地域及び農業地域構造の把握に際し、従来の接近方法と代表的な研究成果を紹介する。現代日本農業の特質と農業地域形成について、研究事例をふまえてまとめる。
- 3) 世界農業地域と食糧生産（問題）について、グローバルな観点から農業地理学的に考察し、我が国の農業についても、農業地域と食糧自給という側面からとらえなおしてみたい。

〔教科書〕 特に指定しない。全体を通してプリントで講義内容をまとめ、補足していく。

〔参考書〕 文献、研究事例（論説）をその都度紹介する。

## 郷土地理学

長野 覚

郷土地理学の概念を求めて過去から現在までの推移を学習し、自然・歴史・民俗・現代社会などを総合した地理的視野から、郷土地理学の意義やその方法論などを探究する。以上を概観したのち、郷土地理研究の素材として、どこにも存在する平野の地名（字名）と山岳の名称等について、全国的視野から郷土に存在するものの位置づけやその意義などを考える。

〔教科書〕 藤岡謙二郎『日本の地名』（講談社現代新書） ¥ 350

〔参考書〕 鏡味完二・鏡味明克著『地名の語源』（角川書店） ¥ 1,350

## 集落地理学

小川 徹

居住の地理学という観点から、民家と村落構成の両側面について講義する。プリント・テキストは開講後指示する。巡検もその趣旨に沿って行うので、小川巡検を希望するものは、この科目を選択しておいて欲しい。

## 地形学 I

西村 嘉助

地形学の基礎的な部分を講義する。営力地形学から発達地形学に亘る解説を行う。

〔教科書〕 西村嘉助『自然地理学Ⅱ』（朝倉書店）

## 地図学概説

高木 正博

地図に関する基本的な事からとして、地図の歴史、地図の投影法、地図の利用などについて概説する。なお、実習を伴うので、定規、コンパス、分度器を揃えて欲しい。

## 交通地理学

奥野 隆史

今年度は、次の課題を順次講義する。(1)交通現象と地理学、(2)交通の地域的含蓄、(3)交通と立地、(4)交通と地域構造、などである。

〔教科書〕 奥野訳『地域交通論』（大明堂）

## 地理学研究法及地理学史

小川 徹

詳細は開講直後に指示する。講義本来の趣旨は「地理学概論」として「地理を学ぶとは如何なることか」を考えてゆくことである。各自も、このテーマに沿って、考えてみて欲しい。

## 地理学研究法及地理学史

西村嘉助

詳細は開講直後に指示する。講義本来の趣旨は「地理学概論」として、「地理を学ぶとは如何なることか」を考えてゆくことである。各自も充分考えてほしい。

## 野外巡検Ⅱ

上野福男

梓川溪谷、奈川溪谷、乗鞍東麓番所の三地域について最近の地域変貌の研究。

上述地域の産業の変遷と諸開発事業、観光業の進展に焦点をおき、以下の諸項間に分けて研究する。

1. 農業の衰退と経済の高度成長
  2. 水力資源大規模開発と村落
  3. 観光業：登山・スキー等の発展と民宿
  4. 林道の開発と国立公園
  5. 梓川溪谷、奈川溪谷、番所の三地域の変貌の比較
- 番所集合、3泊3日、松本解散10月実施、以上は大略の予定

## 野外巡検Ⅱ

今朝洞重美

北陸地方の巡検を行う。実施時期は5月（連休）。まだ北陸に行ったことのない人を対象とする。

## 野外巡検Ⅱ

西村嘉助

初夏の数日間、東北地方の一地域を選び、終始徒歩で野外調査の基礎を訓練する。対象は主として自然地理学の問題である。地形学Ⅰを受講し合格した者でないとは参加の意味がない。

## 野外巡検Ⅱ

長野 覚

木曽川下流の輪中地帯から源流の御岳山に至る巡検を予定。輪中地帯はわが国最大の羊毛工業地帯でもある。濃尾平野に展開する自然と人とのかかわりを考えたのち木曽谷に入る。さらに信仰対象としての御岳山を調べながら登頂を予定。実施は7月中・下旬。

## 野外巡検Ⅱ

早船 元

教室の講義のみでは理解しがたい地理的事象（自然的・人文的）を、学生自らの現地での体験（観察・調査）を通じて理解させる。班別行動・現地集合・現地解散の予定。巡検地は追って発表する。

## 野 外 巡 検 Ⅱ

高 木 正 博

地域の実態調査をとおして、それぞれの地域が有する自然的・人文的な特長的一端を明らかにしたい。

現地では、班別に行動し、各種の実測調査や聞き取り調査などを実施する。

具体的な地域、期日などについては、おって発表する。

## 日 本 地 誌 Ⅱ

早 船 元

若干の地域を選び、そこでの自然の人間への影響、人間の自然へのはたらきかけについて論じ、地形図の作業をまじえ自然地誌的観点に立って「地域」の個性をみていく。

## 外 国 地 誌 Ⅱ

宮 口 侗 廸

ヨーロッパを理解するいとぐちとして、EC地域を取り扱う。ECの成立、共通農業政策等について学習を進めた後、EC地域内の各地域をとり上げたい。いくつかの英文文献から抜粋・編集したものをテキストとして作成し、実費で頒布する予定。受講者は予習・報告等を通じて積極的に参加することが要求される。詳細は最初の時間に指示するので、受講者は必ず出席のこと。

## 経 済 地 理 学 Ⅱ

生 井 沢 進

日本の都市の分布とそれぞれの都市を特徴づける政治経済的役割についてのこれまでの研究成果の紹介を中心として講義を行なう。ただし中心となるのは中小都市についてである。

〔教科書〕 その都度指定する

## 地 形 学 Ⅱ

小 池 一 之

地形学の進歩はめざましい。本講義では、内外での最新の研究成果を紹介する。講義はプリントを中心に進める。英文論文の輪読も行うので、地形学に興味をもち英語に自信のある学生諸君の受講を望む。

## 歴 史 地 理 学

桜 井 正 信

歴史と地理を、実証と理論に基礎をおいて、総合的にみていきます。

## 人口地理学

上坂修夫

人口現象は、周知の通り社会地理、文化地理、歴史地理、経済地理などの重要な構成要素であるが、それは単に量として捉えるだけでなく、質的に深くほりさげる必要のある事象である。この講義では、人口の分布や移動に関する従来の研究を跡づけながら、人文地理の諸分野において人口現象をいかに消化すべきかを考えるとともに、いままで地理学ではあまり活用されていなかった人口の地域的分析に関する程々の考え方や手法の説明も加え、人口現象にみられる一般的法則性と地域的特性とのかかわり合い方について考えていく予定である。

## 原書講読

上野福男

適当な英語の地理学文献を選び輪読形式で講義を進める。本年は Murphey, R.: The Scope of Geography を主要なものとして採用する。英語の文献に親しめるようにする。

## 地球物理学

木沢 綏

地球物理学の一貫した原理を学ぶ為に、大規模地震、火山活動、地球潮汐、地磁気、気圏問題等地球内外に生起する現象を lithosphere の動向と共に学ぶ。

生きた現象と Simulation を知る為、本学正門基点における Earthtide の理論を FORTRAN, APL で求める。向う一年の G-factor を least square, trialand error で operations research する。

発生する光波、電磁波、弾性波等波動問題と K.Q. Magnetic-Fossils, Thermal Convection in the Mantle, Revolution in Earth Science, Engl and rotated clockwise, Drift of India, Glaciers at the Equator 等を、Total に講義する。

## 地質学

大森五郎

本講義において緒論として地質学発達史について概述し、ついで地殻を構成する物質としての岩石地質学を論じ、次に構造地質学、動力地質学、応用地質学および日本の地質構造の大綱を説き、更に地下資源を伴う鉱床地質学にも論及し、併せて近年著しい発達を上げた物理・化学探査法並びに同位体地質学についても詳述する。

## 土 壤 地 理 学

漆 原 和 子

気候、植生などのちがいによって生成される土壌型についてのべ、さらに、それらの型の地理的な分布について考察する。また、土壌とその生成時間について考察し、地質時代に生成した土壌の諸例をあげ、古環境の指標としての役割について論ずる。

〔教科書〕 多田文男監修・地学団体研究会編『新地学教育講座9,地形と土壌』(東海大学出版会) ¥ 1,600

## 海洋学及陸水学

長 沼 信 夫

水を研究対象としている学問分野はいろいろある。ここでは自然地理学の立場から水に関するテーマを選び講義していく。また隣接分野の水の研究についても紹介する予定である。

〔教科書〕 『海洋と陸水』〔新地学教育講座10〕(東海大学出版会) ¥ 1,600

〔参考書〕 『陸水』〔地球科学講座10〕(共立出版)

## 気 候 学

中 村 和 郎

世界と日本の気候誌を中心にして、気候学の基本的な知識を学び、他の地理的事象との関連にも注意を向ける。

合わせて大学周辺において気象観測を実施し、観測技術と、資料整理の手法などを習得する。

## 日 本 地 誌 Ⅲ

中 島 義 一

歴史地理学上の諸問題に重点を置いて、日本の地誌を考察する。下記教科書のほか地図帳を忘れずに携行すること。

〔教科書〕 矢守一彦『空からみた歴史量観』(大明堂) ¥ 2,000

## 外 国 地 誌 Ⅲ

菱 口 善 美

本講義では、地誌学の方法に関する地域論を紹介しながら「地域」の概念について述べ、次に具体的な地域区分の方法を吟味し、さらにアジアの幾つかの国の地誌を概説する。

## 都 市 地 理 学

今 朝 洞 重 美

都市の地理学的研究とは具体的にはどのようなものか、日本、外国にテーマをとり学習する。

〔参考書〕 山鹿誠次『都市地理学』(大明堂)

## 計量地理学

奥野隆史

地域現象を計量的に分析する諸方法を平易に講義する。主な内容は、(1)地理的数値データの入手と吟味と整理、(2)分布解析、(3)ネットワーク分析、(4)現象間の相関分析などである。

〔教科書〕 奥野『計量地理学の基礎』(大明堂)

## 応用地理学 I

高木正博

自然環境の変貌について、災害や各種の人為的汚染との関係からとらえる。また、治水・利水に関する問題を、地理学と他の研究分野と関連させて考えていく。

〔参考書〕 西村嘉助『応用地形学』(大明堂)

大矢雅彦『河川の開発と平野』(大明堂)ほか

## 文化地理学

菱口善美

本講義では、まず文化地理学の中心的課題、すなわち(1)文化、(2)文化領域、(3)文化景観、(4)文化史(誌)、(5)文化生態について概説する。さらに内・外の研究事例を紹介しながら、文化地理学的手法による地域分析について議論する。

## 空中写真判読法及測量学

小池一之

測量学の基礎的事項を中心に講義する。随時課題を出すので、かならず締切日までに提出すること(課題数は年間5-6)。また、対数、三角函数(数学I程度)の復習もしておくこと。また、実習も含まれる。

(1) 誤差論 (2) 角の測定 (3) 距離測定 (4) 水準測量 (5) 多角測量 (6) 地形測量 (7) 写真測量 (8) 写真判読法

〔教科書〕 小田部和司『図解土木講座測量学』(技報堂出版) ¥2,800

## 地理学特講 I

長野 寛

高等学校・中学校の地理(社会科)教員の採用試験を受験する3、4年生を対象とするが、特に4年生で受講することが効果的である。指導内容は、現在進行中の小・中・高校一貫した社会科教育のカリキュラム大改訂に対応して受験可能なように、1学年以来習得した地理学の教科内容を、集約・整理することに重点を置く。期間は前期、テキストはプリントを主体に進める。

〔参考書〕 日本国勢図会・日本のすがた・高校地理教科書・中学校地理・歴史・公民教科書・地図帳等。

## 地理学演習

小川 徹

卒業論文の指導を中心にする。およその日程であるが、(1)春休みを利用することが大切なので、この点については別個にガイダンスを行う。(2)登録のためのテーマ決定・題目の検討 (3)調査資料・調査方法の検討 (4)秋学期に調査結果の報告と論述の検討。以上の日程にしたがって、各人少くとも3回発表の必要がある。この規定は厳密に実施する。

## 地理学演習

上野 福男

卒業論文の作製指導に重点をおいて演習を行う。現地調査の方法、資料の整理、論文作製の基本的態度等について述べ、事物を把握し理解する力をひきだし、論文作製能力を達成させる。

## 地理学演習

今朝洞 重美

地理学の本質論の研究と地誌学および一般地理学（人文地理学）に関する卒業論文の演習を行う。

## 地理学演習

菱口 善美

ここでは4年生を対象とする卒業論文の作成の指導を行う。前期においては、各履修者の論文の主題に包含される問題点の指摘と研究方法について、後期には、実態調査にもとづく論文作成の技術的方法について重点をおく。

## 地理学演習

小池 一之

前期：自然地理とくに地形学を中心とする基礎的調査方法の習得とその応用について、指導する。

後期：各人のテーマにそった具体的な指導を中心とする演習。

なお、受講生は、小池の地形学Ⅱを全員受講すること。

## 地理学演習

桜井 正信

地理学の演習を通じて、最終学生の成果をあげるよう努力します。ことに卒業論文の作成の指導もしたい。

## 地理学演習

西村 嘉助

卒業論文を作成する学生に対し、問題の設定・情報の収集・論理のたて方など、討論を主として指導する。

## 地理学演習

長 沼 信 夫

ここでは卒業論文の作成指導を中心におこなう。前期は論文の書き方、文献資料の蒐集整理、調査方法等についておこなう。後期は各自のテーマでおこなった夏休み中等の調査成果を報告してもらう。出席を重視し、平常点で評価する。

## 地理学演習

早 船 元

卒業論文を作成する学生に対する演習である。前半には論文の作成、現地調査、文献資料の収集、整理等の方法について講じ、後半は卒業論文のテーマにしたがって調査研究した成果（中間報告）の発表や関連した論文の内容の紹介をさせる。

## 地理学演習

長 野 覚

卒業論文の作成を目標にして、前期は資料収集・実地調査、成果のまとめ方など、主として方法論を指導するが、類型テーマごとにグループを作り討論をし、各人必ず中間発表を行わねばならない。後期は各人ごとに論文作成の進捗と内容の充実をはかるよう、発表と討論を重ねて完成までの指導をする。

## 地理学演習

高 木 正 博

4年次生を対象に、卒業論文の作成指導を主体とする。まず、論文作成の準備手段として、論題の決定、参考文献・資料の選択整理、現地調査の方法などを検討する。現地調査後は、各自にその成果を報告してもらい、論文の作成へと導く。

調査地域へはできるだけ多く出かけ、問題点を整理しておくことが望ましい。

# 歷史學科

## 基礎教育科目

基礎歷史學(飯島 武次).....	117
基礎歷史學(山口 一之).....	117
基礎歷史學(所 理喜夫).....	117

## 專門教育科目

史學概論(酒井 忠夫).....	117
日本史概說 I (古代・中世) (大野達之助).....	118
日本史概說 II (近世・近代) (吉田 常吉).....	118
東洋史概說 I (阿部 肇一).....	118
東洋史概說 II (前田 正名).....	118
西洋史概說 I (秀村 欣二).....	118
西洋史概說 II (椽川 一朗).....	118
考古學概說 I (日本)(倉田 芳郎).....	119
考古學概說 II (外國)(飯島 武次).....	119
日本史學史(葉貫 磨哉).....	119
東洋史學史(阿部 肇一).....	119
西洋史學史(石川 澄雄).....	119
考古學史(飯島 武次).....	119
演習 I (大野達之助).....	119
演習 II (大野達之助).....	120
演習 I (葉貫 磨哉).....	120
演習 II (葉貫 磨哉).....	120
演習 I (杉山 博).....	120
演習 II (杉山 博).....	120
演習 I (箭內 健次).....	120
演習 II (箭內 健次).....	120
演習 I (所 理喜夫).....	121
演習 II (所 理喜夫).....	121
演習 I (吉田 常吉).....	121
演習 II (吉田 常吉).....	121
演習 I (山口 一之).....	121
演習 II (山口 一之).....	121

演習 I (阿部 肇一).....	121
演習 II (阿部 肇一).....	122
演習 I (前田 正名).....	122
演習 II (前田 正名).....	122
演習 I (石川 澄雄).....	122
演習 II (石川 澄雄).....	122
演習 I (飯島 武次).....	122
演習 II (飯島 武次).....	123
演習 I (椽川 一朗).....	123
演習 II (椽川 一朗).....	123
演習 II (倉田 芳郎).....	123
演習 I (加藤 晋平).....	123
日本史各說 I (大野達之助).....	123
日本史各說 II (杉山 博).....	123
日本史各說 III (箭內 健次).....	123
日本史各說 IV (山口 一之).....	124
東洋史各說 I (前田 正名).....	124
東洋史各說 II (伊瀬仙太郎).....	124
東洋史各說 III (酒井 忠夫).....	124
東洋史各說 III (檜木野 宣).....	124
西洋史各說 I (中村 道雄).....	124
西洋史各說 I (椽川 一朗).....	125
西洋史各說 II (石川 澄雄).....	125
西洋各國史 I (青木 道彦).....	125
西洋各國史 II (石川 澄雄).....	125
西洋各國史 II (椽川 一朗).....	125
西洋各國史 III (渡辺 茂).....	126
考古學各說 I (飯島 武次).....	126
考古學各說 II (近藤 英夫).....	126
古文書學(今枝 愛真).....	126
古文書講讀 I (葉貫 磨哉).....	126
古文書講讀 II (久保田真繼).....	127
古文書講讀 II (所 理喜夫).....	127
日本史特講 II (中世)(今枝 愛真).....	127
日本史特講 III (中世)(杉山 博).....	127
日本史特講 IV (近世)(箭內 健次).....	127
日本史特講 V (近世)(所 理喜夫).....	127
日本史特講 V (近世)(土肥 鑑高).....	127

日本史特講VI(近代)(吉田 常吉).....	128	考古発掘実習(飯島 武次).....	131
日本史特講VII(近代)(山口 一之).....	128	考古学実習I(写真)(斎藤 孝哉).....	131
東洋史特講I(中国周辺史)		考古学実習II(記録)(鶴丸 俊明).....	131
(伊瀬仙太郎).....	128	考古学実習III(測量)(栗山 稔).....	132
東洋史特講III(中世史)(前田 正名)...	128	考古学実習IV(調査)(後藤 和民).....	132
東洋史特講III(中世史)(岡本 敬二)...	128	地誌学(長野 覚).....	132
東洋史特講IV(近・現代史)		地誌学(今朝洞重美).....	132
(檜木野 宣).....	128	地誌学(渡辺 盾夫).....	133
東洋史特講V(中央・西アジア史)		人文地理学概説(高木 久).....	133
(岡本 敬二).....	129	歴史地理学(桜井 正信).....	133
西洋史特講I(伏島 正義).....	129	哲学史(大村 晴雄).....	133
西洋史特講II(前沢 伸行).....	129	歴史哲学(山下 太郎).....	133
西洋史特講III(秀村 欣二).....	129	有職故実(鈴木 敬三).....	134
考古学特講I(後藤 和民).....	130	日本民俗学(山折 哲雄).....	134
考古学特講III(坂詰 秀一).....	130	美術史概説.....	134
日本仏教史II(葉貫 磨哉).....	130	西域美術史.....	134
日本文化史II(杉山 博).....	130	仏教美術(金子 良運).....	134
西洋文化史I(渡辺 茂).....	131	中国歴史文学(中村 璋八).....	135
西洋文化史II(阿部 重雄).....	131		

# 歴史学科

## 基礎教育科目

基礎歴史学

飯島武次

歴史学を勉強する楽しみについて「考古学より見た中国の歴史」と題して講義を行なう。

〔参考書〕 日本放送出版協会『中国文明の原像上・下』 1,800円

基礎歴史学

山口一之

明治維新史の講義を行う。この時間を通して皆が明治維新とは何であったか、またその後の近代の日本とは何かという事を考えていただき度いと思っている。

基礎歴史学

所 理喜夫

新入生諸君を、歴史学へ導入することを旨とする。歴史学の基礎概念について考えたのち、日本史に例をとりながら、方法論について講述する。

〔教科書〕 堀米庸三『現代歴史学入門』（有斐閣） ¥ 1,000

## 専門教育科目

史学概論

酒井忠夫

ヨーロッパとアジアにおける「歴史学」、「史」に関する考え方を、それぞれの文化、社会の流れの中で理解できるように概説する。戦前・戦後の歴史学の発表とその潮流を概観し、現在の日本の歴史学界における潮流が、これまでの戦後の歴史学研究の大きな流れに対し、反省批判が加えられつつあることを指摘したい。また「史学概論」は、「歴史哲学」でも「社会科学」的理論でもなく、ヨーロッパ・アジア各地域・各民族の歴史の具体像の中で考究するべきであるという立場から講義する。

## 日本史概説 I (古代・中世)

大野 達之助

大和朝廷の成立から飛鳥・奈良・平安・鎌倉・室町時代にわたって、政治、経済、文化の各分野について論述する。

〔教科書〕 新稿『日本史概論』(吉川弘文館)

## 日本史概説 II (近世・近代)

吉田 常吉

江戸幕府の幕藩体制の成立と崩壊への推移を述べ、明治政府の成立とその中央集権的統一国家形成への過程について概説する。

## 東洋史概説 I

阿部 肇一

古代より中世までの東洋の概略を講義する。

〔教科書〕 山崎宏『東洋史概説』(南雲堂)

## 東洋史概説 II

前田 正名

元・明・清の概説を行う。モンゴル族の興起・チンギス汗の建国から説きおこし、政治、経済、社会に重点をおいて、時期にしたがって説明し、できるだけ文化にも触れる。一応、アヘン戦争まで概説する予定である。

〔教科書〕 前田正名『東アジア史概説』(文化書房博文社)

## 西洋史概説 I

秀村 欣二

西洋史の前史としての古代オリエントの歴史、文化より説き起し、古典古代(ギリシア・ローマ)の政治・社会・経済・文化の特色と内容を解明し、その歴史の流れがヨーロッパ中世において、どのように継受され、展開していったかを跡づけたい。古代・中世の代表的な古典(文学・哲学・歴史)の解説、美術作品の鑑賞をも合わせて行なうつもりである。

〔教科書〕 秀村欣二編著『西洋史概説 第三版』(東京大学出版会)

〔参考書〕 講義のつど適宜指示する。

## 西洋史概説 II

椽川 一朗

西洋近代の歴史を、社会・経済史を基礎にして、政治および思想の面から講述する。

## 考古学概説Ⅰ(日本)

倉田芳郎

考古学研究の基礎知識を身につけるように、という点に立って講義をする。今年度は、ヨーロッパの考古学の発達に重点をおいて話す予定である。歴史学科学学生にとっては、概説の選択必修科目である。また、学芸員課程の学生にとっての選択必修科目でもある。年度第1回目の授業には必ず出席してほしい。特に教科書は使わない。

## 考古学概説Ⅱ(外国)

飯島武次

本年の考古学概説Ⅱ(外国)は、東洋(中国、朝鮮、東南アジア)における考古学研究について講義する。

〔参考書〕江上波夫『考古学ゼミナール』(山川出版)文物編集委員会『中国考古学三十年』(平凡社)

## 日本史学史

葉貫磨哉

古代から近世に至る歴史書の成立過程と、その概要について講義する。

## 東洋史学史

阿部肇一

中国史学史思想発展について、古代からの史書の概説を行う。

## 西洋史学史

石川澄雄

西洋史学の発達を概観する。1年間でまとめる短い講義であるから、受講者は、西洋史概説および文化史の知識を、十分にこなしたうえで出席されたい。史学史上の名著と、それが生み出された背景の紹介を中心とする。

〔参考書〕『概説西洋史』(東京創元社) その他年表、史料集(山川出版社)など。

## 考古学史

飯島武次

本年は東洋考古学史の講義を行なう。

〔教科書〕『新版考古学講座』10巻、考古学の歴史(雄山閣出版)

## 演習Ⅰ

大野達之助

『続日本紀』の天平八年からの史料講読

〔教科書〕国史大系本『続日本紀』前篇

演 習 II 大野 達之助

『続日本紀』の神護景雲元年から史料講読  
〔教科書〕 国史大系本『続日本紀』後篇

演 習 I 葉 貫 磨 哉

蔭涼軒日録の文正元年正月より日次を追って講読し、将軍義政時代の風俗・習慣・娯楽なども考える。また五山派の制度及び見学などもあって現地において読義する。教材はコピー、実費用意の事。

演 習 II 葉 貫 磨 哉

満濟准后日記の応永二年代を講読し、政治・宗教などのあり方を探る。教材はコピー

演 習 I 杉 山 博

記録を歴史研究にいかん使用するか。その実例を「快元僧都記」によって、具体的に検討したい。

〔教科書〕 プリント使用

演 習 II 杉 山 博

室町・戦国時代の各様相を検討し、あわせて卒業論文の指導を行う。

〔教科書〕 『日本の歴史 11』(中央公論社)(中公文庫) ¥ 540

演 習 I 箭 内 健 次

近世初期の重要な史料「当代記」「本光国師日記」「座長日件録」その他を用い当時の社会情勢を明かにすると共に史料解読力及び史料批判力を修得することを目的とする。

〔教科書〕 史料はプリントして配布する

演 習 II 箭 内 健 次

「折焚く柴の記」を用いて正徳期における諸問題を各自選んで発表し討論する。併せて卒業論文作成についての指導を行う。

演 習 I 所 理喜夫

「朝野旧聞哀藁」の影写本をプリントし、解説する。  
〔教科書〕 プリント

演 習 II 所 理喜夫

戦国期より、近世初頭にかけての、松平・徳川氏関係の古文書をプリントし、解説する。なおこの時間に卒業論文の指導も行なうので、受講者は四年生のみとする。  
〔教科書〕 プリントする

演 習 I 吉 田 常 吉

江戸末期の下級武士の手記により、その生活を考察する。解説力を養うため、手記原本を複写してテキストに使用する。

演 習 II 吉 田 常 吉

「山本政恒手記」により、徒士の修業・勤仕の状態を考察する。解説力を養うため、手記原本を複写してテキストに使用する。なお併せて卒業論文の指導を行う。

演 習 I 山 口 一 之

近代文書の解説を通じ、史料を位置づけ、批判力を培う時間になりたいと思っている。教材はこちらで準備する。  
〔参考書〕 児玉幸多『くずし字解説辞典』〔増補版〕（近藤出版社）

演 習 II 山 口 一 之

近代史の史料集を用いて、各自の研究報告と討論を行う。使用する史料集は最初の時間に示す。

演 習 I 阿 部 肇 一

「二十二史劄記」趙翼 講読および研究発表を行う。  
〔教科書〕 プリント

演 習 Ⅱ

阿 部 肇 一

「入唐求法巡礼行記」の講読および研究発表を行う。

〔教科書〕 プリント（東寺本）

〔参考書〕 『入唐求法巡礼行記』平凡社 東洋文庫版

演 習 Ⅰ

前 田 正 名

資治通鑑巻198 貞観二十年春正月辛未の条から解説する。テキストは前年度に引き続くが、学生諸君の自発的学習を重視し、学生各自が読み、これを補備訂正しながら授業を進める。使用するテキストは四部叢刊本をコピーして学生に配布する。

〔教科書〕 『資治通鑑』

演 習 Ⅱ

前 田 正 名

水経注巻二河水篇から講読に重点をおいて行う。学生は四年生であるが、前年度（三年生）において資治通鑑を講読しているので、それに引き続き漢文講読の力を養う目的で輪番に学生が読み、これを補備訂正して授業を進める。テキストは四部叢刊本水経注を用い、コピーして授業の初めに配布する。

〔教科書〕 『水経注』

演 習 Ⅰ

石 川 澄 雄

西洋近代史専攻希望の3年生を中心に指導する。英文を読むが、専攻の関係から、内容は中欧・ドイツ史中心になることを諒解されたい。邦文中テキストも併用の予定、最初の授業時に指示する。

演 習 Ⅱ

石 川 澄 雄

卒業年次生の卒業論文指導を兼ねつつ、近代西洋史関係の文献を読む。邦文テキストも併用して勉強を深めたい。プリント代実費必要。その他、最初の授業の折りに指示する。

演 習 Ⅰ

飯 島 武 次

史記における民間の経済記録である貨殖列伝（後半）を講読する。この演習は単なる漢文の授業ではなく、貨殖列伝の記載内容に考古学的な検討を加えることを目的とする。従って受講者は漢文講読としての予習はもとより、「考古学報」「考古」「文物」などの発掘報告、論文の予習も必要である。

〔教科書〕 『史記・貨殖列伝』プリント

演 習 II

飯 島 武 次

卒業論文の指導を兼ね、考古資料の調査研究を行なう。研究方法、発表方法については、最初の授業の折りに指示する。

演 習 I

椽 川 一 朗

ロック『市民政府論』（英文）講読。

演 習 II

椽 川 一 朗

ルソー『社会契約論』（仏文および英訳）講読。

演 習 II

倉 田 芳 郎

日本の6世紀から8世紀にかかわる考古学・古代史の論文・報告書を1篇ずつ選ばせ、論評するか、あるいは資料を調べて補強させ、考古学の方法を身につけるように仕向けたい。

演 習 I

加 藤 晋 平

J.G. Evans “An Introduction to Environmental Archaeology” を講読しながら、日本における新しい自然科学的手法を紹介する。

日 本 史 各 説 I

大 野 達 之 助

大和朝廷の成立から飛鳥時代、更に大化改新に及ぶまでの政治の推移、外交関係、氏姓制度、聖徳太子を中心とした仏教文化について詳述する。

日 本 史 各 説 II

杉 山 博

戦国大名としての後北条氏が発給した文書によって、関東地方の政治・経済・社会および文化の具体相を考察してみたい。

〔教科書〕 プリント使用

日 本 史 各 説 III

箭 内 健 次

前年度に引きつづき寛永期を中心として論ずる。とくに東アジアにおける中国を中軸とする秩序との関連において日本の「鎖国」を考察したい。

## 日本史各説Ⅳ

山口一之

この時間は日本近代史の色々な問題を取り上げて議義する心算です。

## 東洋史各説Ⅰ

前田正名

北魏前半期の首都平城について説明する。前年度と重複しないように主として交通路、物貨の流通、河北平野との経済的関係について史料をあげて講義する。

## 東洋史各説Ⅱ

伊瀬仙太郎

紀元前から13、4世紀ごろまでに至る、アジアの文化交流（日本をも含む）について概観する。

〔教科書〕 伊瀬仙太郎『世界文化交流史』（金星堂）

## 東洋史各説Ⅲ

酒井忠夫

中国の伝統文化の重要な要素である「道教」史上の諸問題について講述する。「道教とは何か」、「道教成立の政治史的・社会史的・事情」、「道教の地域史的研究」、「道教と宗教結社」、「道教の周辺地域への伝播」等について講じたい。道教は中国民衆の宗教であるから、講義を通して中国の民衆社会の特質、民衆意識の特徴を理解させるように努める。

〔参考書〕 『中国善書の研究』『道教の総合的研究』（国書刊行会）

## 東洋史各説Ⅳ

檜木野宣

中国史において官僚制が発生するのは、きわめて早い時期である。しかも、やがて中央集権的君主支配の政治体制が成立するとともに、独自の儒教的官僚制として整備される。そして、時代とともに発達し、その間に逐次採用されるこれも独自の任用制度と相俟って、独特な中国社会を形成するようになる。この点、中国史を特徴づける要素の大きな一つといてよい。このような中国史上の官僚制の沿革を考察して、中国史研究の一端に資することにした。

## 西洋史各説Ⅰ

中村道雄

主としてアメリカの独立と発展を、いわゆる“地理上の発見”・宗教改革以降の近代ヨーロッパ史との関連において考察する。西洋史専攻の諸君のみでなく、ひろく日本史・東洋史の諸君、教職希望者の受講を希望する。

〔教科書〕 授業時に指示するが、アメリカ史概説を購読しておくこと。

## 西洋史各説 I

椽川一朗

中世から近世に至るドイツの都市および農村の社会構造を論述する。

## 西洋史各説 II

石川澄雄

フランス革命時代およびそれ以降の近代史の諸問題を考察する。「近代」の歴史的意義を再検討してみたいので、概説的知識を十分こなしたうえで出席されたい。

〔参考書〕 「西洋史概説」の類を必ず下読みしておくこと。

## 西洋各国史 I

青木道彦

「エリザベス一世時代からステュアート朝時代へ」

ようやく大国スペインの脅威を逃れたが、その安堵もつかの間、経済や社会にも暗い影がさし、国王と議会の関係も微妙なものになり、やがてジェームス1世時代には両者の対立は明白になってくる。イギリス革命にむかって危機的な様相を深めて行く絶対王政の姿を具体的に考察してみたい。

実際の講義はエリザベス治世にいたるまでのテューダー王朝時代の概観から始めることになるであろう。

〔教科書〕 植村雅彦『エリザベスとその時代』〔創元新書27〕（創元社）

## 西洋各国史 II

石川澄雄

平易なドイツ文テキストで、ドイツ史を研究する。選択は4年次生に限定し、卒業学年生の卒論指導をも兼ね行なう予定。4年生は、開講時の指示に従って履修してほしい。

〔教科書〕 原書のリプリント中心

## 西洋各国史 II

椽川一朗

フランス史。

## ドイツ宗教改革

- (1) ドイツ宗教改革の諸前提
  - (イ) 神聖ローマ帝国の政治構造
  - (ロ) ザウゼン選帝侯領の政治と経済
  - (ハ) ヴィッテンベルク市の構造と行政
  - (ニ) ヴィッテンベルク大学の設立と構成
- (2) ルター伝—特に初期講義の発見と彼の神学的展開
- (3) ワイマール版ルター全集の編集とその構成
- (4) ヴォルムス国会とその勅令
- (5) ドイツ農民戦争とルターの態度

〔教科書〕 渡辺茂『ドイツ宗教改革—精神と歴史—』（聖文舎） ¥ 2,500

## 考古学各説 Ⅰ

飯島 武次

商周考古学研究についての講義

## 考古学各説 Ⅱ

近藤 英夫

南アジア世界における最初の都市文明であるインダス文明は、前三千年紀中葉におこり、前二千年紀前半には衰亡したと考えられている。その後、約一千年近い時間をへだてて、ガンジス河流域には、アーリヤ人による都市が形成された。この約二千年間に、南アジア社会の基層文化は醸成されたと考えられる。

本講義では、1. インダス文明論、2. 同文明衰亡後のインド社会の動向、3. ガンジス流域の諸都市、についてそれぞれ述べていく。その過程で、南アジア社会の基層文化の理解をはかっていきたい。

## 古文書学

今枝 愛真

古文書学の概説と解読法。テキストは随次示す。

## 古文書講読 Ⅰ

葉貫 磨哉

古文書の読解力を養うため、平易なものから次第に難解なものに及ぶ。コピーも折々に使用する。

〔教科書〕 『演習古文書選』（吉川弘文館）

## 古文書講読Ⅱ

久保田 真 継

戦国末期から江戸期の地方文書を、それぞれ基本的なものから解読し、史料としての古文書に慣れ、親しみながら歴史研究の基礎を養うことにつとめたい。

〔教科書〕 日本歴史学会編『演習 古文書選（近世編）』（吉川弘文館） ¥ 1,200

〔参考書〕 林英夫監修『古文書解説・解読字典』（柏書房） ¥ 3,000

## 古文書講読Ⅱ

所 理喜夫

織豊期から、近世末期までの古文書の解読と分析の方法について講述する。

〔教科書〕 日本歴史学会編『演習 古文書選（近世篇）』（吉川弘文館） ¥ 1,200

〔参考書〕 林英夫監修『古文書解説・解読字典』（柏書房） ¥ 3,000

## 日本史特講Ⅱ（中世）

今 枝 愛 真

葎軒日録講読

## 日本史特講Ⅲ（中世）

杉 山 博

外国人の見た日本の戦国時代を、フロイス「日本史」を検討することによって、具体的に研究してみたい。今回は、とくに昨年につづき「五畿内篇Ⅲ」を完読したい

〔教科書〕 松田毅一訳「フロイス日本史」5. 中央公論社刊 ¥ 1,700

## 日本史特講Ⅳ（近世）

箭 内 健 次

近世初期における特権商人について、その発生、分野、役割について述べ、その衰退に至る過程を個別に論述したい。

## 日本史特講Ⅴ（近世）

所 理喜夫

日本封建別論と近世国家論つき概述し、ついで松平・徳川氏権力の発展につき講述する。

## 日本史特講Ⅴ（近世）

土 肥 鑑 高

「米遣い経済」といわれる近世について、全国に目をくばりつつ、米の流通、統制などについてみ、さらに米商人の動向にふれたい。

〔教科書〕 『米と江戸時代』（雄山閣） ¥ 1,800

## 日本史特講 VI (近代)

吉田常吉

文久3年の政変から禁門の変に至る政治過程を講義する。

## 日本史特講 VII (近代)

山口一之

明治前半期の対外問題を取り上げて議義する予定である。

## 東洋史特講 I (中国周辺史)

伊瀬仙太郎

シルクロードを中心に、東トルキスタン(シンチャン・ウイグル自治区)の歴史を歴史地理学的に考察する。

〔教科書〕 なし

〔参考書〕 必要に応じ適宜指示する。

## 東洋史特講 III (中世史)

前田正名

歴史地理学の本質、方法論を説明し、事例をあげて研究例を示す。従来の東洋史学界に長く行われてきた伝統的歴史地理学から進んで、現今の人文地理学も取り入れ、今後開拓すべき新しい方法による東洋歴史地理学を提唱する。研究事例は主として西北辺境史を取り扱う。

## 東洋史特講 III (中世史)

岡本敬二

政治的にも文化的にも東アジアの歴史世界に大きな影響を与えていた中国の唐朝が衰退すると、契丹族・女真族などの諸民族が台頭して、新しい歴史の展開がみられた。やがて蒙古族によって、世界史的な大国家が建設され、東アジア歴史世界は大きく進転する。こうした問題について考察したい。

〔教科書〕 なし

〔参考書〕 適時に紹介する。

## 東洋史特講 IV (近・現代史)

楳木野 宣

清代の中国は前近代中国の最終の時期に位置し、近現代中国の直前の時期に相当している。このような清代の中国に関する諸問題、すなわち、大清帝国の建設、漢人の政治参加、社会文化の成熟、伝統体制の動揺、近代中国への移行などの諸問題を取りあげて検討し、近現代中国史研究への一前提、一助としてみたい。

## 東洋史特講 V (中央・西アジア史) 岡本敬二

古くから中央アジアは、ユーラシア大陸の東西文化交流の要路であった。最近広く宣伝されているシルクロードは、まさにこの地を通っている。この東西交渉は、モンゴル系諸民族の活躍によって一つの頂点に達する。こうした歴史的諸相を史料を通して考えてみたい。

〔教科書〕 なし

〔参考書〕 適時に紹介する。

## 西洋史特講 I 伏島正義

西洋史を専攻する学生諸君は、将来に備えて語学力を養うことが望まれる。この特講 I では、平易な英文をテキストとして、西洋史の概説的知識を身につけるよう、演習形式をとる。新2年生および北海道教養部からの3年生で、西洋史を希望する学生は必ず出席すること。テキストは第一時限目に指示する。

## 西洋史特講 II 前沢伸行

古代ギリシャ史において、文学史料と並ぶ重要な史料に碑文がある。本年度は、古拙期から古典期・ヘレニズム期にかけての代表的な碑文数点(テミストクレスの決議碑文など)を選んでこれに検討を加えて、歴史学の基礎をなす史料操作の手続(史料の分析を通して歴史的事実を再構成すること)を学びながら、ギリシャ=ポリスの形成・発展・変質をめぐる諸問題について考察する。碑文史料は、和訳したテキストを授業時に配布する予定である。

## 西洋史特講 III 秀村欣二

欧米の社会・思想・文化を理解する基盤となり、推進力ともなってきたキリスト教約2000年の歴史の流れを辿り、アジアと日本のキリスト教の歴史にも言及し、比較宗教史的なアプローチをも試みたい。

〔教科書〕 R.ペイントン著、気賀重躬・気賀健生訳『世界キリスト教史物語』(教文館)

〔参考書〕 講義のつど適宜指示する。





























































































































